

The background features a series of white, curved lines that sweep from the top right towards the bottom left, creating a sense of motion and depth. The lines are of varying thickness and are set against a light gray background.

競技会役員

総務

1 任務

総務は競技実施場所で起こっているすべてのことについて責任を負い、その任務については CR15 に記載されている。

競技会の規模に応じて総務員を置き、任務の一部を代行させることができる。

<主な任務>

- (1) 競技会を準備・管理し、競技会を順調に進行させる責任を負う。
- (2) すべての役員の任務遂行の状況を監視し、競技規則に精通していなければ、その代わりに指名する。
- (3) 新記録（日本・アジア・世界）が誕生した場合の記録公認要件の確認と、申請手続きに関して関係部署への連絡・指示を行う。
- (4) 各会議で変更になった事項や新たな決定事項があれば、競技会開始前に関係全部署に連絡、周知徹底を図る。
- (5) マーシャルと連携し、許可・権限のある者以外は競技場内に入れないように競技場内を規制・整理する。
- (6) 抗議・上訴がなされた場合に対応する（裁定は審判長、ジュリー）。
- (7) トラブルが発生した際の情報収集、関係部署も含めた対応策の検討を主導し、指示を行う。
- (8) 式典表彰の管理を行う。
- (9) 広告および展示物に関する規程が遵守されるよう、関係部署に指示を行う。

2 競技会準備段階での任務と留意点

準備段階からすべてに関与し、主催者や関係役員に対して大会・競技運営に必要な準備の指示を行い、進捗状況を管理する。必要に応じて、総務自らが対応する。

(1) 競技施設・用器具関係

① 公認競技場借用の申込内容の確認

- ・日時、借用器具、夜間照明使用可否、サブトラック借用有

無，雨天練習場借用有無等

・競技場備付用器具，会議室，控室等

② 競技場との打合せ

・開場・閉場時間，送付物の送付先，持込物品の搬入方法等

③ 競技会運営サポート業者等との打合せ

・用器具提供会社，情報機器提供会社，映像処理会社，広告代理店等

(2) 役員・補助員関係

① 競技役員の出欠状況確認，補充指示

・審判編成，審判員各人の経験・習熟度（場合によっては解任し，別の者を指名する）

・主要役員間での事前連絡指示，部署別準備状況の確認

② 補助員の割振り確認，補充指示

③ 大規模大会では「審判員必携」の作成指示，監修

④ 服装

・大会個別の指定服がある場合は各役員への周知，配布指示

(3) 競技規則関係

① 大会要項の決定，プログラムの作成指示

・大会要項，出場資格，競技注意事項，申合せ事項の確認

・申込状況（種目，組数，人数）の確認

・ラウンド，進出条件などの決定

・競技日程の決定

② 特に注意を要する事項の確認

・抗議対応

手順の確認と場所の確保

・ドーピング検査有無と準備状況

関係役員（NFR，DCO，シャペロンなど）の手配と検査場所の確保

・国際大会の場合は国際ルールの確認，関係者との打合せ

(4) 競技運営関係

① 主催者との各種打合せ。特に主催者が陸協以外の場合は，主催者の要望と競技運営の上での制約の調整が重要。

- ② 大会で使用する通信機器準備，審判部署間の通信網整備
 - ③ 報道対応
 - ・ TV中継がある場合は TV局との打合せ（放映時間，競技時間の微調整必要時の対応，映像，PA の場内利用等）
 - ・ 報道関係者対応の準備（ビブス，AD カード，取材エリア，会見場所，作業部屋，待機場所，通信回線等）
 - ④ 諸会議
 - ・ 監督会議，審判主任者会議等の実施計画
開催日時，場所，議題，決定事項の反映・伝達方法等
 - ⑤ PC使用の場合はデータ，PC不使用の場合は流し用紙の準備
 - ⑥ 記録用紙関係の準備
本連盟ウェブサイト
「日本陸上競技連盟が定めている記録用紙などの様式」
* <https://www.jaaf.or.jp/about/resist/athleticclub/form/>
 - ⑦ 各種計画書の作成・確認
 - ・ 進行計画（進行表）
 - ・ 式典表彰計画，プレゼンター一覧
 - ・ 競技場整備用具搬入計画
 - ・ 競技者係招集誘導計画表
 - ・ 荒天，地震発生等緊急時対応計画等
 - ⑧ 医療・治療体制の確認
 - ・ 医師の手配
 - ・ 救急措置時の手順（消防，病院，競技場からの搬出方法等）
 - ⑨ 広告ボード，場内広告掲示物の設置場所確認
 - ⑩ 道路競走・駅伝での各ポイント設置状況確認，実施に際しての道路使用許可，交通規制等について警察その他関係者との折衝状況確認
- (5) 庶務事項
- ① 物品，消耗品，賞品等の準備，管理
 - ② アスリートビブス準備，選手への配布方法
 - ③ プログラム準備，関係者への配布方法
 - ④ 競技会関係者昼食・飲料準備

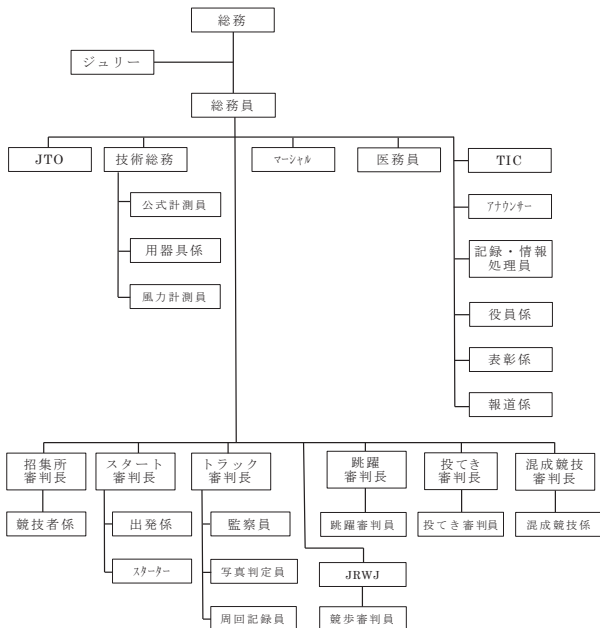
- ⑤ 来客・来賓，スポンサー対応検討
- ⑥ 道路競走・駅伝での競技役員輸送方法，随行車輛配置，競技役員間の連絡網整備，医師の手配，救急措置時の対応方法検討

3 競技会当日の任務と留意点

- (1) 競技場施設・用器具の準備状況
主催者，技術総務と分担して必要事項のチェック
- (2) 競技役員の集合状態の確認，補充措置
- (3) 抗議・上訴への対応
 - ① 総務，抗議担当総務員，審判長，ジュリー，TIC の役割分担の確認
 - ② 受付からの流れ，対応場所の確認
 - ③ 結果発表時間の確認
抗議に備えて，公式記録発表時刻の記録を指示しておく。また，あらかじめ，基準時刻は何にするかを決めておく（アナウンスか，大型映像表示か，掲示板への記録用紙の掲示か）。
- (4) 競技場内の規制・整理状況のチェック，マーシャルへの指示
 - ① 事故防止の観点から，練習場も含めて事故予防対策の徹底
 - ② トラック競技，フィールド競技ならびに競合する個所の規制・整理，特に投てき競技の危険防止対策の徹底
 - ③ コーチ席の確保
- (5) 掲示広告物のチェック
 - ① 広告ボードの位置，内容，スタンドでの展示物等のチェック
 - ② 広告および展示物に関する規程の違反物，競技運営の妨げになる物の移動，撤去指示
- (6) 審判長裁量（判断）事項への対応
原則，判断自体は審判長だが，運営上，その内容を共有する必要がある。
 - ① 競技時間・場所の決定・変更（再レースの時間設定等）
 - ② 警告・除外
 - ③ 失格
 - ④ 競技規則にない事項の審判長裁定
 - ⑤ 混成競技の組み合わせ変更

- (7) 新記録誕生時
 - ① 記録の保全（ゼロコントロールテスト写真，フィニッシュ判定写真，投てき物の再検査指示 等）
 - ② 記録申請に関する部署への連絡・指示
 - ③ 関係者のサイン徴求
 - ④ 記録原票の保管指示
- (8) ドーピング検査
 - ① 実施方法，検査場所の確認
 - ② 関係者への連絡
- (9) 進行状況確認
 - ① 競技進行（進行担当総務員），式典表彰（表彰担当総務員）
 - ② 招集状況
 - ③ 遅れが出た場合の回復方法の検討・指示
 - ④ 道路競走・駅伝では審判長，関門役員，移動審判員
- (10) 記録・情報処理員からの記録原票の受領保管，主催者に対する記録申請指示
- (11) 報道機関等への情報提供
 - ① 記録，資料
 - ② 記者会見等の設定
- (12) その他
 - ① 競技の判定に時間を必要とし，状況を説明した方がよいと思われるケースについての報道関係者，関係競技役員，チーム監督，競技者，観客への説明。説明方法，説明者，説明内容検討指示
 - ② 競技会前に準備したその他事項の実施状況確認

〈国内・主要審判関係イメージ〉



スタンドからの怪しげな撮影行為に対する対応

関係者以外の怪しげな撮影に対しては、以下のような対策が考えられる。

1. そのような撮影を可能にする場所は「撮影禁止区域」とし、張り紙などで周知する。
2. 仮に怪しい人物がいた場合、マーシャル、総務員などが撮影を遮るような位置で往復するなど、撮影が困難になる状況を作り出す。
3. 女子走高跳の着地場所はトラック側に設置し、直近のスタンド側からは背面しか写せないようにする。

4. フィニッシュしたランナーの腰ナンバー標識回収の際、できるだけ迅速にランナーをスタンドから見えない場所に誘導する。フィニッシュ後に倒れこんですぐに動けないような場合は、補助員（女性が好ましい）の協力を得ながら、できるだけ撮影を遮ることのできる位置取りをしてもらう。駅伝など道路競技の場合は、救護場所を幕で囲うなど外から見えないようにする。
5. 以下のような場所も可能性があるのですが、マーシャルや総務員は注意が必要である。

- ① 走幅跳・三段跳の砂場の競技者と対面する延長線上
- ② ハードルの正面
- ③ 障害物競走の水濠付近

とはいえ、当然善意の撮影者の場合もあるので「熱心に撮影されていますね。選手のご家族の方ですか（選手の学校関係者の方ですか）？」などの声掛けも牽制効果がある。

それでも続く場合は、「昨今は疑われることがあるので」と説明し、少し場所を移動してもらうなどの対応をお願いする。いずれにしても落ち着いて丁寧に対応することが肝要であり、家族や競技関係者であればすぐに理解してくれるであろう。

体調に異常をきたした競技者への対応

先ほどから呼吸が荒く、大量の汗をかいて走行（歩行）していた競技者が、ふらつき、コースを逸脱し始めた……。転倒した競技者がそのままうずくまり、動けない状態が続いている……。

近くにいる競技役員の貴方はどのような行動をすべきであろうか？

TR6「助力」では、「主催者によって任命された医師は競技者の生命・身体保護の観点から、競技の中止を命じることができ、審判員や公式の医療スタッフが声掛けをしたり、介護のために身体に接触したり、競技者が立ち上がったたり医療支援を受

けたりするための身体的な手助けをすることを助力とは見なさない」としている。

「下手に声掛けや身体に接触してしまい、それが原因で競技者が失格になったら……」と懸念する声もかつてはあったが、何より競技者の生命・安全を保護する姿勢を第一に持ち、勇気ある行動が望まれる。

競技場内で発生した場合、即座に審判長または医師の判断により、競技の中止が決定されるが、道路競技においては、必ずしも審判長や医師がそばにいるとは限らない。そういった場合、現場の審判員から審判長や医師に現況が報告され、対応の指示を受けて措置できる体制作り、連絡網の整備が必要である。

また、大会要項や競技注意事項、監督会議等を通じ、緊急事態発生の際には、審判長や医師の判断により、競技を中止させることがある旨を周知徹底しておく必要がある。

何より道路競技における監察員の仕事は、観客の整理やコースの整備だけでなく、選手の観察も重要な任務になっていることを認識していただきたい。

進行担当総務員

1 任務

進行担当総務員の任務は、CR15〔国内〕に記載されている総務の任務の中で、競技会進行に関する部分について分担し、代行することである。

競技日程に合わせたスムーズな運営が行われるよう、競技会進行に関するあらゆる情報を収集し（集約させ）、関係部署間での連絡調整やトラブル発生時の対応を指示する等の役割を担う。

進行担当総務員の任務分担や人数は、競技会の規模や性格、競技種目数、日程などを勘案して決める。特に大規模競技会においては、一つの種目を行うのにも複数部署の多くの競技役員が関与することから、関連する部署間の連携を密接なものにするために、進行担当総務員の配置が不可欠となる。

大規模競技会では、以下のように複数の担当者で役割分担することがある。

- ・総括担当（全体進行担当）
- ・トラック進行担当
- ・フィールド進行担当（跳躍担当、投てき担当）
- ・式典表彰担当

2 任務分担と留意点

無線やインカムなどの通信機器が備わり、関係部署へ瞬時に連絡できる手段が確保されている場合には、各進行担当総務員は、なるべく全体の流れが見渡せるスタンドの最上階に位置し、アナウンサーと同席した方がよい。

以下、大規模競技会で進行総務員が複数配置され、任務を分担する場合を想定し、その任務ごとに留意点を述べるが、ほとんどの競技会ではこれを一人ないし二人体制で行っていることが多いため、任務内容の項目建てとして理解するとよい。

(1) 総括担当進行総務員の任務と留意点

- ① 競技会の準備段階において、イベントプレゼンテーションマ

ネージャー（EPM）の役割も一部担いながら、主として競技日程の円滑な進行という観点から総務に各種進言を行い、了承と委任を受ける。

(a) タイムテーブルの検証と調整を行う

タイムテーブル設定の段階で調整ができればよいが、それができなかった場合、複数の種目で競技開始時刻が重なることが多い。その場合、どの順番で競技を開始するか現場との調整が必要となる。また、表彰式は観客の注目が特定の競技に集中している場合は避けるなど、タイミングにも配慮する

(b) 大型スクリーンを使用する場合の映像や文字情報の内容の確認、アナウンサーの役割の事前調整をする。

どのような映像を映し出せるのか、担当者に確認しておく。アナウンサー主任とアナウンスの方針、用語の統一、選手紹介はどのラウンドからか等のアナウンス内容の打合せをしておく。

(c) 進行計画表を作成し、総務の承認を得た上で、主要競技役員へ配布する

進行計画表は、トラック競技担当とフィールド競技担当と分担して作成することがあるが、必ず総括担当が全体の流れをチェックして確定する。

(d) 観衆・テレビ中継の対応をする

大型スクリーンにトラック競技の写真判定中の結果やフィールド競技の途中経過を表示する場合には、その運用方法などについて、関係部署と確認をしておく。競技役員アナウンサーによる場内インタビューが行われる場合はカメラ位置や音声の調整をしておく。テレビ中継が行われる場合、中継局ディレクターとの連絡調整も行う。

② 競技中に発生しうるすべての事項について状況を把握し、総務（担当総務員）と連携し、競技日程が順調に進行するように各部署との連絡調整を行う。

全体を見渡せる高い場所にいる場合は特にその利点を生かし、レース途中に選手が倒れてしまう等の突発的なことが起こった場合には、関係部署へ速やかに連絡するなどして、臨機

応変に対処する。そのために次のようなことを把握しておく。

- (a) 競技役員，補助役員の配置状況
- (b) マーシャル，場内整理の状況
- (c) 競技者係，招集所の状況
- (d) 記録・情報処理員の作業状況
- (e) アナウンスならびにアナウンス方法
- (f) 表彰方法，賞状・記念品の確認
- (g) 医師，救急関係措置
- (h) 報道係との連携をとりながら報道関係との折衝，インタビューなど報道に関する措置
- (i) 雨天，荒天対策として選手紹介方法の変更等，出発係やフィールド競技役員との連携
- (j) イベントプレゼンテーション的要素に関する各技術担当者への対応
 - ・ファンファーレ，BGM使用時の音響担当との連携
 - ・大型スクリーンへのライブリザルト，リプレイ（VTR）表示の映像担当との連携
- (k) システムトラブル（信号器，写真判定装置，光波距離計測装置，記録情報等）発生時の対応

(2) トラック競技・フィールド競技担当進行総務員の任務と留意点

- ① トラック競技・フィールド競技双方の競技の進行状況，競技役員の配置・活動状況，参加競技者の誘導ならびに練習状況，施設用器具の設置状況などを詳細にチェックし，競技会全体の流れを把握することが求められる。
- ② トラック競技の場合は1組毎の競技開始・終了・速報・記録発表時刻等を記録する。フィールド競技の場合は，入場・練習開始・競技開始・競技終了時刻，各ラウンドの所要時間，試技回数，記録発表時刻等を記録する（補助員に記録させてもよい）。とくに正式結果の発表時刻の記録は，抗議に備えて重要である。

計画通りに競技が進行しないことも多いが，その場合は計画

に縛られることなく、見せたい場面に観衆が注目できるよう配慮する。

フィールド競技の最終局面や大会新記録への挑戦などとトラック競技が重なる場合は、トラック競技のスタートを遅らせてフィールド競技に注目させる必要も出てくる。その際は早めに出発係と連携を取り、トラック競技選手への的確な指示を出せるようにする。日程通りに競技会を進めていくことだけにとらわれ、見せたい場面をタイムリー見せられなければ、魅力ある競技会とは言えない。

トラック競技担当

- ① 1組毎の競技開始・終了・速報・記録発表時刻などを進行計画表に記録しながら競技日程が計画通りに進んでいるかを確認する。遅れが生じやすいトラック競技では、組ごとではなく種目単位で考え、次の種目の開始時刻に遅れを出さないように、あるいは最小限の遅れで済むように、レース間の無駄な時間を省くよう指示を出し、少しずつ回復へ向けていく。

タイムテーブルが決められているトラック競技に偏重しがちだが、トラック競技の予選とフィールド競技の注目させたい場面が重なった場合、迷わずフィールド競技を選んで観衆にアピールすることができる判断力が求められる。

フィールド競技に注目を集めたい場合は、トラック選手のスタート練習開始や、スタートライン整列のタイミングを遅らせるなど、出発係へ細かく連絡をして調整を図る。その際には、試技時間の残りから予測を立て「〇分遅らせてほしい」というように具体的な時間を示す方が良い。

今起こっていることを的確に捉えて、優先順位をつけて「魅せる」競技会を意識する。

- ② 競技日程の遅れなどから、スタート地点の待機場所に競技者が多く停留しないよう、予定とは違った誘導をする場合がある。基本的には競技者係と出発係との連携で対応するが、進行からの指示が必要な場合は、状況を確認して指示を出す。
- ③ レース前後の情報がスクリーンに適切に表示されているかを

確認するとともに、全体を見渡せる高い場所にいる場合はプレイクラインマーカー・周回表示板・コーナートップ旗・スターティングブロックやレーンナンバー標識などの設置・撤去がタイムリーに行われているかなど関係部署の連携がスムーズに行われているかを確認し、必要であれば指示を出す。

- ④ レース終了から写真判定中の速報（ライブリザルト）・正式結果発表まで、タイムリーにできているかを確認する。

フィールド競技担当

- ① 種目毎の入場・練習開始・競技開始・終了・記録発表時刻等を進行計画表に記録しながら競技日程が計画通りに進んでいるかを確認する。
- ② 同じピットで行われる種目で、前の種目が長引き競技場所に選手が多く残っている場合は、次の種目の入場を遅らせるなど、必要があれば競技者係やフィールド競技役員に指示を出す。
- ③ 風向風速も含めた競技中の記録表示板の位置や表示時間は観客が情報を得やすいものかを確認しておく。TOP8の発表のタイミングや発表方法はフィールド競技役員と事前に打合せをしておく。
- ④ 試技途中の経過発表や競技終了後の結果発表は、タイムリーにできているか確認する。

(3) 式典表彰担当進行総務員の任務と留意点

式典表彰が計画通りに行われ、競技進行に支障をきたすことのないよう、勝者を称え厳かな表彰・式典となるよう、たえず細かい配慮をする。特に競技者及びプレゼンターの氏名・所属・肩書等については、読み間違いがないよう、十分に注意する。担当総務員は、事前に内容を確認したうえで、担当するアナウンサーと情報共有を行う。

また、表彰進行計画表を作成、携帯し、競技開始、終了、結果発表、表彰開始、表彰終了時刻等を記録する。

- ① 表彰係と共有する表彰要項を作成する。
- (a) 表彰実施予定時刻・所要時間

(b) 表彰方法

- ・表彰対象は何位までか
- ・表彰の順序は上位からか下位からか
- ・選手権章・賞状・メダル・優勝杯・花束・副賞等渡すものは何か
- ・記録は読むのか、読むなら何位を読むのか
- ・控え場所から入場，表彰台，退場の導線
- ・リレーの賞状等の授与は全員か代表者か

(c) 表彰者（プレゼンター）リスト

- ・氏名，肩書，読み方
- ・陸上競技経験者の場合のプロフィール

(d) 表彰の流れ

受賞者が揃った段階で「次の組がフィニッシュしたら」「5000mがスタートしたら」等と具体的に表彰のタイミングを指示する。プレゼンターには、アナウンスコメントに合わせて対象者へ渡してもらおうよう表彰係を通して依頼する。表彰後にフォトセッションがある場合でも、他の競技が行われている際には表彰式の終了コメントをもって後の流れは表彰係に引き継ぐなど、表彰係との認識を合わせておく。音楽担当者がいれば、音出しの指示をする。

(e) 雨天時の表彰方法

表彰場所の変更がある場合は、観客や必要ならば報道係を通して報道関係者へも知らせる。また、表彰時に競技の様子の映像を流すこともあるので映像技術担当者に確認をしておく。

- ② アナウンサー主任に表彰アナウンス原稿の作成を依頼し、内容の確認をしておく。

3 競技日程の遅延原因

一つの種目を実施するにも、多数の審判員がそれぞれの分担した任務で行動するのが陸上競技会の特徴であり、競技会の円滑な運営には、審判員相互の連携が必要である。一か所でも任務が滞れば全体が遅延することとなり、競技者だけでなく、観衆にとっても集中

を欠いた盛り上がらない競技会となってしまふ。

以下は、過去の事例から競技日程の遅延の原因となった事柄である。原因を探り、遅れの回復の手立てを見つけ出すことに役立ててほしい。

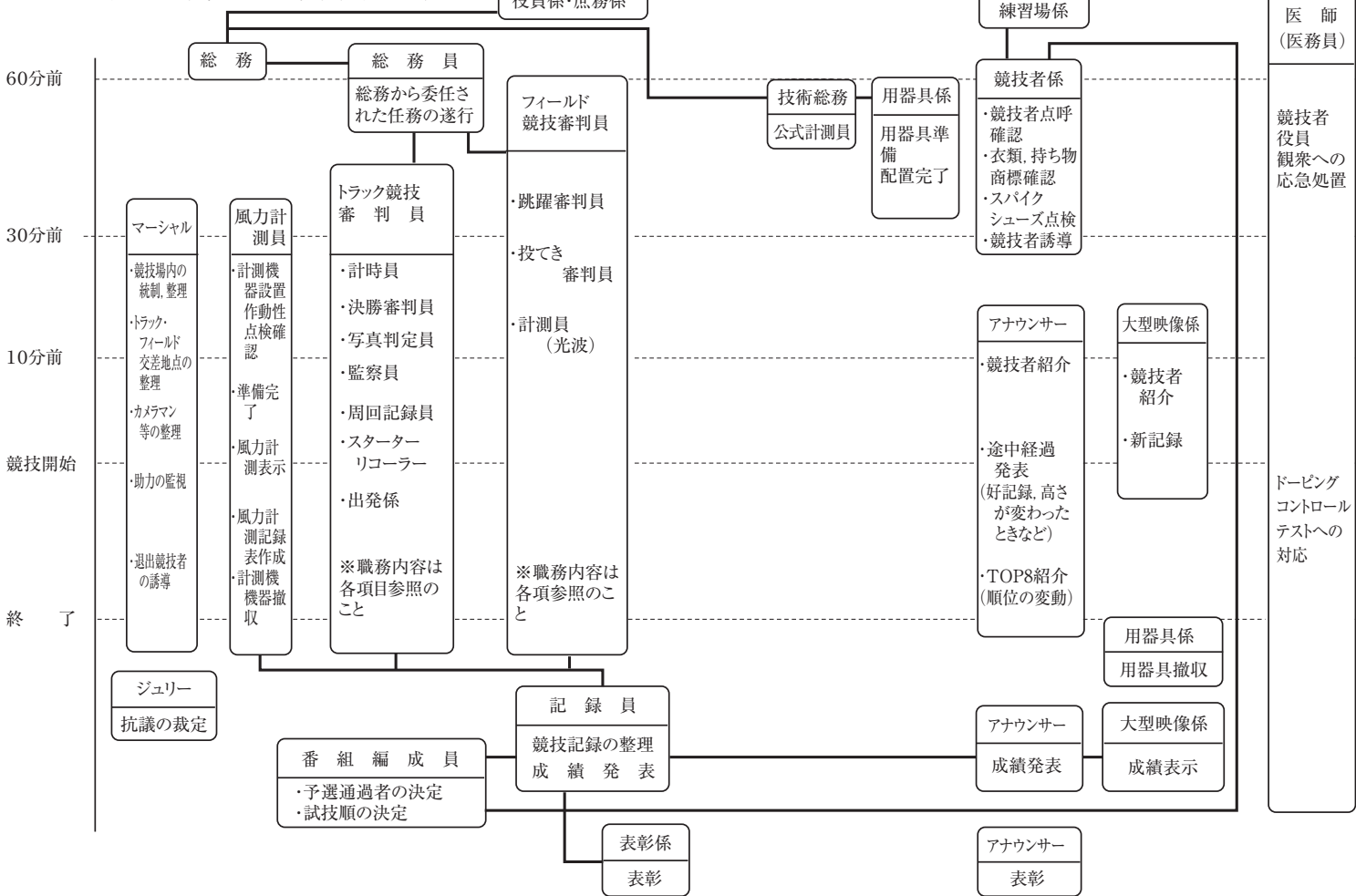
- ① 競技日程作成時の検証不足
- ② 競技役員の集合時刻設定が遅いことから発するすべての部署の準備遅延
- ③ 招集完了時刻の不適正や人手不足などによる招集業務の遅延。リレー種目では各コーナーへの誘導にも影響が出てくる。
- ④ 番組編成用紙、スタートリスト配布の遅延
- ⑤ 雨天荒天時
- ⑥ トラック競技

ライン引き直し・スターティングブロック・バトン・ハードルの置き間違い等、写真判定システムの不具合や微妙な判定、スタート関連の連携の滞り等

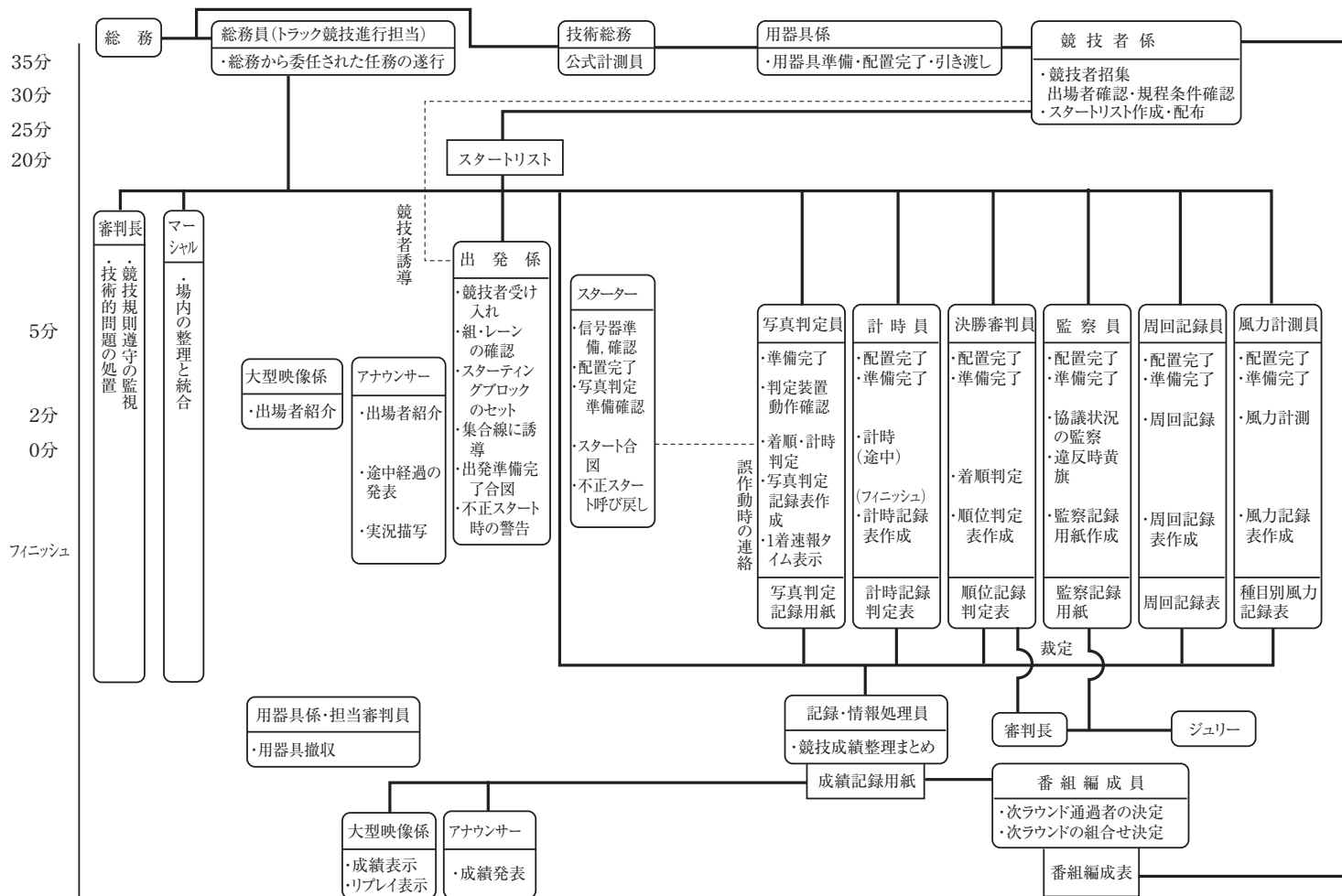
- ⑦ フィールド競技

誘導の遅延、練習方法の徹底不足、選手紹介や練習開始時の要領の共有不足、呼び出しのタイミングの悪さ、砂場ならしに時間がかかる、試技時間のカウントダウンを競技者に合わせている、TOP8選定の不手際、EDMや支柱の故障等。

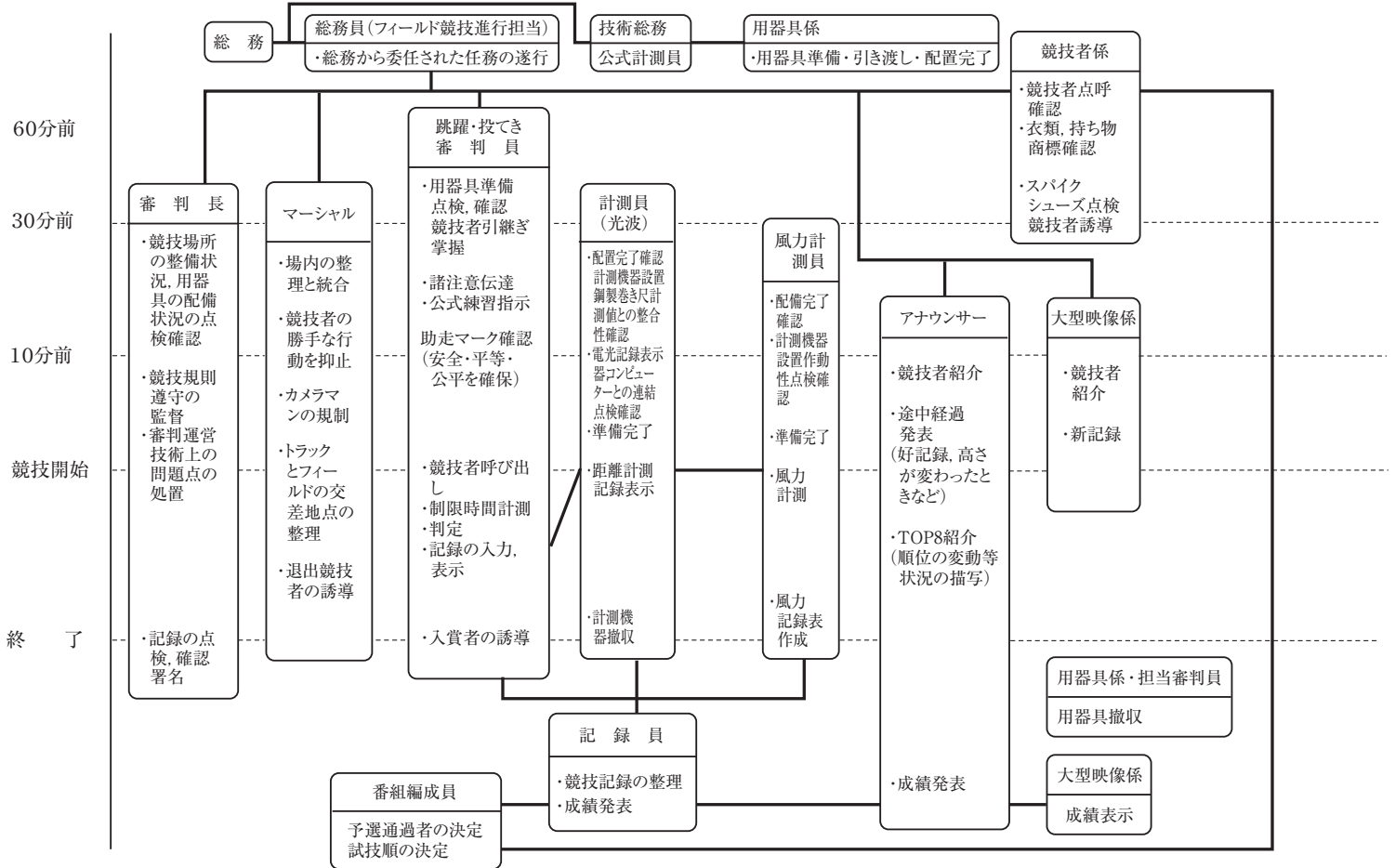
競技の進行と総務系統競技役員間の連携



トラック競技の進行と競技役員間の連携



フィールド競技の進行と競技役員間の連携



総括進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会進行表)

第3日目 6月12日(日)

TV放映 NHK総合:16:00~18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技					S	映	速	R		
					誘導時刻	競技紹介	スタンプ	予定時刻							
					招集	アナ	出発	アナウンス							
14:30															
	14:45	女 100mH 準決 (2-4)	1組	8											
	14:51	女 100mH 準決 (2-4)	2組	8	14:30	14:42	14:43	43	46	46	47				
	14:55	女 100mH 決勝リスト発表				14:48	14:49	49	52	52	53				
15:00															
	15:15	男 100m 準決 (2-4)	1組	8											
	15:21	男 100m 準決 (2-4)	2組	8	15:00	15:12	15:13	13	16	16	17				
	15:25	男 100m 決勝リスト発表				15:18	15:19	19	22	22	23				
15:30	15:30	女 400mH 決勝	1組	8	15:15	15:27	15:28	28	32	32	33				
	15:45	女 800m 決勝	1組	8	15:30	15:42	15:43	43	48	48	49				
16:00	16:05	男 800m 決勝	1組	8	15:50	16:02	16:03	03	08	08	09				
	16:15	男 400m 決勝	1組	8	16:00	16:12	16:13	13	16	16	17				
16:30	16:30	女 200m 決勝	1組	8	16:15	16:27	16:28	28	31	31	32				
	16:45	女 100mH 決勝	1組	8	16:30	16:42	16:43	43	46	46	47				
17:00	17:00	女 5000m 決勝	1組	21	16:45	16:55	16:57	57	17:18	17:18	17:20				
		スタート後紹介				16:58	16:59	17:00	17:18	17:18	17:20				
	17:25	男 5000m 決勝	1組	44	17:10	17:20	17:21	21	41	41	46				
17:30		スタート後紹介				17:23	17:24	25	41	41	46				
	17:50	男 100m 決勝	1組	8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52				
18:00															
18:30															
19:00															

S: スタートリスト紹介, 映: リプレイ, 速: 記録速報, R: 結果報告, Eは掲示終了, 数字は発表時間

S	R	実行時刻	表彰	大型掲示			時刻	フィールド競技					表 彰	
				S	R	E		跳躍		投てき				
				人数	男走高跳	女走幅跳		女円盤投	男砲丸投	男やり投				
			表彰	大型掲示板			14:30	22	19	16	13	22	30女:円盤投	
							14:30	競技開始		招集完了				
									練習開始					
							14:50					招集完了		
							15:00					00表彰	練習開始	00男:砲丸投
							15:15	13	17					
								19	23					
							16:18	28	33				紹介	
													競技開始	
							16:22	43	49					
							16:48	03	09					
							16:51	13	17				18女:400mH	
													22女:800m	
							18:15	28	32					
							17:30	43	47				48男:800m	
													51男:400m	
							17:43	57	17:20					
								17:00	17:20					
							18:11	21	46				競技終了	
								25	46				結果発表	
													30女:100mH	
													43女:5000m	
							18:25	48	52					
							18:00	00表彰	03表彰				00男:走高跳	
													06男:やり投	
													11男:5000m	
													15女:200m	
													25男:100m	
							18:30							
							19:00							

競技会役員

フィールド競技進行表の例① (第94回日本陸上競技選手権大会跳躍進行表)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
14:30	男 走高跳	B	22	予定時刻	13:30	13:40	13:50	13:52	13:55	14:25	14:30	2m05
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 2m33(2006:9099日本選手権) 池田成幸(富士通) 大会記録:同上			館前成幸 PB 2m33 3連覇を含む5回優勝 高張広海(日産CT)PB 2m24 前年度優勝 尹達 直人(筑波大)PB 2m24 土屋 光(トヨタ) PB 2m25 92回大会優勝				
15:15	女 走幅跳	メイン	19	予定時刻	14:15	14:25	14:35	14:40	14:45	15:10	15:15	15:15
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 6m82(2006:国際GP大阪) 池田(現:井村)久美子(XXI) 大会記録7m09(7回) R.ペレズ(チヤン) 日本人最高:6m82(85回)花岡麻帆(office24)			井見 咲智子(九電工)PB 6m65 山 沙英子(山口TFC)PB 6m56 井村(田:池田)久美子(IDEAR) SB:6m54				

競 技								結 果		備 考
2回目開始	3回目開始	3回目終了	トップ8発表	4回目開始	5回目開始	6回目開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	
2m10	2m15	2m19	2m22	2m25	2m28					18:00
15:35	15:55	16:15	16:18	16:20	16:30	16:40	16:50	1'35	16:55	18:03

フィールド競技進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会投てき進行表)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
12:30	女 円盤投	A	16	予定時刻	11:30	11:40	11:50	11:55	12:00	12:25	12:30	12:30
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 58m62(2007:中部実業団) 栗(伏由佳)(XXI) 大会記録59m94(75回)関幸恵(中国) 日本人最高 56m36(88回) 栗(伏由佳)(XXI)			栗(伏由佳:9連覇中(全11回優勝))				
13:00	男 砲丸投	B	13	予定時刻	12:00	12:10	12:20	12:23	12:25	12:55	13:00	13:00
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 18m64(09:新潟国体) 山田社太郎(法大) 大会記録 18m56(909回) 池田 聡(綜合学大) 池田 聡(綜合学大)			山田社太郎(富士通)PB 18m64 池田 聡(綜合学大)PB 18m56 井川雄平(XXI)浜松AC)PB 18m63 大橋 忠訓(トヨタ)PB 17m94				
15:30	男 やり投	A	22	予定時刻	14:30	14:40	14:50	14:55	15:00	15:25	15:30	15:30
				実施時刻								
				見所有望選手	日本記録 87m60(1989:国際GP) 藤口和洋(びーびー心) 大会記録 81m70(73回) 藤口和洋(びーびー心)			村上 華史(XXI)浜松AC)PB 83m15 11連覇中 ティン 元昊(早大)PB 79m10 市 藤七十七(銀行)PB 78m86				

競 技								結 果		備 考
2回目開始	3回目開始	3回目終了	トップ8発表	4回目開始	5回目開始	6回目開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	
12:45	13:00	13:15	13:18	13:20	13:30	13:40	13:50	1'20	13:55	14:30
13:15	13:30	13:45	13:48	13:50	14:00	14:10	14:20	1'20	14:25	15:00
15:55	16:20	16:45	16:48	16:50	17:00	17:10	17:20	1'50	17:25	18:06

インカム配置の例（東京国体）

MMM		有線				有線・無線				トランシーバー	PHS
		1	2	3	4	5	6	7	8		
1	総務統括								SS-8		1
2	技術総務								SS-8		1
3	ジュリー（上訴）								SS-8		
4	トラック審判長					BR-5					
5	跳躍審判長									1ch	
6	投てき審判長									2ch	
7	進行統括								BP-8		
8	トラック進行			SS-3		SS-5		SS-7			
9	フィールド進行	SS-1	SS-2								
10	表彰進行				SS-4						
11	フィールド 1・跳躍	BP-1									
12	フィールド 2・跳躍	BP-1								1ch	
13	フィールド 3・跳躍	BP-1									
14	フィールド 4・投てき		BP-2								
15	フィールド 5・投てき		BP-2							2ch	
16	写真判定					SS-5	BP-6				
17	スター・リコー						BR-6				
18	スター・リコー						BR-6				
19	監察主任					SS-5	BP-6				
20	監察 1					BR-5					
21	監察 2					BR-5					
22	監察 3					BR-5				3ch × 6	
23	監察 4					BR-5					
24	出発 1							BR-7			
25	出発 2							BR-7			
26	競技者 1（トラック）			BP-3							
27	競技者 2（フィールド）			BP-3							
28	マニアル（場内指令）									4ch × 6	1
29	記録室					SS-5		SS-8			
30	周回記録					BP-6					
31	ミックスゾーン										1
32	用器具 1							BP-8			
33	用器具 2							BP-8		5ch × 3	
34	表彰				BP-4						
35	ドーピング室										
36	練習所										2
37	駐車場										1

	使用数	残	合計
BP（フィールドバック）	14	1	15
SS（スピーカーステーション）	13	2	15
BR（アレスト）・無線インカム	9	7	16
PHS	7	0	7
トランシーバー	19		

技術総務

1 任務

技術総務は、競技会ディレクターまたは総務の指揮の下で行動する。任務については、CR16に記載されている。

国際競技会では、技術総務の下に複数の担当者をおき、チームで任務にあっている。国内競技会では技術総務の任務の一部を公式計測員〔国内〕CR39〕に任せている競技会もある。公式計測員は、2018年にWAの競技規則から削除され、日本独自の審判となっている。

- (1) トラック、助走路、サークル、円弧、角度、フィールド競技の着地場所および用器具が競技規則に合致しているかを確認する (CR16.1.1)。
- (2) 技術代表によって承認された競技会の技術的・組織的計画に従って用器具が準備され、設置・撤収することを確認する (CR16.1.2)。
- (3) 競技場所の設備や用器具等が前述の計画に従っていることを確認する (CR16.1.3)。
- (4) TR32.2に従って、競技会に許可された個人の投てき物を検査し、マークを付ける (CR16.1.4)。技術総務の担当あるいは〔国内〕公式計測員が行い、報告をする。主催者が用意した投てき物リストに掲載されていないものであることも確認する。国内競技会では技術総務が特に決めない限り、2個までの持ち込が認められる。
- (5) TR10.1に従って、〔国内〕公式計測員〔国際〕有資格計測員から必要な証明書を受け取る (CR16.1.5)。本連盟で公認競技場及びWA認証競技場の検定をしている。検定報告書を競技場に閲覧できるようにしておくとい。国際競技会はWA公認競技場で行われるので、その報告書を閲覧できるようにしておく。

〔国内〕

1. 国内競技会での公認競技場は、公認競技会を開催し得る十分

な精度のある適切な施設であることを確認した報告を受ける。公認競技場の検定報告書を競技場に閲覧できるようにしておくといふ。

2. 投てき用器具の確認は、副技術総務の担当あるいは公式計測員（CR39）が変わって行い、報告を受ける。
3. 技術総務の直接指揮下に、用器具係をおき、用器具係には各競技に必要な用器具を整備させ、開始前に配置、終了後に撤収させる。
4. マラソンコース、競歩コースが公認計測されたとおりに正しく整備されているか確認する。スタートライン、コース表示版、km表示版、中間点、折り返し点標識、関門の用具・機材、競技に支障となる箇所のコーン等の位置、給水・給食の設置等を確認する責任を負う。公式計測員が配置されているときには、連携して業務を行う。

2 競技会前の準備と留意点

- (1) 使用される競技場が、公認競技会として開催されるのに十分であるかどうか事前に調査をする。競技の実施が可能であるかどうかを技術総務、副技術総務あるいは〔国内〕公式計測員が確認する。もし、不都合なものがあれば、競技場管理者と折衝して整備を依頼する。
- (2) 競技場の機器、機材が使用するに可能な状態かどうか、用器具係に調査検討させ、不十分なものについて競技場管理者に整備を依頼する。
- (3) 常備用器具については競技場管理者の了解を得て用器具係に検査させ、使用可能なものとその他のものを区別する。また競技会の規模に応じて、その使用個数を決定し、不足する場合には補充の計画をする。
- (4) 競技実施種目および競技開始時刻が決定したら、競技場管理者にできる限り早く連絡し、用器具の借用と諸準備を依頼する。
- (5) 出場する競技者の記録から投てきの距離ラインを決定する。
- (6) 用器具係から、プログラムに基づく運営進行表を提出させて、競技の円滑な進行を図る。

- (7) 主催者に許可された個人の投てき物の持ち込み方法、返却方法を総務、技術総務、副技術総務の担当あるいは公式計測員と決定する。TICで受付、返却する。返却間違いの可能性があるので、投てき場では返却しない。
- (8) 道路競技では、距離ポイントを確認すると共に使用する用具の手配、確認をする。

3 競技開始前の準備と留意点

- (1) 緑石、スタートライン、フィニッシュライン、テイクオーバーゾーン、助走路の状況、投てき場所の角度線、投てきの距離ライン等を確認する。
- (2) 跳躍審判長と協議し、跳躍場所をあらかじめ決定する。
- (3) 投てき審判長と協議し、投てき場所をあらかじめ決定する。
- (4) 任命された競技役員に競技場の諸施設、用器具等の準備状況を説明する。そのためには現地の報告に頼らず準備段階で実査・確認しておくべきである。
- (5) 用器具は、用器具係主任に引き渡す。
- (6) 特に雨天時における準備態勢や危険防止の措置（ハンマー投の防護ネット、危険エリアへの立ち入り禁止措置）などの用意も必要である。走路、助走路の雨水除去方法も、用器具係を指揮して措置する。
- (7) 副技術総務の担当あるいは公式計測員、用器具係から、それぞれの役割分担について報告を受け、正しい状態で競技が実施できることを確認し、その旨を各審判長と総務に連絡する。
- (8) 道路競技では、競技開始前に技術総務車で出発して、競技に支障となる箇所のコーン等の位置、スタートライン、フィニッシュライン、折り返し点、中間点、5km毎のポイント、給水・給食の設置等のポイント、ラインがマークされていることなどを確認する。

4 競技中、競技終了後の留意点

- (1) 競技進行中は全体を監察し、たえず審判長や総務と連携を取り合い競技の円滑な進行を図る。

- (2) 競技実施場所を変更する場合は、審判長、総務、各総務員などと連携し対応する。ただし、風の強さや風向きの変化は競技実施場所を変更するのに十分な条件ではないことを認識しておく必要がある（TR25.20〔注意〕）。
- (3) 投てき競技において、世界記録、エリア記録、日本記録、U20・U18日本記録、室内日本記録、室内U20・U18日本記録が達成された場合には、副技術総務の担当あるいは公式計測員が達成されたときに使用した投てき物の再検査を実施しなければならない（CR37.17.4）。競技者がどの投てき物を使用したか、担当投てき審判員は記録しておく必要がある。
- (4) 使用した競技場の機器、機材、用器具が正しく返却されているか確認する。また、不具合や故障、破損などの報告を受け、競技場管理者に報告し、対応を協議する。

5 パラ陸上の留意点

パラ陸上の競技規則はWAの競技規則に基づくが、パラ陸上独特の競技についての競技規則はWPA（World Para Athletics）の競技規則で定められている。パラの競技役員と確認しながら、間違いのないようにするべきである。

特にパラ種目では、以下のことに特に留意する。

- (1) WPA 公認大会は国際競技規則を適用して行われる（国内適用は適用されない）。
- (2) 車いすの競技者のリレー競走ではテイクオーバーゾーンが40mとなる。事前にテイクオーバーゾーンの入口のラインの設置が必要である（出口のラインは変わらない）。競技場には40mの位置はマーキングされていない。公式な種目として行う場合は、曲走路では、所定の角度から設置しないと正確な位置が設置できない。
- (3) 視覚障害のクラス（T11 および T12）レーンのすべてまたは一部を走るトラック種目、車いすの競技者が含まれるリレー競走については、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるために、スタートラインの延長を行う。奇数レーンを割り当てて実施する（例：第3レーンのスタートラインを第4レーンに延

- 長する。競技者には2レーン分が割り当てられる。第3レーンとしてレースが実施される)。また、ユニバーサルリレーにおいても、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるため、テイクオーバーゾーンのラインも延長する。このとき第4走の車いすのテイクオーバーゾーンは40mとなる。
- (4) WPA競技規則「最初の50mで競技者の衝突が起きた場合にスターターが呼び戻しを行う権限を有する」とあるので、800m以上の車いす競走においては、最初の50mで競技者の衝突が起きた場合にスターターが呼び戻しを行う場合があるので、スタートから50mの位置をマークしておき、マークにコーンを置く。
- (5) 車いす800m競走において、危険回避のために、ブレイクラインにコーンや角柱は置かない。その代わりに、高さ1.5mの旗をインフィールドとトラック外側に設置する。また、50mm×50mmの色付きの平らなマーカー（ガムテープでもよい）をブレイクラインに置くことができる。
- (6) 視覚障害のクラス（T11およびT12）の走幅跳は、1.00m×1.22mの長方形のパウダーゾーンが踏切エリアとなる。また、砂場の幅は安全確保のため、幅3.5mが強く推奨されている。3.5mの確保が不可能な場合は技術代表が追加的な安全措置を要請できる。
- (7) 投てき種目ではパラ陸上独自の重さの設定がある。
- (8) すべての座位投てき（F31～34およびF51～57の砲丸投・円盤投・やり投・こん棒投）は直径2.135～2.50mの円形の中心角34.92度から投てきを行う。

ジュリー(Jury of Appeal: 上訴審判員)

1 任務

ジュリーは TR8 に規定された抗議について裁定し、また競技会の進行中に生じた問題のうち、その決定を付託された事項について裁定することを基本的な任務とする。その決定は最終的なものである。しかしながら、新しい事実が提出され、それが規則に適合していれば、再審議してもよい (TR8.9)。

2 配置

全国的な競技会および国内の大規模な競技会では、通常3人または5人からなるジュリー（主任1人を含む）を任命する。国内競技大会では、ジュリーの秘書は任命しない。

オリンピック、世界選手権大会などでは、大会の規程で WA 評議員が毎日5人～7人ずつ交代でつくことになっている。これにならって、本連盟が主催する国内大会では、主管団体選出のジュリーに加えて本連盟理事からも交代で選出され任務にあたることになっている。

裁定にあたって、上訴している者に関するジュリーは任にあたるることができないので予め代理を決めておくことが望ましい。

3 実施要領（抗議と上訴の手続きと裁定について）

① 競技者の参加資格に関する抗議の手続きと裁定

加盟団体（都道府県陸上競技協会）あるいは加入団体（クラブ、学校、職域）の責任者より、文書をもって、競技会の開始前に大会総務になさなければならない。

② 競技の結果または行為に関する質問・抗議の手続きと裁定

注) 国際競技大会では TR8.4.1 及び TR8.5 が適用され、競技中に審判長に対し、ただちに口頭で抗議することができる。日本では〔国際〕扱いである。

(a) 担当総務員は、競技者又は代理人による質問・口頭による抗議の受付時間やその内容を記録する。

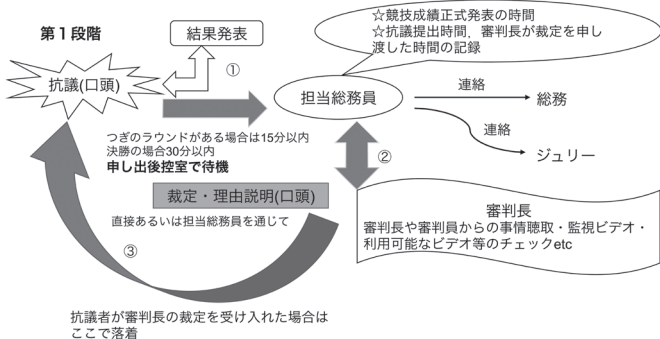
- ・正式発表後30分以内、国内では「同一日に次のラウンドがある場合には15分以内まで受け付ける」というルールを適用している。
- (b) 審判長から判定理由等を当該者に伝える。
 注) 黄旗などの措置があった場合は、その内容を事前に把握しておく迅速に対応できる。
- (c) 当該者が審判長の裁定に納得できない場合、競技者又は代理人、又はそのチームの責任ある代表者がさらに Jury に「上訴」することができる。この場合、審判長裁定後30分以内（同一日に次のラウンドがある場合には15分以内）に、担当総務員に「上訴申立書」を提出し、現金10,000円を預託する。担当総務員は預託金預り証を発行する。担当総務員は審判長を経て、Jury に回付する。
- ・担当総務員はそれまでの対応状況や説明を実施した時刻を記録する。
 - ・担当総務員から Jury に状況を連絡する。
 - ・抗議に部外者が介入すると、冷静な対応が阻害されるので、関係者以外の入室ができない抗議者控室を必ず設置する。
 - ・上訴申立書を提出した抗議者は、裁定を待つ間、抗議者控室で待機する。
 - ・上訴申立書のひな型は次ページおよび本連盟ウェブサイトを参照のこと。
- (d) Jury は、申立書に基づき関係役員より事情聴取を行い、必要に応じて録画されたビデオ、証拠物件や関係書類等を確認し、Jury で協議して、裁定書を作成する。担当総務員は裁定書の内容を抗議者に伝達する。

4 留意事項

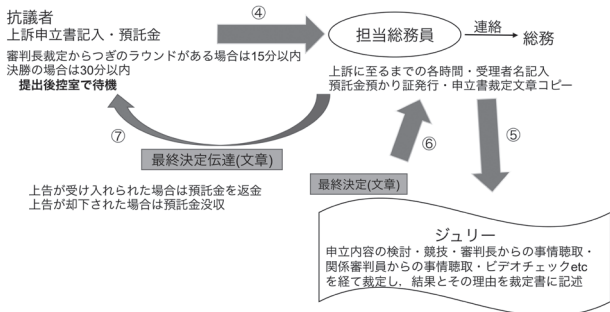
- ① 競技中の Jury の席は競技場全体が見通せるような高い場所に設置すると共に、競技本部と連絡するための通信機器を準備する。
- ② 抗議と上訴の手続きについては、競技注意事項に明記し、監督会議などで説明しておくといよい。

- ③ 抗議者控室は、可能な限り個室を用意し、落ち着ける環境を確保する。
- ④ 抗議受付場所を TIC としている場合、抗議担当総務員は TIC に常駐することが望ましい。

5 抗議提出から最終決定までの流れ



第2段階 抗議者が審判長の裁定を不服として上告が行われた場合



6 上訴申立書と記入例

上 訴 申 立 書

No. _____

陸上競技規則 TR 8 により、金 10,000 円を預託して、下記の通り上訴申立てをいたします。

ただし、本申立てが却下された場合は、この預託金が没収されることを了承いたします。

西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属団体正式名または加盟団体名 _____

申 立 人 自 署 _____

記

競技会名 _____ 種目 _____

競技者氏名 (ヒブスNo. _____) _____

上訴理由

※以下主催者による記入

競技結果正式発表時刻 _____ 時 _____ 分

口頭による抗議申立て時刻 _____ 時 _____ 分 受理者自署 _____

審判長裁定時刻 _____ 時 _____ 分

上訴申立書受理時刻 _____ 時 _____ 分 受理者自署 _____

裁 定

裁定結果および理由

ジュリー代表自署 _____ (JAAF-34, 2020/12)

----- き り と り -----

領 収 書

No. _____

殿

金 10,000 円 上訴預託金として領収いたしました。 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日

尚、上訴が受理された場合は、本書と引き換えに返金致します。本書を紛失した場合は返金できません。

競技会主催者名 _____

領収者自署 _____

上 訴 申 立 書

No. _____

陸上競技規則 TR 8 により、金 10,000 円を預託して、下記の通り上訴申立てをいたします。

ただし、本申立てが却下された場合は、この預託金が没収されることを了承いたします。

西暦 2021年 ×月 ××日

所属団体正式名または加盟団体名 _____ ○○ クラブ _____

申 立 人 自 署 _____ 署 名 _____

記

競技会名 _____ ○○ 大会 _____ 種目 4 × 4 0 0 mR 準決勝第2組

競技者氏名 (ヒプスNo. 147) _____ △△ ○○ _____

上訴理由

4 × 4 0 0 mR の第 2 走者△△が、第 2 曲走路の出口から直送路付近を先頭で走行中、外側から追い抜こうとした××チームの競技者が、必要以上に肩や肘を入れてきたために、△△のバトンに当たって、バトンが手から落ちてしまった。

※以下主催者による記入

競技結果正式発表時刻 _____ 12時 13分 _____

口頭による抗議申立て時刻 _____ 12時 25分 _____ 受理者自署 _____ 署 名 _____

審判長裁定時刻 _____ 12時 35分 _____

上訴申立書受理時刻 _____ 12時 40分 _____ 受理者自署 _____ 署 名 _____

裁 定

裁定結果および理由

監察員の報告やビデオ記録によると、追い抜いていった外側の競技者は、故意に肩や肘を入れて△△競技者の走行を妨害したとは認められない。
よって審判長の裁定を支持する。

ジュリー代表自署 _____ 署 名 _____

(JAAF-34, 2020/12)

領 収 書

No. _____

□□ □□ _____ 殿

金 10,000 円 上訴預託金として領収いたしました。 西暦 2021年 ×月 ××日

尚、上訴が受理された場合は、本書と引き換えに返金致します。本書を紛失した場合は返金できません。

競技会主催者名 _____ ○○陸上競技協会 _____

領収者自署 _____ 署 名 _____

JTOs (Japan Technical Officials)

日本陸連技術委員

WAでは、オリンピックや世界選手権などの主要競技会に於いて、技術代表 (Technical Delegates : TD) および国際技術委員 (International Technical Officials : ITOs) をおいている。この ITOs は、可能な限り競技が進行する各種目にそれぞれ1人、ITO 主任によって指名され担当することになる。

2006年度から本連盟が主催・共催する競技会においては原則として JTOs (Japan Technical Officials) をおいている。

1 任務 (ITOs : CR8)

〔国際〕 1. 技術代表は ITOs が任命されている競技会で、事前に主催団体によって ITO 主任が任命されていないならば、ITOs の中から主任を任命しなければならない。ITO 主任は技術代表と協力して可能な限り実施される各種目にそれぞれ1人の ITO を任命しなければならない。ITOs は担当する各種目の審判長を務める。

2. クロスカントリー競走・道路競技・マウンテンレース・トレイルランニングにおいて ITOs が指名されたら、ITOs は主催者に必要な支援を行う。ITOs は自身に割り当てられた競技種目が行われている間はずっと競技場所にいないてはならない。ITOs は競技が WA 競技規則と競技注意事項等ならびに技術代表の最終決定に従って行われていることを確認する。ITOs は割り当てられた各種目の審判長となる。ITOs に関する情報は WA のウェブサイトから入手可能な The International Technical Officials Guidelines により提供される。

〔国内〕 本連盟が主催する競技会には原則として JTOs (Japan Technical Officials) をおく。JTOs は総務の直下に位置づけられて、WA の ITOs に準じた任務を行う。

JTO は、本連盟が承認した基準により選考試験を行い、理事

会が認定する。

JTOはその種目の審判長に必要な支援を行わなければならない。JTOは、自身に割り当てられた競技種目実施中ずっと競技場所にいなくてはならない。JTOは競技が本連盟競技規則や競技注意事項等ならびに総務の最終的決定に従って行われていることを確認しなければならない。

問題が起こった時や意見を述べる必要があると感じた場合は、最初の行動としては審判長に注意を促し、必要に応じて何をすべきかの助言をする。

〔国内〕 もし助言が受諾されず、このことが競技規則や競技注意事項あるいは総務の最終決定に明らかに違反している時はJTOが決定を下すことができる。それでも問題が解決しない場合は総務に付託する。

〔国内〕 JTOは関係書類署名しなければならない。

〔注意〕 JTOは審判長が不在の時は、当該審判員主任とやり取りをする。

リレー競走（招待競技などではなく、正式プログラムとしての競技）が行われる場合には、JTOは各テイクオーバーゾーンの監察も行うこととしている。異常を監察した場合には各コーナー主任を通じて黄旗を掲げて審判長に連絡するか、JTOの専用無線を通じて審判長にビデオ記録を確認してもらうことがある。後者の場合、違反が確認されれば黄旗が揚がることなく審判長により失格の判定が下されることもある。

2 陣容

2023年度は55人が有資格者と登録され、JTOsとして本連盟主催・共催大会、後援大会などで各種支援を行う。原則としてTrack and Fieldの競技会では、審判長の補佐であるため競技運営委員会委員をLeaderとして含む複数名で構成している。さらに複数日にわたって開催される競技会では、負担軽減のために走・跳・投の各種目に複数名を配置できるようにしている。ロードレース・駅伝の派遣は原則1名である。

JRWJs (Japan Race Walking Judges)

日本陸連競歩審判員

1 IRWJとJRWJ

国際競歩審判員 (IRWJs : International Race Walking Judges) は WA が育成認証する競歩審判員資格で、WA レベル (レベルⅢ) と Area レベル (レベルⅡ) がある。WA レベルは、Area レベルを取得後1年以上経過したのち、WA が行う INTERNATIONAL RACE WALKING JUDGES EVALUATION SEMINAR (IRWJES) で WA が定める基準に合格したものに与えられる資格である。Area レベルの資格は WA が定める基準に合格した NTO 資格取得者が、本連盟の推薦を受けて、RDC (Regional Development Center) で行われる IRWJES で WA が定める基準に合格したものに与えられる。WA レベル、Area レベル共に4年に一度更新試験が行われており、終身資格ではない。定年は70歳である。

JRWJ は本連盟が認証する資格で、本連盟の主催、共催競技会では必ず任命しなければならない (TR54.3.3 [国内])。JRWJ 育成セミナー (JRWJ 規程第3条) では IRWJES に準じて試験を行い、合格者を JRWJ として認定しており、その判定技能は国際レベルである。JRWJ には上級資格として S 級があり、RWJECS (Race Walking Judges Education and Certification System) と本連盟が定めた試験に合格したものに与えられる (JRWJ 制度施行細則第7条)。なお、JRWJ は全国各地でその判定技能や競歩競技の運営方法について普及する役目も担っているので、競歩競技会ではこれらの JRWJ を活用していただきたい。

2 JRWJの競技会での任務

JRWJ は、WA ならびに本連盟が主催、共催、後援あるいは所管する競技会において TR54 に基づき競歩審判員の任務を行う。JRWJ は主管陸協の競技役員と共に協調して任務を遂行する (JRWJ 規程第1条)。

3 JRWJの派遣基準

本連盟が主催共催する競技会へのJRWJの派遣は、開催される会場の地域性を勘案して競技運営委員長が決定し、委嘱する。それ以外の競技会への派遣は主催者が本連盟に派遣申請し、本連盟が審査したうえで派遣を決定する（JRWJ制度施行細則第6条）。

4 S級 JRWJ

JRWJで、WAが行うRWJECSでLevelⅡまたはLevelⅢの資格を得た者及びJRWJの有資格者で本連盟が行う試験で本連盟が定める基準に達した者に与えられる資格である（JRWJ制度施行細則第7条）。

5 JRWJの報告義務

本連盟より競技会に派遣されたJRWJは任務完了後、2週間以内に報告書を本連盟に提出しなければならない（JRWJ制度施行細則第8条）。

テクニカルインフォメーション センター (TIC)

テクニカルインフォメーションセンター (Technical Information Centre : TIC) は、主に大規模の国際競技大会 (オリンピック、世界選手権、ユニバーシアード、アジア大会、アジア選手権など) において設置される部署である。競技者、チームと LOC、大会主催者、技術代表とのコミュニケーションをとる重要な役割を果たす。競技会に対する要望なども受け付け、競技会を安全に適切に運営することにも寄与している。

1 任務

TICは、競技会全体がWA規則に沿って円滑に運営されるように、各選手団 (監督、コーチ、選手) と競技役員 (組織委員会、WA技術代表等) の間に立って、必要な情報を関係者に提供することが主な任務となる。

日本国内で開催される全国レベルの競技会 (例えば、日本選手権大会) では、TICは主催者と競技者のコミュニケーションの (受付) 窓口として、2010年の日本陸上競技選手権大会で初めて設置された。競技場内の「競技者案内所 (TIC)」という名称で、「質問・抗議の受付」「欠場届の受付」「持込競技用具の受付」「賞状 (4～8位) の配布」「遺失物管理」「記録証明書受付」「棒高跳ポール (送付・受付) 輸送の手配」などを業務として担当した。

TICは、大会期間中のサポートもさることながら、業務内容を整理し事前準備をしっかりと行うことが業務を滞りなく遂行することにつながる。とはいえ、特に大規模国際競技大会 (世界選手権等) のように TIC業務を総合的に経験する機会は極めて限られるため、メンバーを早期に編成し、事前に準備に取り掛かることが肝要となる。

ここでは大規模国際大会での業務を想定して解説する。

2 配置

一般的には選手村と競技場に配置される。選手村ではSID(スポーツインフォメーションデスク)と呼ばれ、選手団の入村から競技開始までの様々な業務が行われる。競技場ではTIC(テクニカルインフォメーションセンター)と呼ばれ、競技に関する多数の業務が行われる。よって、人員の配置には配慮が必要である。

3 業務内容

両者の業務には多少の違いはあるが、主な業務内容は以下のとおり。

(1) 入村前準備資料

事前に準備しておくべき主な資料：エントリーリスト(チーム別、種目別)、チーム別の選手村チェックイン・チェックアウト予定表、最終の競技日程、各種申請書類等(3.(9)参照)。

(2) 入村手続き

入村時配布資料：テクニカルガイドブック(または、チームマニュアル)、監督会議質問票(監督会議前にTICにて受付、監督会議で回答できるよう技術代表に渡す)、最終確認書(チーム、種目別)、リレーオーダー用紙、上訴申立書、アスリートビブス、監督会議入場用パス(通常は各国代表者1~2名)、ピジョンボックスの鍵(ピジョンボックスがないこともある)等、必要な書類などを配布する。監督会議以降に入村するチーム(選手)もあるので、配布漏れ・連絡漏れを防ぐため、各選手団の入国(入村)、帰国(退村)予定表をもとにチェックし(受領者のサインをもらっておくとよい)、代表者・アタッシェの連絡先も同時に把握しておく。

(3) 監督会議(テクニカルミーティング)準備

会場内のレイアウトの確認(座席配置など)、参加チームのチェック、監督会議質問票回答の準備(通常は技術代表が準備し会議の場で回答する)、同時通訳者への情報提供等。

(4) ユニフォーム撮影

競技会では撮影されたユニフォームだけが着用できる。入村時に各選手団の競技会用ユニフォームを撮影し、保存用メモリー(あ

るいはアルバム)に整理して技術代表、総務、表彰係、競技者係(招集所)に配布、TICでも保管する。撮影については以下の点を考慮する。

- 1 撮影漏れを防ぐため、入村受付からユニフォーム撮影までの導線の確保
- 2 撮影スペースの確保
- 3 デジタルカメラ、パソコン、カラープリンター、保存用メモリー(アルバム)、撮影用背景、ハンガー、留め具、商標サイズ判定用定規など必要用具・備品の準備
- 4 ユニフォームの商標やチームロゴ等のチェック
- 5 一度に多くのチームが入村しても対応できるように、入村手続係と密な連絡をとり、迅速な撮影を心がける。
- 6 ユニフォームは全く同型のものでなくても、ランニングとレオタードなどで同じデザイン・配色でも可となることが多い。複数種類でも可のことがあるので、必要に応じ技術代表と確認をする。

(5) 最終確認(ファイナルコンファメーション)の受付

最終出場者を確定させるため、当該種目の全エントリー競技者の最終確認書を受付、技術代表および番組編成担当業者に渡す。監督会議時および競技前日の指定時刻までに提出させる。

競技期間中は選手村・競技場のSID、TICで受け付けるので、受付完了分を確実に記録し、SID、TICで共有、必要に応じて欠場届も確認の上、未提出の場合は連絡をし、提出を求める。

特に監督会議終了時の提出は混雑を極めるため、余裕のあるスペースと、受付からチェック済コピーを返却するまでのスムーズな手順を確保したい。

(6) 情報提供

例：スタートリスト、リザルト(それぞれ、男女などで色分けすることがある)、デイリープログラム、招集時刻、開会式・閉会式案内、練習場案内(開閉門時間等)、チーム関係者・選手輸送バス(選手村～競技場、選手村～練習会場)時刻表、気象情報、総務や技術代表からの連絡事項および事務諸連絡まで必要な情報を掲示すると同時に、各選手団のビジョンボックスに投函するか

メールで連絡する。配布物が多いため、帰国した国のピジョンボックスを閉鎖する等の管理も必要。なお、最近はインターネットの活用で配布物が少なくなる傾向にある。

(7) 抗議・上訴の受付・対応（主に競技場 TIC）

競技に関する質問、抗議、上訴を受け付ける。受付時刻と公式記録発表時刻を確認・記録し、抗議・上訴として受付可能かを判断する。同時に、次の対応に備えて関係部署（総務、審判長、技術代表、必要に応じて写真判定、ビデオルーム等、また、上訴の場合はジュリーとも）と連絡を取る。たとえ口頭による簡単な質問や抗議であっても、規則上は、抗議の際の記録は必須とはなっていないものの、その内容を正確に記録しておく。

抗議受付の際は個別スペースを確保し、飲み物を準備する等できるだけ落ち着ける環境を整備し冷静に対応する。必要に応じ専門の通訳者を付け、回答者にはできるだけ文書で正確に内容を伝達する。ビデオ監察による判定を行っている場合は、証拠としてそのビデオを質問者や抗議者に見せることになっているので、必要に応じてビデオ監察審判長とも連絡を取る。

上訴の場合は預託金を受領、預かり証を発行し、コピー、あるいは半券を保管する。ジュリーからの回答は掲示する。

(8) その他諸対応

上記以外に以下のような役割も担う。

1 各種視察等の受付

スタジアム視察、マラソン・競歩コース視察、Warm-up Meet, Starter's practice 等。

2 コーチ席の案内

フィールド種目にはコーチ席が準備されるので、その席へ案内する。チケットが必要な場合、必要枚数を確認し、各チームへ配布する。

3 リレーオーダー用紙の受付

受付時に、規則に則っているかを確認、チェックリストで管理し、技術代表、記録・情報処理員に回す。

4 アスリートビブス紛失時の再発行

プランクのアスリートビブス、プリンターまたは各数字の

型・マジック（赤黒等），安全ピンをあらかじめ準備しておくといふ。リレーの国名が略称の時もある。

5 記録証明書申請／ナショナルレコード申請時の必要書類発行の受付

証明書類への署名，リザルト写し，フォトフィニッシュ等，必要書類はその時々（国々）で異なるので，何が必要かを本人またはチーム代表に確認する必要がある。また，ナショナルレコードの場合はドーピング検査が必要な場合もある。関係部署が多岐にわたる可能性があるため，整理の上，早めに連絡をとり準備する。

6 有償ドーピング検査の付添者への連絡・対応

国により，ナショナルレコードにドーピング検査が必要なことがある。その場合は DCO（Doping Control Officer）に連絡の上，対応を確認する。費用を TIC で受領することもあるので，その場合は，領収書発行なども担う。

7 各種パスの管理

混成控室，フィールド競技のコーチ席，ドーピング検査の付き添い，練習場への入場，競歩ドリンクテーブルへの入場，翌日表彰の場合の待機場所（例えば TIC 等）への入場パス等の管理と配布。パスごとに受付簿を作り，枚数制限がある場合は重複がないよう管理する。

8 借り上げ投てき物の受理・返却

用器具倉庫で行うこともあるが，TIC が受け持つこともある。借り上げ用の書類を準備し，必ず写し（半券）を保管する。実際の検査は技術総務が行い，合格の場合，附番した「合格シール」を投てき物に貼り（あるいは，直に投てき物に記載），どの投てき物が誰のものかを紐づけできるようにしておく。不合格になることもあるため，その際の本人への連絡方法も確立しておく。返却の際は，書類と半券を確認し，間違いのないように返却する。

9 競技場持込禁止物品（スマートフォン，その他の通信機能を備えた機器，CD プレーヤー等）の保管・返却

通常，持込禁止物品は招集所で預かり，競技場 TIC で返却

する。預かり品は封筒に入れるなど保管方法・場所を配慮の上、預かる際には受領書の写し（あるいは半券）を保管し、該当する選手に間違いなく返却する。

- 10 競技運営上の選手団要望書の取り次ぎ
関係部署と確認の上、回答を掲示する、あるいはピジョンボックスに入れる。
 - 11 マラソン・競歩のスペシャルドリンク用容器の預かり、ラベル配布等
総務とも確認の上、受付時間を設定し保管用ボックス、ラベルの準備を行う。ラベルの記載、容器への貼付は、間違うと問題となることがあるので、選手（代理人）に直接行ってもらう方がよい。
 - 12 競技場や練習会場への競技者やボールの輸送手段の案内
 - 13 参加証（diploma）や記録証の配布
参加証は総務、記録証は記録・情報処理員など、関係部署とすり合わせの上、TIC業務かどうかを事前に確認し、必要に応じて担う。ただ、TICでは印刷は行わずあくまで配布窓口業務に留める。
- (9) 主な申請用紙の一覧
- 欠場届、リレーオーダー用紙、投てき物預かり証（+半券）、個人持ち込み物預かり証（+半券）、抗議受付用紙、上訴申立書（+上訴預託金預かり証）、記録証明申請書、監督会議質問票、一般質問票、有償ドーピング依頼書（+領収書）。
- 大会ロゴ入りで印刷できるとよい。

4 留意事項

- (1) 内容が多岐にわたるため、競技規則に精通することはもちろんのこと、ウォームアップからドーピング検査までの競技者の一連の動きや、他部署との連絡体制など競技会運営全体の流れを把握する。
- (2) 業務に漏れが出ないよう業務計画表（業務別、日程別チェックリストなど）を作成する。
- (3) 日本陸連競技規則と WA 競技規則の相違点（国際適用が基準）

を理解し、大会要項なども熟知する。

- (4) 情報に相違が起きないように、競技場 TICと選手村 SIDとのホットラインを確立し、常時情報を1か所に集約し連絡ミスを防ぐ。
- (5) 各情報機器類（複合機、パソコンなど）、および必要文具を整備する。また、選手村 SIDと競技場 TIC、TICと総務など必要部署とのやり取り等のための通信手段（トランシーバー、IP 電話、メール、インターネット環境など）や、チーム閲覧用の PC の確保も必要。
- (6) 各 TICに必要な言語の通訳者を確保する。また、通訳者は必ずしも陸上競技に精通しているわけではないので、その点にも配慮した運営が求められる。
- (7) 各国チームとの緊急連絡などに備えて、チームアタッシェ（各国チームに付く語学ボランティアなどの随行員）の具体的な仕事内容やその活動時間、連絡先などを確認する。

イベントプレゼンテーション マネージャー (EPM)

1 国内での運用

現在 EPMは〔国際〕扱いとされ、国内では本連盟が指定した競技会にのみ任命される位置づけにある。但し、その任務は進行担当総務員と重なる部分が多く、進行担当総務員と EPMが協力しながら競技会を進めていく。EPMが任命されていない競技会では進行担当総務員が本来の任務に加え、「EPM的な」業務を担うことがある。

2 イベントプレゼンテーションマネージャーの役割の具体例

イベントプレゼンテーションマネージャー (EPM) は、大型スクリーンを活用したライブリザルト及び VTR 再生 (リプレイ) の表示や音楽の効果的な活用などの企画も含め、「見 (魅) せる競技会」を実現するための広範囲かつ専門的な役割を担っている。

(1) 「イベントプレゼンテーション実施計画 (以下 EPプラン)」の策定

場内アナウンス、進行連携 (放送、表彰、タイムテーブル管理)、大型スクリーン、フィールドイベントボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ「プレゼンテーション実施計画」(図表を含む)を作成し、主催者 (組織代表、技術代表) の承認を得る。

(2) EPプランに基づく関係部署との連携確認と、事前打合せの実施

EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行い、それぞれの部署の準備状況について総務と協働して進捗管理を行う。

(3) 競技進行についての準備

事前に分刻みの進行表を作成し、競技会で起こり得る事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。

(4) 競技会開催中の役割

競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EP プランと事前に策定した進行表に沿って競技会をコーディネートする。

- (5) EPルームがスタンド高層に設置されている場合には、競技全体や審判員の動きを観察し、トラブル発生時には早期に対応ができるように心がける。

3 観客が満足する競技会演出

競技場へ足を運び観戦している観客やテレビを通じて観戦している人々が満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露できる競技会にするために特に留意すべき点は以下のとおりである。

- (1) 「常に何かが起こっている空間」の演出

競技会ではトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に「何も行われていない」状況がある。その様な状況は事前に策定する進行表である程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観客が沈黙している事がないように、タイムテーブルを事前に調整し、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合には、臨機応変に対応することが求められる。

- (2) 観客にとって分かりやすい競技会の演出

多種目が同時に展開する競技会において、観客が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下で、「今、注目の種目は何か」を的確に把握し、アナウンス等でガイドして注目させるといった役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合にはトラック競技の進行を一時的に遅らせるという対応を選択してもよい。

- (3) テレビ中継との連携

テレビ中継が生放送で行われている場合には、中継局のディレクター等と連携し、中継が円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている人々へのサービスにも配慮する。中継局とは事前に策定する進行表等であらかじめ打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。

中継局側の意向を踏まえつつも、競技規則の遵守、全体のコントロールは EPM が行うという役割分担の明確化が重要である。

4 イベントプレゼンテーション実施計画で検討される事項

(1) イベントプレゼンテーションの基本方針

- ① アナウンスの方針，トラック競技とフィールド競技のバランス
- ② アナウンサーの役割区分とその分担内容
- ③ 大型映像装置への具体的な表示内容と活用方法
- ④ 音楽と音響効果
- ⑤ 役員相互の連携と連絡手段・方法

(2) 選手紹介のプレゼンテーション

① プレゼンテーションの原則

プレゼンテーションのタイミング・方法，競技開始時間の定義（「On your marks」のコマンドか，ピストルを撃つタイミングか。旗上げのタイミングか，アナウンスの開始コメント時か）

② トラック種目のプレゼンテーション

短距離種目，長距離種目，リレー種目それぞれの出場者紹介方法

ラウンド毎（予選，準決勝，決勝）の出場者紹介方法

③ フィールド種目のプレゼンテーション

出場者紹介方法（競技開始前に全員か，TOP8 時か）紹介時の選手の並び方

最近では，競技開始前に全員を一人ひとり映像・アナウンスで紹介し（ワンバイワン），TOP8 は大型映像装置に文字情報を表示し，アナウンスすることが多い。

(3) 競技描写のプレゼンテーション

① タイミング・方法

アナウンスのみか大型映像装置を使用し，画像に合わせてアナウンスかフィールドイベントボードに何を出すか

② 内容の濃淡づけ

トラック：予選か決勝か

フィールド：高さの競技か長さの競技か前半3回の各ラウンド時かTOP8の試技か

(4) 場内インタビュー

場内インタビューのタイミング、インタビューの実施場所、実施種目、TV中継局や報道係との連携方法、表彰係との連携確認、予定所要時間

(5) 表彰式

表彰式の実施内容（入賞者数、タイミング、表彰方法等）、想定所要時間、その他事項（プレゼンターの立ち位置、メダルプレゼンターとフラワープレゼンターを分けるか等）

*式典表彰マニュアルにて定められている場合はその内容も考慮する

(6) オープニングイベント・エンディングイベント

内容と所要時間の検討、アナウンス要領・原稿の監修、ハイライトシーン映像（前日、当日、全期間）の手配、スポンサーVTRの掲出等

5 イベントプレゼンテーションに関する留意点

プロスポーツやテレビ放映を意識し、あるいは真似をして、「音楽を流す」「絶叫する」「競技者への過度な要求」等に向かいがちだが、それだけではイベントプレゼンテーションではないことを認識する。

競技会のコンセプト、出場者のレベル、関係者の役割・配置等を考えた上での詳細な計画（EPプラン）が必要不可欠である。

アナウンサー

1 任務

アナウンサーの任務は〔国内〕CR38に記載されているが、これらに加えて、「見（魅）せる競技会」実現への重要な役割を担っている。アナウンスのタイミングや言葉が選手や観客に大きな影響を与えるということを自覚して、事前準備を行い、マイクに向かう必要がある。

2 アナウンスする上での留意点

競技会におけるアナウンサーは、選手や観客、競技役員へ伝えるべき情報を正確に伝えることが第一の任務であり、自身のパフォーマンスのためにマイクに向かうわけではない。競技会を盛り上げるためアナウンサーに求められることは、個性の強い喋りや絶叫することではなく、公正かつ冷静な姿勢で、その場にいる誰もが知りたい情報を的確に選び、タイムリーにコメントできる力量である。そのためは、関係部署とスムーズに連携できるよう、事前の打合せを行い、観客等にわかりやすく説明するためにも競技規則に精通し、出場選手の戦績の下調べ等の準備が重要になる。

- (1) アナウンスする時は、まず全体をよく見て、トラック競技のスタートやフィールド競技で今まさに助走を始めようとしている、投げようとしているタイミングでコメントすることは避ける。
- (2) 成績発表は情報を入手したら、できるだけ早くわかりやすく発表する（大型スクリーンへの表示を含む）。また抗議があった場合に備え、発表時刻を記録する。
- (3) トラック競技の途中時間は、ポイント通過後、速やかにアナウンスする。また、1着の速報をどのような要領でアナウンスするかについても関係者間で事前に決めておく（フィニッシュタイマー（トラックタイマー）を用いる、ライブリザルトを活用する等、競技場設備により異なる）。
- (4) フィールド競技については、可能な限り一跳一投の描写ができるよう努める。そのためにフィールド競技審判員と連携して、記録表示器を活用する、無線等で情報を伝えてもらう、競技場所

ワイヤレスマイクを用いてアナウンスする等の方法を検討する。

- (5) 大型スクリーンがある競技場では、文字や映像の表示に合わせてアナウンスすることを心がける。
- (6) PCを使用する競技会では、記録用紙などの紙媒体ではなくモニターを見ながらアナウンスできるようにする。
- (7) 日本陸連公式ウェブサイト*掲載の「陸上競技アナウンサーのしおり」「陸上競技のアナウンサー～初めてマイクに向かう人に～」にアナウンサーとしての心構えや数字の読み方を含めた基本的な言い回し、状況別のアナウンス方法、具体例等、実務についてまとめているので参照のこと。

*日本陸上競技連盟ウェブサイト委員会情報_競技運営委員会
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>

3 場内の統制に関するアナウンス

- (1) 競技開始前やウォームアップエリア開放時の注意（対競技者）
事故防止の注意喚起、使用レーンの制限、芝生への立ち入り制限や禁止、投てき練習についての注意、練習時間等。
- (2) 競技上の注意（対競技者）

時刻規正、招集時刻や招集場所、持ち込み投てき物の取り扱い、不正スタートの取り扱い、トラック競技における予選通過条件やフィールド競技の予選通過標準記録等。

- (3) 全般的注意（対観客）

熱中症対策、盗難防止対策、貴重品管理、迷惑撮影禁止、不審者警戒、応援マナー、場所取り禁止、緊急呼出（迷子）への対応、火災や地震の災害時における避難誘導等。

尚、競技に関係すること以外のアナウンスは、総務に確認をしてから行う。

4 選手紹介のアナウンス

選手紹介のアナウンスは、トラック競技とフィールド競技で異なるが、事前にイベントプレゼンテーション実施計画（EPプラン）等でその方法を明確化、統一化しておく。EPプランを作成しない競技会では、競技会開始前の打合せでアナウンサーをはじめとする

関係者が同じ目線で共通認識を持つ。

(1) トラック競技

- ① レーンバイレーン（個別紹介）か、欠場レーン・人数のみ紹介か。

出発係からの準備完了の連絡は、紹介方法によりタイミングが異なるので（「On your marks」のコマンドまで個別紹介で概ね1分前、人数のみなら15秒前）、「予選は人数のみ」「準決勝・決勝から個別紹介」等の打合せをしておく。

- ② 「種目紹介（見どころ）→レーンバイレーン→スタート」の一連の流れを意識。

予選の場合は全組数と次ラウンドへの進出条件にとどめ、準決勝・決勝から注目選手や予選の順位等を入れることが多い。その場合、選手がトラックに姿を現し、流しをしている間にアナウンスすると、観客の注目を集めやすい。状況にもよるが、決勝では種目紹介を始めたら、他の種目のコメントを挟むことは避けたい。

- ③ メリハリをつけた紹介。

最近ではビブスナンバーを言わないことが多い。また、選手紹介は、予選では苗字だけ、準決勝・決勝からフルネームで紹介等、メリハリをつけるとよい。

海外選手が出場する競技会やイベント性も重視した大会（GGP、日本選手権等）では、「くん・さん」をつけないことが多い。これは主催者の意向によるものであり、国内すべての競技会に通じるものではなく、それぞれの競技会の性質に合わせて方針を立てればよい。

- ④ 長距離種目の場合でも、選手紹介はスタート前が原則。

人数が多く、スタート時間が遅れる場合はスタート後でもよいが、出発係、関係部署とは事前に打合せをしておく。

(2) フィールド競技

- ① ワンバイワン（個別紹介）か、欠場者・人数のみの紹介か。予選は人数のみ、決勝はフルネームで紹介等、トラック競技と同じやり方で行うことが多い。

選手をフィールドに並べて紹介する場合は、フィールド審判

員と要領を決めておく。競技場所に遠い方から試技順に並ばせ、紹介された選手から待機場所へ戻るといったスタイルが多い（いずれもビブスナンバーは省いてよい）。

- ② 予選通過標準記録がある場合は、その記録を伝える。

予選で通過標準記録突破者が12名に満たなかった場合は、決勝ラウンドに進出した + α の選手の記録も伝える。

- ③ 種目紹介と選手紹介のタイミングを意識する。

選手が入場し、練習を始めてから競技開始まで時間がかかるため、「種目紹介（見どころ）→ワンバイワン→競技開始」の一連の流れを作りにくい。練習がある程度進んだところで種目紹介を入れておき、競技開始直前に選手紹介をしてもよい。あらかじめ種目紹介をしておけば、席の移動が可能な競技会であればアナウンスを聞いて観客が競技場所近くに移動することもできる。

- ④ 競技開始の「旗上げ」とアナウンスの同期をとってもよい。競技開始のコメントが適時にできない場合は、アナウンスを待つことなく競技開始時間に合わせて旗上げするよう、フィールド審判員に伝えておく。旗上げとアナウンス同期のために準備を終えている競技者を待たせる必要はない。

5 競技の描写

トラック競技を優先しがちだが、「トラック競技の予選よりはフィールド競技の決勝や最終局面、大会記録挑戦等が優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方で意識統一する。

「トラック競技の合間にフィールド競技を入れる」のではなく「フィールド競技の合間にトラック競技を挟み込む」といったイメージで描写を入れると、フィールド競技をより際立たせることができる。

どの種目を選んでコメントするかは、進行担当総務員やEPMがいなければアナウンサーが判断しなくてはならない。主任や可能ならばその時間に担当が外れているアナウンサーが進行役となり、どの種目に注目してコメントするかを的確に選択したい。進行役を中

心に連携がスムーズにできるよう、自分の担当する種目だけでなく、同時に行われている種目の進捗状況を把握する必要がある。自分の担当種目の状況など声を掛け合いながら進めていくとよい。

(1) トラック競技

- ① 見ればわかることをあえてコメントする必要はない。

不要なコメントの例：「100m競走がスタートしました」「接戦です！」「バトンは第2走者に渡りました」「最終コーナーを回り最後の直線です」「先頭は鐘がなりましてあと1周です。」

- ② 短距離種目ではコメントを入れず、「見せる」ことに徹してもよい。

決勝レースでは、声援でかき消されることが多い。沈黙がレースを引き立てることもある。

- ③ 中長距離種目では、途中の通過タイムからフィニッシュタイムを予想、大会記録等の更新可能性がある場合は強調する。

- ④ スタートのやり直しについての説明

スタートのやり直しは、最初の1～2回にとどめ、状況に応じてコメントなしでも構わない。事前にその旨を出発係やスターターに伝えておく。

(2) フィールド競技

- ① トラック競技の進行状況にも留意し、可能な限り試技毎に描写を入れる。「助走を始めようとしている」「投げる動作に入っている」等のタイミングで話し始めると選手の集中力を逸らせてしまう場合があることを考慮しながら、適切なタイミングでのアナウンスを心がける。

- ② 記録に応じて日本新、大会新、歴代〇位、自己ベスト、シーズンベスト等のコメントを随時挿入する。

- ③ 当該選手のそれまでに出した記録だけではなく現在の順位、トップや上位との記録の差等もあわせてコメントする。

- ④ 可能であれば大型スクリーンに、各ラウンド終了時点でのライブリザルトを表示してもらい、上位選手の紹介をする。TOP8 選出前ならその時点での8位の記録（選手名は不要）を言うと、選手全員に対しても必要な情報提供となる。

- ⑤ 試技順変更の理由がパスなのか他種目への出場か、必要に応

じて説明する。

- ⑥ TOP8の記録と4回目以降の試技順については、すぐに確認し、可能な限り4回目の試技に入る前に発表する。PCを使用する競技会では、3回目終了時点で大型スクリーンにTOP8を表示することで、正式発表とすることもある。発表のタイミングと方法をフィールド競技役員とも事前に打合せておく。
- ⑦ 2番目の記録や無効試技数等で同記録でも順位に差が付くこと、高さを競う種目での試技時間や、ジャンプオフのやり方等の競技規則を理解しておく。必要に応じてルールの説明をする。
- ⑧ 複数のフィールド競技が同時に進行している時には、担当者間で優先順位を決めておく。6回目の試技、大会記録への挑戦等、佳境に入ってきた種目を重点的にアナウンスする。

観客の立場からすると、「走高跳は○○」「走幅跳は△△」「やり投は□□」のように複数種目を間髪入れずに紹介することは、どの種目に注目したらよいか混乱し、かえって興味が削がれることになるので避ける)。

フィールド競技を続けて取り上げる際には、「A種目の状況(描写)＋続く3名程度の選手の紹介」「B種目の状況(描写)＋続く3名程度の選手の紹介」をパッケージ化する。

トラック競技(短距離)の組を挟んで「トラック1組→フィールドA→トラック2組→フィールドB」のように描写のパターンを作るとよい。

- ⑨ 競技終了を伝えるときは、できるだけ1位の選手と記録を合わせて発表する。「旗下ろし」とアナウンスの同期をとってもよいが、「旗上げ」同様、アナウンスのために待たせる必要はない。

6 結果発表(リザルト)

- (1) 何着(位・等)まで発表するか、フルネームか、苗字のみかを統一する。

大型スクリーンがない競技場や使用しない競技会では、プログラムに記入することを前提として、レーンナンバー・試技順等を伝えてもよい。

- (2) トラック競技では、ライブリザルト→リプレイ (VTR) →結果確定まで一連の流れで行うことを意識する。判定に時間がかかり、タイムテーブルが過密な場合は、この限りではない。アナウンサーの人員不足や過密スケジュールの場合は、結果発表は掲示をもって行う（個別読み上げしない）ことも選択肢のひとつである。
- (3) 日本新、大会新、可能であれば歴代〇位、自己ベスト、シーズンベスト等のコメントを入れる。そのためには最新の日本記録等の情報収集が必要となる。
- (4) 次の項目は、結果発表に説明を加える必要があり、競技規則の理解が不可欠となる。

- ・ 同着（位）の場合、同タイム着差ありの場合
- ・ DQ, DNS, DNF等の略号の意味や、失格の理由について
- ・ トラック種目で、時間で次ラウンド進出者がある場合
- ・ トラック種目で、着順で次ラウンドに進む枠で同着が出た場合
- ・ フィールド種目で予選通過標準記録突破者が12名を満たさず $+a$ がある場合等。

なお、抗議への対応のため、結果発表時刻は補助員等に進行表やプログラムに記入させるとよい。システムや大型スクリーンを使用する場合は、当該部署に時刻の記録を依頼してもよい。

また、大規模大会では決勝の「フィニッシュ（優勝決定）→優勝者・記録発表→花束贈呈・フラッシュインタビュー→正式結果発表」まで一連の流れで行うことがある。

7 表彰アナウンス

表彰係と表彰方法についての打合せをし、要領を決めておく。

- (1) 各種目の表彰予定時刻を設定しておく。
- (2) 表彰実施のタイミングをよく考える。競技進行の妨げにならず、また、表彰対象者を長時間待たせないようにする。競技日程や競技の進行状況にもよるが、トラック競技がスタート前の準備段階であればスタート前に、長距離種目が行われている場合には1000m毎のラップタイムをアナウンスした直後に表彰を行うことが多い。出発係、大型映像係、表彰係の各部署と無線等で連絡を取りながら、競技進行に支障が出ないように、また表彰関係者

の入場タイミングがずれないようにする。

- (3) 表彰は成績発表後に行わなければならない。抗議があることを想定し、原則として成績発表後30分空ける。
- (4) 表彰方法を確認する。
 - ・何位まで表彰するのか、順序は1位からか、3位からか
 - ・プレゼンターの立ち位置・導線、賞状は読むのか、渡すだけか
 - ・何を渡すのか（賞状、メダル、選手権賞、花束、副賞等）
 - ・所要時間はどの位か
 - ・リレーは、賞状、メダル等をどのように渡すか（全員か代表者か）
- (5) 表彰係とアナウンサー間の連絡方法、表彰開始の指示方法を決めておく。
- (6) 演出効果を高めるためにファンファーレや音楽（BGM）を使用することが多い。
- (7) 決勝結果が紙（記録用紙）で配布される場合は別に整理しておく。PC利用の場合は、画面を確認しておく。
- (8) 入賞者の氏名、所属の読み方、表彰者の氏名、役職、優勝杯等の寄贈者名等をあらかじめ確認しておく。表彰係や主催者に必要事項を記入した表彰カードや表彰者一覧を作成してもらう。
- (9) 過去に何回優勝したか、他の種目とあわせての制覇か等についても事前に調べ、適宜挿入する。特に日本記録や大会記録等が出た種目では、勝者を讃え表彰を盛り上げるよう工夫する。

8 他の部署との連携

(1) 競技者係、記録・情報処理員

PCを使用し、ロールコールの状況、スタートリスト、フィールド競技の途中経過・成績、トラック競技の成績を入手し、必要事項をアナウンスする。

タイムリーな情報提供のためにも、印刷や書き写しをせず（書き損じの可能性もあり）モニターを見ながらアナウンスすることが望ましい。

(2) 出発係

無線等を使用し、次レースの出場人数、準備完了の合図を受け

てから紹介アナウンスを行う。

PCを使用しない競技会では選手名や所属名等で難読なものがあれば、出発係に選手へ確認を依頼することもできる。

スタートやり直しの時は、その理由をできるだけ早く連絡してもらい、必要であれば短いコメントでスタートに備える。

長距離走の選手紹介タイミング（原則はスタート前だが、状況によってはスタート後の場合もあり）について、連絡を取りながら調整する。

トラック競技のスタートとフィールド競技の試技が重なる際には、進行状況を予想し、フィールド競技を優先させる場合には事前にその旨を伝え、スタートラインへの整列タイミングを遅らせるよう依頼する。

(3) 大型映像係

選手紹介、結果発表等、アナウンスと同じ内容が同タイミングで表示されるのが原則。

EPMや進行担当総務員が配置されていれば、その指示に従うが、配置されていない場合には、アナウンサーがスクリーンに表示する内容やタイミングの調整を行う。

(4) 表彰係

表彰係とアナウンサーが離れている場合、無線等で連絡を取りながら、準備状況、表彰者の確認、入場タイミング等を詳細に確認しながら行う。「次の1000mのラップを言ったら入場してください」等、具体的な指示がわかりやすい。

(5) 進行担当総務員

競技の展開に応じ、次に何を紹介、発表すべきかを瞬時に判断して指示する必要があるため、アナウンサーと同室の配置が望ましい。進行担当総務員には様々な情報が入るので、アナウンサーはその指示を受けながら場内への説明等、迅速に対応する。

(6) EP（イベントプレゼンテーション）チーム

大規模競技会では、より「見（魅）せる競技会」を意識し、演出効果を意識した取組がなされている。

EPMは、進行担当総務員の任務に加えて、各種演出もコントロールする。EPチームは、EPMを中心にアナウンサー、音響担

当・場内映像の専門家等で編成される。

国際ルールではアナウンサーは審判員の位置づけにはなく、審判員資格のない専門のアナウンサーがマイクに向かうことを認めている。国内の大規模大会でも、アナウンサーをはじめ各種専門家が入って、EPMや進行担当総務員の指示を受けながら協働することが多い。その場合、審判員のアナウンサーもEPチームの一員として加わり、競技会運営の重要な役割を担うことになる。

9 アナウンサー間の連携

少人数で一つの競技会を担当する場合、時間交代で競技を担当し、日程通りに進行させるのが精一杯というケースが多い。

一方で、大人数の編成となる競技会では、役割分担も複雑化し、アナウンサー間のスムーズな連携が不可欠となる。

進行担当総務員やEPMがいなければ、アナウンサーがどの種目を選んでコメントするかを判断する。アナウンサー主任や可能ならばその時間に担当が外れているアナウンサーが進行役となる。そのためには自分の担当する種目だけでなく、同時に行われている種目の進捗状況を把握する必要がある。「間もなく3回目の試技が終わる」「バーが上がり、残り二人となった」等自分の担当種目の状況を伝え合いながら進めていくとよい。

どのような場面で、何を優先させるかの判断はマニュアル化できるものではなく、臨機応変に判断しなくてはならない。優先順位についての基本的な考え方やよくある事例については、関係者で意思統一を図っておくことが必要である。

また、休憩時にはアナウンス席から離れて、スタンドや競技区域レベルで他のメンバーのアナウンスを聞き、観客や選手の位置でどのように聞こえるのか（内容、速さ、タイミング等）を評価、フィールドバックすることで、メンバー全体で共通認識を持つことも必要になる。

アナウンスで盛り上げる

好記録に沸くスタンド。その主役は競技者であることは間違いない。しかし観客に正確な情報を伝え共に喜ぶことを通じてアナウンサーも重要な役割を担っている。

陸上競技の記録，順位はすべて「数字」で示されるが，時としてその重要な情報である「正確な数字」がアナウンサーに速やかに届かないということが起こる。

一斉にスタートするトラック競技と異なり，フィールド競技では全競技者が試技を終えるまで順位が決まらないため，競技途中の正確な記録が重要な情報となる。

フィールド競技の記録表示には記録表示器や「TOP8板」などが使用されることが多い。これら記録表示器の前に審判員や補助員，報道関係者などが立って数字が読み難くなることや，表示器の廻し方が早すぎて読みとれないということもよくある。

また砲丸投などでは競技の展開が速く記録の表示，次の投てき者のナンバー表示が追いつかないことがおこりやすい。接戦の描写で競技者を奮い立たせようと思っても，タイミングがずれてしまっては効果がない。競技者本人もアナウンスを期待し，観客の声援を望んでいるのであればなおのことである。

「長さを競う競技」と「高さを競う競技」ではアナウンスすべきポイントが異なるが，アナウンスの内容やタイミングによって，競技の良いリズムを作ることは可能である。

また，一選手の「開始の合図（試技時間のカウントダウン開始）～試技～判定～記録表示」がひとつのパッケージであると考え，フィールド審判員に「記録表示を確認した上で，次の試技の合図を出す」よう依頼することも必要になる。

さらには，アナウンサー自身がマイクから離れた場所（アナウンス席ではなく，スタンドやピット等）で他のアナウンサーのコメントを聞き，競技者や観客にどのように聞こえているか，聞き手側はどんな情報を欲しているか，話す内容やタイミングを工夫する余地はないか，他の審判部署と連携がうまくいっているか等を客観的に捉えることも必要なことである。

ライブリザルト

陸上競技の面白さに、誰が勝ったのか？という「勝負」と、その記録はどうだったのか？という「記録」の二本柱が挙げられる。いかに早く、正確に情報を伝えることができるかは、「魅せる」競技会を運営する上で重要な課題である。

最近では地域選手権規模の競技会でも、大型映像装置を用いてライブリザルトを速報として伝えることが一般化してきた。レース結果を迅速に伝えるために、写真判定中の途中経過を表示しているものだが、使用機器の性能向上や関係者の技術向上もあり、黄旗が挙げた場合を除けば、ライブリザルトと正式結果がほぼ一致するようになっている。

ライブリザルトに合わせてアナウンスする場合は、まず「判定中の記録である」ことの断りを入れ、ラウンドに応じた必要な順位までを発表し、表示が「確定」または「Official」に変わったところで結果が確定したことを伝える。

黄旗が挙げた場合には、その旨を伝え、（正式結果は後程と伝え）ライブリザルトでの発表を続ける。フィニッシュタイマーでの1着の速報記録のみを発表し、正式結果が確定した段階で他の順位も含めた結果を発表する。

フィールド競技でもパソコンを使用し一跳一投のデータ入力が行われる場合には、途中経過をスクリーンに表示させ、アナウンスすることも可能である。長さを競う競技であれば、「現在の上位8名の競技者とその記録」「TOP8の試技順とそれまでの記録」「試技毎での記録・順位の変化」等を示すことができ、アナウンスしなくてもスクリーンに表示しておくだけで、ピットから離れた場所にいる観客にも興味を持たせ、当該競技へ関心を持たせることができる。

また、最近では競技者も観客も記録発表の迅速性や途中経過の情報提供に対する期待は極めて高く、写真判定員やフィールド審判員の正確な判定が大前提ではあるが、イベントプレゼンテーションの観点からもスピード感のある対応が課題となっている。

ライブリザルトを導入する大会では、事前に審判長や写真判定員、フィールド競技審判員、記録・情報処理等の関係者と打合せを行い、各部署の協力を得ながら「正確・迅速・効果的」なライブリザルトの活用ができるよう、共通意識を持つことが必要である。

スタート時の警告内容説明アナウンス

スタート時、何らかの理由によりスタートをやり直す際に、出発係が競技者に対してカードを示すが、観客や関係者にも「今、何が起こったのか」をアナウンスすることで、競技への関心を高め、審判行為に対する信頼性を得られる。

状況説明を的確に行う為には、スタートチーム（出発係を含む）とアナウンサー間で、短時間で正確に状況共有する態勢をつくる必要がある。「出発係からアナウンサーへの連絡内容」「アナウンサーのコメント内容」についてパターン化し、符号表カードを双方で持つ例を挙げる。

〈出発係〉例

カード	アナウンサーへの連絡内容
赤黒	「() レーン不正スタートで失格です」
黄黒(混成)	「() レーン不正スタート1回目です」
グリーン	「①・②・③」です」
	①機械の不調（ピストル、スピーカー、写判）
	②体が静止しなかった・スタート態勢に入るのが遅かった等で注意または指導があった
	③周りの静寂が保てなかった（声援・手拍子・飛行機の通過等）
イエロー	「() レーンに警告です」

〈アナウンサー〉例

カード	コメント例
赤黒	「()レーンが不正スタートと判定されました。」
黄黒	「()レーンが不正スタートです。 この後の不正スタートはすべて失格となります。」
グリーン	「ただいまのは不正スタートではありません… …①機械の不具合があったのでスタートをやり直します。」
	…②体が静止しなかった／スタート態勢に入るのが遅かったのでスタートをやり直します。」
	…③声援／手拍子／飛行機の通過と重なったため、スタートをやり直します。」
イエロー	「()レーンに警告が与えられました。」

※ ③フィールド種目の手拍子や好記録が出て観客がわいているのを制することは不要だが、スタート付近で観客が競技とは無関係なことで騒がしい場合は、コメントが必要な場合もある。

競技会開始直後は、上記のようなコメントでもよいが、度重なると耳障りとなり、場合によってはスタートまでの間が空きすぎてしまい競技者の集中に支障をきたすこともある。不正スタート・機械の不調以外は、状況に応じてコメントなしでも構わない。その場合は、スタートチームにその旨を伝えておく。なお、アナウンスのタイミングは、出発係が対象となる選手(行為)に対してカードを示すタイミングに合わせて行うことに注意する。また、出発係は選手だけでなく観客にもわかるようにカードを示す。

ポストイベント(PE)とは? ミックスゾーンとは?

I ポストイベント(PE)とは?

記録会以外はトラック&フィールド競技会、ロード競技とも表彰式がある。全国レベルの競技会や世界選手権・オリンピック等では入賞者は更衣もままならないほどにインタビューや記者会見、ドーピング検査等が待っている。これら競技終了から表彰(セレモニー)を終え競技場から退出するまでの一連の競技者に科せられる対応を総称してポストイベント(PE)という。

- ① 「国内全国レベル競技会」では、競技を終えミックスゾーンまで誘導された競技者が競技場を退場するまでのすべての範囲での案内・誘導を指す。競技を終えた直後のフラッシュインタビューと更衣・退場、入賞者のインタビュー室や表彰控室への案内・誘導等、一連の競技者対応すべてを意味する。途中にドーピング等の指名が行われることもある。

主に係わる役員：ミックスゾーン係、入賞者管理係、報道係

- ② 「世界選手権 / オリンピック」では、ミックスゾーンの先に設置された部屋〔ポストイベントコントロールエリア (PECA)〕から記者会見場 (PRESS CONFERENCE ROOM) や表彰〔Victory Ceremony〕控室までの入賞者管理を指す。途中ドーピング等の指名や対応が求められることが必然である。ミックスゾーン内の競技者コントロールは別スタッフが担当する。



主に係わる競技会役員：PECA係

ポストイベントコントロールエリア (PECA)

- ① 「国内全国レベル競技会」では、
 ＊〔国内〕『競技終了後のイベント (ポストイベント) に関わる運営役員』参照
- ② 「世界選手権 / オリンピック」では、後述の3つのミックスゾーンの先に設置されるエリア〔ポストイベントコントロールエリア (PECA)〕で、競技者の荷物や AD カードが届けられる。

世界的に著名な競技者でメダルホルダーとなった競技者は3つのミックスゾーンでのインタビューを相当数こなし、この部屋にたどり着くと、更衣もままならず直ちに記者会見場に誘導されたり、ドーピング検査の指名を受けたりする。PECの出発地点である。

II ミックスゾーン (Mixed Zone) とは？

同じミックスゾーンという呼称も全国レベル競技会〔国内〕は広義に、世界選手権・オリンピックなど〔国際〕では狭義で、メディアが競技者にフラッシュなインタビュー・取材を行うエリア（限定的）を指す。

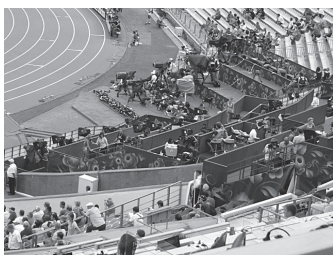
① 「国内全国レベル競技会」では、フィニッシュ先のゲート付近に設けられる。400m競走出場の競技者などの待機所も併設され、この出発を待つ競技者と、競技が終わった競技者及びその競技者の声を拾いたい記者が混在する場をまとめてミックスゾーンと呼んでいる。出発競技者のエリア、更衣エリアまでの動線（一部取材エリア）、更衣エリア（入賞者待機所）、インタビュー室で構成される。主催者が報道員に取材の機会を保障する場所でもある。競技を終えたすべての競技者が競技場から退場するまでの動線上に取材活動を可能にする一定のスペースの確保が必要でありインタビュー室も含め機能的なつくりが求められる。

* 〔国内〕『ミックスゾーン係』参照

② 「世界選手権／オリンピック」等の国際競技会では、ミックスゾーンはTV・記者等の報道員が競技を終えた競技者に対しフラッシュなインタビューを行う場だけを指し、報道員カテゴリー別に3つのエリアに分かれる。

i Dedicated Mixed Zone

放映権（ライツホルダー）を持つTV局がライブインタビューを行うエリア。権利を有していても最長2分までと制限がある。



ii ENG/Radio Mixed Zone

インタビュー録画撮影を行う TV局やラジオ局がインタビューを行うエリア。

iii Press Mixed Zone

新聞雑誌記者（リトンプレス）が取材活動を行うエリア。

〔国内〕 競技終了後のイベント (ポストイベント) にかかわる運営役員

1 ポストイベントとは

トラック&フィールドで競技を終えた競技者がミックスゾーンに誘導され、最終的に競技場から退場するまでの各エリアで展開されるインタビューや、ドーピング検査、表彰式などをさす。

2 ポストイベントにかかわる運営役員

- ◇ 総務・総務員／EPM(イベントプレゼンテーションマネージャー)
- ◇ マーシャル
- ◇ 〔国内〕 ミックスゾーン係
- ◇ 〔国内〕 入賞者管理係=ポストイベントコントロール (PEC) 係／〔国際〕 ポストイベントコントロールエリア (PECA) 係
- ◇ シャペロン
- ◇ 〔国内〕 報道係
- ◇ 〔国内〕 式典表彰係
- ◇ 医師 (医務員／メディカル)
- *その他 ◇記録・情報処理員 ◇衣類運搬係 ◇アナウンサー

3 〔国内〕 ポストイベントにかかわる運営役員関係図

総務員：進行または、EPM	〈トラック種目〉		〈フィールド 種目〉		【トラック&フィールド】
		マーシャル			
総務員：PEC報道または進行	(出発係)	入賞者管理係	記録・情報処理員	【ミックスゾーン】	
	報道係 (フラッシュインタビュー担当)	〈ポストイベントコントロール係〉	衣類運搬係	報道係 (インタビュールーム/会見場担当) 記者	
	医務員/医師	〔PECR〕	シャペロン		
総務員：表彰進行、EPM	(アナウンサー)		式典表彰係	【表彰会場】	

4 [国内] ポストイベントの流れと運営役員の連携例

【ミックスゾーン】	◎ミックスゾーン係	[連携部署]
競技前	→ (出発) 控所管理	○出発係
競技中	→ 競技終了者控所 (PECA) 管理	○入賞者管理(PEC)係
	→ スタートリスト確認	○記録・情報処理員
	→ 競技者衣類搬入	○衣類運搬係
[ポストイベント開始]		
競技終了	競技者誘導 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒	◎マーシャル
【ミックスゾーン】	◎ミックスゾーン係	[連携部署]
競技終了	→ 結果確認	○記録・情報処理員
(競技者誘導)	→ 競技終了者引継 / 確認	◎マーシャル ○入賞者管理(PEC)係
ミックスゾーン 入場	→ フラッシュインタビュー	◎報道係 〈フラッシュインタビュー担当〉
〈予選〉 ▽	→ 競技終了者控所(PECA)誘導 ⇒ 退場口案内誘導	○入賞者管理(PEC)係
▽ 〈決勝及び フィールド種目〉	→ 競技終了者控所(PECA)誘導	
	⇒ 結果通告	◎入賞者管理(PEC)係
*表彰対象者	⇒ ドーピングチェック通告	◎シャペロン
	→ 順位札掛け	◎入賞者管理(PEC)係
*表彰対象外	⇒ インタビュールーム誘導	
	→ 退場口案内誘導	
【インタビュー ルーム】	→ 報道員・表彰対象者管理	◎報道係〈インタビュールーム担当〉 ○入賞者管理(PEC)係 ○シャペロン
(表彰者移動)	→ 表彰控室誘導	◎入賞者管理(PEC)係
【表彰会場】	◎表彰係	◎報道係〈撮影エリア担当〉
	→ 表彰式	○シャペロン
	→ 退場口案内誘導	◎入賞者管理(PEC)係

〔国内〕 ミックスゾーン係

1 任務

競技を終えたすべての競技者が通過するミックスゾーンの管理を行う。ミックスゾーンには、トラック種目の一部の出発控所が含まれる。

- (1) 競技者係、マーシャル、出発係、衣類運搬係、記録・情報処理員等と連携を図り、競技者や報道関係者の管理をする。
- (2) 競技者係、記録・情報処理員からのリストを確認し、退場競技者のチェックをする。
- (3) 衣類運搬係により運ばれた競技者の荷物を競技終了者控所（PECA）に搬入し、入賞者管理（PEC）係に配置の検討を依頼する。
- (4) 入賞者管理（PEC）係と連携し、迎え入れる競技者数に応じた控所（PECA）のレイアウトを随時変更する。
- (5) マーシャルが誘導してきた競技者を引き継ぎ、ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリアを経て、控所（PECA）まで誘導する。
- (6) フラッシュインタビューエリアでの報道員によるインタビューのコントロールは、報道係の担当者と連携して行う。
- (7) 決勝種目については、控所（PECA）で、入賞者管理（PEC）係が入賞者を確定・通知するので、それをサポートする。
- (8) 更衣等が終了した競技者を速やかに退場口まで案内誘導する。
- (9) シャペロンの行うドーピング検査通告とサインの受領、対象競技者の管理をサポートする。
- (10) 入賞者を、入賞者管理（PEC）係と連携のもと、インタビュールーム・記者会見場へ誘導する。
- (11) 式典表彰係と連絡を密にして、スムーズな表彰運営に対し入賞者管理（PEC）係と共に協力する。

2 留意点

- (1) マーシャル等に誘導された競技者の引継ぎと入場確認はミック

スゾーン入口で確実に行う（報道員からの問合せに備える）。また入場させる際は、ミックスゾーン内の各係・担当、報道員へ通告する。

- (2) 競技者および報道員への対応が多い部署である。言葉遣いに気をつけ、協力を依頼する際は、穏やかな口調で接するとよい。また、親切・丁寧な対応を心がけ、高圧・威圧的な態度は避ける。
- (3) ポストイベントの誘導に関して、直後に出場種目を控える競技者への対応が生ずることがある。事前に想定し、式典表彰係と対応方法を検討しておくとうい。

3 施設

ミックスゾーン

- ・ミックスゾーンは仮設される場合がほとんどである。テント、長椅子、プラスチック柵等でレイアウト変更が可能かつくりが望ましい。
- ・競技者、報道員用にモニターや記録・情報用 PC の設置は必須である。
- ・床面はスパイク保護のため人工芝等で養生されるべきである。



〔国内〕 入賞者管理係／ポストイベント コントロール係〈PEC 係〉

1 任務

トラックとフィールドのすべての決勝種目終了ごとに競技終了者控所（PECA）にて、ミックスゾーン係と連携し入賞者を確定する。また、入賞者を管理し表彰控室まで誘導し、表彰係へ引き継ぐ。トラック種目の予選等については、競技終了者控所（PECA）にて荷物の受け取りをさせ場外へ退場させる。

- (1) ミックスゾーン係、報道係、シャペロン、表彰係等と連携し、入賞者をスムーズに管理誘導する。
- (2) 入賞者管理のため、順位カード（首掛け式など）を準備する。

2 任務の留意点

- (1) 複数種目の入室が想定される場合やリレー種目では、ミックスゾーン係と連携し椅子等の配置を工夫するとよい。また、順位カードは複数組作成しておくといよい。
- (2) 入賞者の体調に注意を払い（水分補給・氷等の準備）、医師・医務員の協力を要請する。特に、競歩競技・長距離種目では確定まで時間がかかることがある。
- (3) 入賞者が外部者と接触しないよう監督し、トイレ等の要望に対しては役員または補助員が付き添うことが重要である。
- (4) インタビュールームや表彰控室への誘導の際は、種目ボード等を活用し、全員を確実に誘導する。絶えず表彰係と連絡を取り合い、オンタイムで表彰が実施できるよう入賞者の把握と、スムーズな誘導に努める。また、表彰時間の変更等の入賞者への通知等も、表彰係と連携し競技終了者控所（PECA）または表彰控室で行う。
- (5) ポストイベントへの誘導に関して、直後に他種目出場を控える競技者が含まれている可能性があることを想定する必要がある。事前に想定し、式典表彰係と対応方法を検討しておくといよい。

〔国内〕 式典表彰係

1 任 務

各種目の決勝において入賞した競技者を、表彰進行計画に基づき表彰する。また、栄章授与式が行われる競技会ではその業務も担当する。

2 実施要領

(1) 種目表彰

- ① 表彰進行計画（台本）を作成し、総務の承認を得て決定する。
- ② 総務員（進行担当／式典表彰）、アナウンサー、報道係、シャペロン等関係役員と打合せをしておく。
- ③ 表彰方法を競技注意事項等に記載し、競技者に周知する。
- ④ 入賞競技者について、マーシャル、入賞者管理係、ミックスゾーン係等に協力を求め、表彰控室までの誘導方法を事前に打合せをしておく。
- ⑤ ミックスゾーン係、入賞者管理係と連絡を密にする。
- ⑥ 表彰用物品を確認する。

種目ごとに寄贈者が異なる表彰用物品がある場合は特に注意する。

- ⑦ 種目ごとの授与者、表彰予定時刻をあらかじめ決定し、表彰場所およびミックスゾーン等に掲示し案内する。
- ⑧ アナウンサーに表彰一覧を示し、表彰原稿の作成を依頼する。
その際に以下のことに注意する。
 - (a) 表彰者（プレゼンター）氏名、役職名
 - (b) 競技者名、所属（決勝記録等により、アナウンサーに原稿を依頼）。
 - (c) 成績（同上・新記録が出たときは披露する）
 - (d) その種目に寄贈されている賞杯名、寄贈者名など
 - (e) 役職名や氏名の読み方には細心の注意を払う。
- ⑨ 種目ごとに表彰者カードを作成し、あらかじめ表彰者に渡し
ておく。

- (a) 表彰種目
- (b) 表彰者（プレゼンター）氏名，役職名等
- (c) 表彰予定時間
- (d) 集合場所

(2) 栄章授与式

- ① 受賞者への連絡方法を事前に確認し，出欠者の把握をする。
- ② 当日の受付場所・控室の確認，案内担当等の手配を行う。
- ③ 表彰手順等について，受賞者にあらかじめ説明する。
- ④ 授賞式の場所，手順を報道係，アナウンサー等の関係部署間で事前に協議し共有しておく。
- ⑤ 授与式直前（30分程度）に出欠の最終確認を行う。

3 留意点

- (1) 表彰式典マニュアルを作成する。それに基づく表彰計画で係分担当を作成し，十分打合せておくこと。アナウンサーに表彰原稿の作成を依頼しておく。準備が整ったならば関係総務員（進行担当／表彰担当）の指示のもとに行動する。
- (2) フィールド内で行う表彰についてはリハーサルを必ず行いスムーズな進行ができるようにしておくこと。トラックを横切るようなケースは，特に注意が必要である。
- (3) 表彰は競技成績の発表後，トラック競技の合間にできる限り行うとよい。また，トラック種目だけでなくフィールド競技の進行にも十分な配慮が必要である。フィールド種目の最終試技回には特に注意を払う。
- (4) 報道関係者が多く取材に入る大規模競技会では，あらかじめ表彰予定時刻をミックスゾーンだけでなく，プレスルーム等に掲示して周知するなどの対応が求められる。
- (5) 大規模競技会ではインタビューやドーピング検査などの対象となる競技者が数多く生ずる。関係部署（ミックスゾーン係，入賞者管理係，報道係，シャペロン等）との連携を密にし，表彰式を計画通りに実施できるようにする。
- (6) 表彰計画では決勝種目終了後に他種目出場を控える競技者が含まれている可能性があることを想定する必要がある。

- (7) 表彰時の競技者の服装は競技会ごとに定めるが、その際は競技会における広告規程に十分注意が必要である。服装等の決定をした場合は事前に関係者に周知しておく。
- (8) 表彰控室は競技会の規模や実施種目数、決勝種目の集中度合いなどを考慮し、適切な広さを確保する。また、椅子などが不足することの無いよう、あらかじめ十分に用意する。

【コラム「フレンドリーな表彰式の実施」参照】

日本選手権混成競技、国民体育大会（全国スポーツ大会）、U20日本選手権、U18・U16陸上競技大会など3名ないし8名まで表彰される全国レベル競技会では、従来の全員が並んで入場するスタイルではなく、一人一人アナウンスで呼び入れられ、ハイタッチで入賞者相互が祝福し合うという形式で行われている。



フレンドリーな表彰式の実施

本連盟が掲げている3つのフレンドリー（Athlete friendly, Spectator friendly, Official friendly）の考え方から、選手がお互いを称えあう表彰形態を実施している。実施に際しての注意点は以下の通りである。

- 1 表彰エリアを確保する。鉢植え等で区別し、観客に式典エリアを周知することが大切である。また、表彰台は可能であるならば、順位番号数字を大会名称等で覆うと臨場感が高まり、カメラ写りがよい。
- 2 表彰式に適した楽曲を選定する。歌詞があっても問題はない。この楽曲が競技場に流れると表彰式という概念を観客に与えることも重要である。
- 3 音楽のもと、プレゼンターは表彰台に向かって左側に立ち、表彰台の正面は観客のためにあけるように心がける。
- 4 式典アナウンサーによる選手紹介は、選手の呼び込み時（表彰控えエリアからの入場時）に行う。うまく進行できると8位までの表彰所用時間は、概ね2分30秒である。
- 5 選手の入場は8位から一人ずつ行う。選手紹介にあわせ小走りで表彰台に登壇し、プレゼンターの前まで移動し、賞状等を受け取る。その後、台の右端に台上を移動する。表彰台右側前方の補助員は拍手をし、観衆に拍手を促す。
- 6 7位以降の選手は、選手紹介により入場し、先に登壇している選手の横から登壇し、プレゼンターから賞状を受け取った後、台の右側に移動し下位の入賞者の横に並ぶ。その際、登壇している選手は、拍手で選手を迎えるようにする。
- 7 優勝者への贈呈が終わったら、プレゼンターは表彰台の左側に移動し、終了アナウンスで速やかに退場する。表彰エリアにいる表彰盆持ちの補助員は基本的に1名とし、常に入れ替わるようにする。



リレーの表彰形態については、4名（もしくは走ったメンバー全員）が一度に表彰台上がれる様式を試してみてもいいだろうか。

全国スポーツ大会（国体）をはじめ、U20日本選手権、高校総体、中学選手権等において実施をしている。競技会における「メダルセレモニー」は、ここ数年の間に重要視されるようになってきている。オリンピックや世界選手権では、競技時間に遅れが生じて、競技者や観客の求めに応じたセレモニーが実施されるようになってきている。競技が終わればお互いの健闘を称えあうことこそが、真のスポーツマンシップではないだろうか。国際大会で、優勝者が下位の入賞選手を自分の台上に招き入れている姿は数多く見られる。競技者が主役で、お互いの健闘を称えあい、観衆も一緒に参加できる雰囲気での表彰式を、ぜひ実施していただきたい。

※現在 COVID-19の影響で競技会運営に大きな影響が出ている。この状況下では感染拡大防止を十分留意した表彰式を心がける必要がある。

〔国内〕 報道係

報道係については国内外ともに特に規則によって定めはないが、国内の多くの報道関係者が参集する競技会では、運営役員として報道係を設置し、以下の任務を行っている。

尚、国際競技会では、この分野はより分業化・専門化され、特にスチールカメラマンへの対応は、フォトコーディネーターが、放送（中継）対応は別の専門チームが役職としてそれぞれ独立しその任に当たっている。

1 任 務

任務を一言で言えば、報道関係者へのサービスである。

- (1) 競技運営に支障のない限りにおいて報道関係者が取材や撮影を行いやすいよう対応を行う。その際は、マーシャルやフィールド種目の競技役員やポストイベントを担当するミックスゾーン係、入賞者管理係、表彰係等と連携をとることが重要である。
- (2) 競技会を取材する報道関係者が、正確かつ十分な報道ができるよう競技成績の記録や、必要な資料を配布する。また、競技運営が円滑に運営され、競技者が所期の目的を達成できるよう報道関係者に協力を求め、この任にあたる。

2 報道関係者

日本新聞社協会、写真記者協会、日本雑誌協会、スポーツニュース協会（含系列局）、日本スポーツプレス協会、日本外国特派員協会の各加盟社・協会員で「スポーツ報道」を目的とするメディアをさす。

- (1) 記者：

通信社、新聞社（全国紙・地方紙）、専門誌、写真記者協会員、日本雑誌記者協会員、日本スポーツ協会員、日本外国特派員協会員等の記者。

- (2) スチール（静止画）カメラマン：

通信社、新聞社（全国紙・地方紙）、専門誌、写真記者協会員、

日本雑誌記者協会員，日本外国特派員協会員等のカメラマン。

- (3) テレビ局（ENG/動画）カメラマン〔含むディレクター〕：
 スポーツニュース協会〔系列局を含む放送会社〕加盟社のカメラマン。
- (4) 中継放送局：
 テレビ・ラジオ関係者
- (5) その他：
 (1)から(4)以外の団体で都道府県や市町村の広報，競技者所属企業・大学の広報等があげられる。これらからの取材申請については，下記書類の提出を求め事前に審査し，取材を許可する場合がある。
- ・社名／団体名・取材目的（発表媒体名）／方法・取材期間／人数

3 配置

競技会規模，想定される取材者数により，必要な要員を確保する。

- (1) 主任・副主任
- ① 担当総務員とともに全体の任務を掌握し報道関係者が正確に報道できるよう関係諸施設も含め統括管理する。
 - ② 関係する部署との連絡・調整に努め連携を図る。
- (2) 受付担当
- ① 受付業務を行う。
 ADカード，報道員ビブス，取材要項（報道のしおり）《別記》等を配付する。カテゴリー別に受付用紙を用意し，社名，氏名，連絡先電話番号の記入をお願いする。事前申請一覧と照合することが大切である。
 - ② [本連盟主催競技会] 地方紙対象インフィールド立ち入り許可
 ビブスの受付・抽選業務を行う。
 - ③ 報道員への情報提供を行う。
- (3) 記者席担当
- ① スタンド内記者席とミックスゾーンまでの動線を管理監督する。

- ② 記録・情報等の速やかな提供を行う。
- (4) 報道員室 [プレスルーム / カメラマン控室] 担当
 - ① 室内の管理全般を行うとともに、報道関係者の対応を行う。
 - ② 記録・情報等を適切に提供する。レターケース等を活用するとよい。
 - ③ ホワイトボード等を活用し、表彰時間やその他情報の提供を随時行う。
- (5) インタビュールーム（記者会見場）担当
 - ① 室内の管理全般を行う。複数種目の同時入室を想定し、椅子等の配置を工夫する。
 - ② 取材活動時間を保障する。入賞者管理係、表彰係等と連携調整し、表彰後に実施する場合もある。
- (6) フラッシュインタビューエリア担当（ミックスゾーン内）
 - ① ミックスゾーン内の競技終了者控所（衣類受取所 / PECA）入場前エリアでの報道員による取材活動をサポートする。ミックスゾーンはフィールド種目も含め競技を終えたすべての競技者が通過し、報道員にとって第一声を取材できる重要な場である。
 - ② 競技者の通過をミックスゾーン担当者と連携して確認・把握する。
注）ミックスゾーン係がこの任を担う場合もある。
- (7) 撮影エリア管理担当 [フォトコーディネーター]
 - ① 各撮影エリアを関係審判長、マーシャル等と協議し作成する。（アウトフィールド / インフィールド / 表彰会場 / スタンド他）
注）大型映像用カメラや中継放送用カメラ位置を考慮することが求められる。
 - ② カメラマン、テレビクルーへの指導・監督を行う。特に、インフィールドでの安全指導は重要である。
 - ③ リモートカメラ設置エリアの作成管理を行う。
- (8) その他必要に応じて
グラウンド内で行われる中継放送局によるインタビューのサポートなどの任が加わることがある。

4 関係施設・室

- (1) 報道員受付所
- (2) (スタンド内) 記者席
 - ・スタンド内でフィニッシュライン延長上付近に一定程度のスペースで座席，机を確保する。電源が用意できるとよい。
 - ・ミックスゾーンや報道員室へ素早く移動できる動線の確保が重要である。
- (3) 報道員室 [プレスルーム]
 - ・国体やインターハイでは1日あたり150名を超える報道員の来場がある。机，椅子の他，人数分の電源が必要である。併せてインターネットに接続可能な環境の提供も必須である。
 - ・資料や記録用紙（スタートリスト，リザルト等）を入れる棚（レターケース）を設置する。

注）報道員室の閉鎖は，競技（表彰）終了後2～3時間程度を確保したい。閉室時刻については，あらかじめ報道員へ通知しておくこと（報道員室の管理）。
- (4) カメラマン控室
 - ・グラウンドへの出入りが容易な場所への控室の設置が求められる。机や椅子，電源が必要なことは報道員室と同様で，機材の持ち込みも想定し，想定人数よりも十分なスペース，席数，電源等を準備したい。
 - ・数日間にわたる競技会では機材置場として鍵のかかるロッカーや棚の用意が必須である。
- (5) インタビュールーム / (記者会見場)
 - ・国内競技会では，競技者を報道員が囲み取材する形が一般的であるので，複数の種目の入賞者やリレー種目全走者と報道員が混在しても十分なスペースと備品（椅子，バックボード等）を準備する。
- (6) (ミックスゾーン内) フラッシュインタビューエリア
 - ・ミックスゾーン内の競技終了者控所（衣類受取所 / PECA）までの競技者の動線上に設置する。競技を終えたすべての競技者への取材機会を保障するものである。取材活動を可能にする環境整備が必要である。

- ・床面は競技者のスパイク保護のため人工芝等で養生したい。
注) 報道員受付所，報道員室，ミックスゾーン，インタビュー室はワンブロックに集中させた方が機能的であり，また，スタンド内記者席からの記者の動線はできる限り短くするように設置したい。ミックスゾーンの設置により，記者はスタンド内記者席，ミックスゾーン付近で競技を観戦し，ミックスゾーン内やインタビュールームで取材をして，また競技観戦に戻ることを繰り返す。したがってスタンド記者席，ミックスゾーン，インタビュールーム間の動線は特に短く確保したい。

(7) 撮影エリア（グラウンド内）【例示参照】

- ・各撮影エリアはロープ，カラーコーン，養生テープ等でグラウンドに明示するとよい。低い姿勢で撮影するカメラマンに配慮し，コーン使用の場合はミニコーンにバーをかける形で設置するとよい。

***取材要項（報道のしおり）**

大会当日の取材要領，撮影エリア図，撮影に関する注意事項等を記載した取材要項（報道のしおり）を作成し，報道員受付の際，関係者に配付し協力を求めるとともに指導監督の指針とする。

5 取材活動（活動区分）

(1) 記者

- ① 報道員席（スタンド内），ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリア，インタビュールーム，報道員室 [プレスルーム] での活動を認める。
- ② 競技本部，記録室，印刷室，ドーピングルーム，表彰控室等のテクニカルエリアへの立ち入りは認めない。

(2) スチールカメラマン・テレビ局カメラマン・中継放送局カメラクルー

〈日本陸連主催競技会でのカメラマン活動区分〉

	アウトフィールド	インフィールド
スチールカメラ（含デジカメ）	オレンジ／グレー	グレー
テレビ局カメラ（含ビデオカメラ）	グリーン／グレー	グレー
中継放送局カメラ	ブルー	ブルー

① オレンジ色ビブス：

スチールカメラマンに貸与され、グラウンド内においては、アウトフィールドに作られた撮影エリアでの撮影活動に限定される。



② グリーン色ビブス：

テレビ局カメラマン及びディレクターを含むクルーに貸与され、グラウンド内においては、アウトフィールドに作られた撮影エリアでの撮影活動に限定される。

③ グレー色ビブス：

本連盟が以下を指名し最大32枚まで発行する。代表カメラとしてインフィールドでの撮影活動を認める。

- ・写真記者協会15枚
- ・日本雑誌協会2枚
- ・日本スポーツプレス協会2枚
- ・外国特派員協会1枚
- ・専門誌陸上競技マガジン2枚
- ・専門誌月刊陸上競技2枚
- ・テレビ局〈含系列局：6系列〉(スポーツニュース協会)6枚

・日本陸連オフィシャル2枚

注) 上記以外にインフィールド種目限定地方新聞社枠数枚

④ ブルー色ビブス：

中継放送局カメラクルーに貸与される。グラウンド内アウトフィールド、インフィールドのいずれの撮影音声作業時に着用を義務付ける。

〈参考〉上記以外の主なビブス着用者

- ・大型映像カメラマンおよびクルー
- ・医務（メディカル）
- ・本連盟科学委員会

6 取材要領

(1) 記者

① 競技者への取材は、ミックスゾーン内フラッシュインタビューエリアとインタビュールームとし、取材時間は競技者の協力のもと、各係の指示や案内に従い行うこととする（目安5～10分程度）。但し、テレビの中継放送がある時は、希望選手のインタビューを最優先に実施するので協力すること。

② 表彰後の取材活動は競技者の競技場退場後、競技者及び関係者の同意のもとで行うこと。

(2) スチールカメラマン・テレビ局カメラマン

① グラウンド内では撮影エリアとし、その他（スタンド等）では撮影エリア他観客の視界の妨げにならない範囲で行うこと。

② 競技運営本部前からの撮影は認めない。また、移動のための通行も認めない。但し、表彰式撮影の際はこの限りではない。

③ グレービブス着用者によるインフィールドでの撮影は、特に危険が伴うため、素早く退避行動がとれる姿勢での撮影のみ許可する。移動の際も同様である。三脚の使用は認めない。インフィールドではカメラマンのみとし、クルーの補助は認めない。現場の競技審判員等からの指示・注意に従うこと。

④ 競技審判員の視界を妨げる場所、記録表示板の前、写真判定関連装置の前後での撮影は認めない。

⑤ 表彰の際の撮影はどの色のビブスでも表彰台周辺で撮影を認める。但し移動と撮影のタイミングについては表彰係・報道係

の指示に従うこと

- ⑥ リモートカメラ設置希望については、事前申請とする。



7 道路競技

- (1) 競技場をスタート、フィニッシュする場合はトラック&フィールド競技会に準じて諸施設と各担当を配置する。
- (2) 競技場以外の場所がスタート、フィニッシュである場合は、報道員室（プレスルーム）、撮影エリア等を臨時に設置する。
- (3) 折り返し、中継所等は必要に応じて撮影エリアを設置指定する。
- (4) 道路での取材については、道路交通法規則の範囲での取材を認める。
- (5) 歩道橋上での取材は禁止とする。

注) 上記(4)(5)は警察との道路使用許可条件による。

【報道係と他競技運営役員との連携】

担当	主な業務	連携部署
受付担当	◇取材要項作成<報道のしおり>	総務員（報道）
記者席担当	◇情報提供	記録・情報処理員
報道員室担当 ・プレスルーム ・カメラマン 控室	◇報道員室管理 ◇情報提供 ◇機材管理	総務員（報道） 記録・情報処理員
インタビュー室 担当	◇取材活動時間の保障	ミックスゾーン係／入 賞者管理係／シャペロ ン
フラッシュイン タビューエリア 担当	<ミックスゾーン内> ◇取材機会の保障	ミックスゾーン係
撮影エリア管理担当（フォトコーディネーター）		マーシャル
・フィニッシュ 先撮影エリア	◇右記の各係と事前調整 ◇フィニッシュ時のクリーン な撮影環境の確保 （スタプロ等の撤去）	総務員／トラック審判 長／監察主任／スター ター／出発係／写真判 定主任／大型映像係
・跳躍種目 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇無線カメラ（リモート）位置 ◇フォトセッション *本部前ビット（ビーム位置 調整）	跳躍審判長／ 跳躍種目主任 大型映像係 写真判定主任
・投てき種目 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇無線カメラ（リモート）位置 ◇フォトセッション	投てき審判長／投てき 種目主任／用器具係／ 大型映像係
・表彰 撮影エリア	◇エリア位置の調整 ◇フォトセッション	式典表彰係 大型映像係
・上記以外の 撮影 <外周> <スタンド> <トラック種目新 記録>	◇境界確定・広告看板位置 ◇エリア位置の調整 ◇ゴールタイマー表示／ フォトセッション	総務員（報道） スターター主任／ 監察主任 総務員（報道） EP・写真判定主任
その他		
・中継放送局 サービス	◇グラウンド内 フラッシュインタビュー競技者 誘導	中継放送局ディレク ター／マーシャル

フォトコーディネーターと撮影エリア

フォトコーディネーターは国内では『報道係』の中に担当者が置かれ中継 TV局・録画撮影 TV局・スチール（新聞雑誌）の各カメラマンへのサービス対応とその撮影エリアの設置・管理を行っている。以下で全国レベル競技会（日本選手権／インターハイ／国民体育大会等）における主な撮影エリア設置管理のポイントを示す。

外周

- ・9レーン外側のラインから1m程の距離の確保/リコーラー等の配置明示/中継局及び大型映像用カメラ位置明示
- ・看板及び広告幕設置の際はその前での撮影を禁止する。

フィニッシュ先エリア

- ・最大限の広さを確保/中継 TV局カメラを基準/大型映像用カメラ位置を考慮/監察員の配置位置を明示/競技者動線を確保/トラック審判長や監察主任の視界を妨げない/スチールカメラマンを最前列とし ENGとのすみ分けの明確化（長イスや台の活用）



- ・フィニッシュ時のトラック上のクリーン化に協力を依頼（具体的には誘導担当マーシャルのトラック上への立ち入りのタイミングやスターター台，レーンナンバー標識等の撤収などである）

跳躍（走幅跳・三段跳・棒高跳）エリア

- ・助走路先延長上（正面）からの撮影の禁止／中継 TV 局カメラ及び大型映像用カメラを基準／スチールカメラマンを最前列にする。
- ・跳躍の瞬間の他者の横切りに注意を払う。



インフィールド

- ・特別に入場が認められたカメラマンのみであり、ビブスの色でしっかりと識別する。



跳躍（走高跳）エリア

- ・着地マットからの距離の確保
- ・トラック側へマットが置かれる場合は外周の撮影エリアが兼ねられるので特に設けない。

投てき（円盤投・ハンマー投）エリア

- ・競技レベルを考慮 / 投てき物が多く落下する距離を避ける / サウスポーなど競技者情報考慮 / サイドネットに注意 / 素早く移動可能な態勢での撮影要請 / 撮影しない時の安全地帯への移動の要請 / 防護ネット等の活用から弧の先（正面）からの撮影保障
- ・当該投てき審判長，主任と連携する。

投てき（砲丸投・やり投）エリア

- ・素早く移動可能な態勢での撮影要請 / 撮影しない時の安全地帯への移動の要請 / 踏切線ジャッジ審判員や光波距離計測装置の配置考慮
- ・当該投てき審判長，主任と連携する。

その他

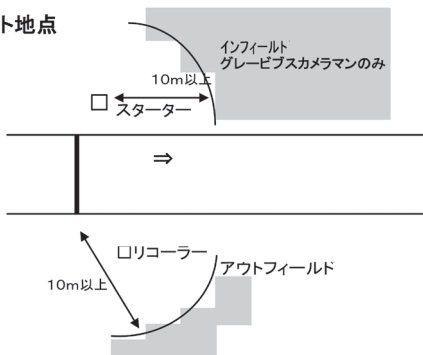
スタンド内

- ・スタンド内上部のフィニッシュライン付近など適当な場所へ設置する。
- ・観客の視界を妨げない。

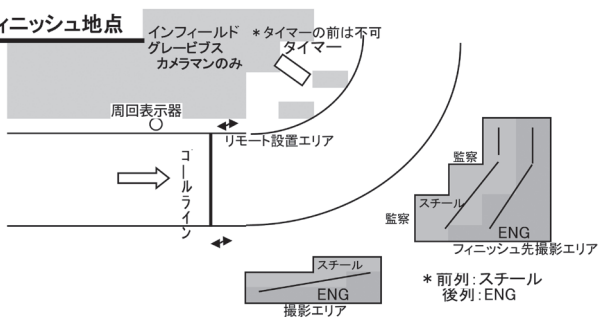
リモートカメラエリア

- ・事前申請による設置希望種目の各台数と希望位置の把握 / 当該審判長，主任との位置の事前協議
- ・カメラ設置のタイミングをあらかじめしおり等で案内しておく。
- ・グラウンド周りのリモートカメラ設置許可範囲の把握をしておく。

スタート地点



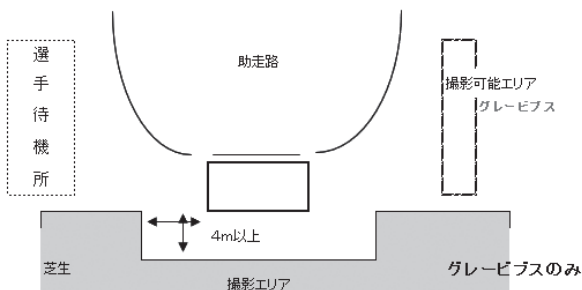
フィニッシュ地点



リレー/200m/400mエリア

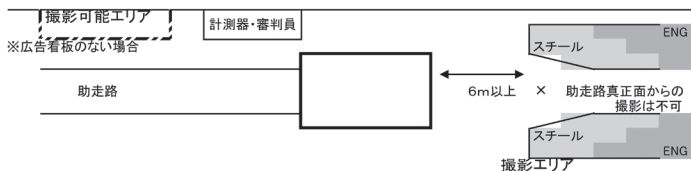


走高跳 (インフィールド側への跳躍時)

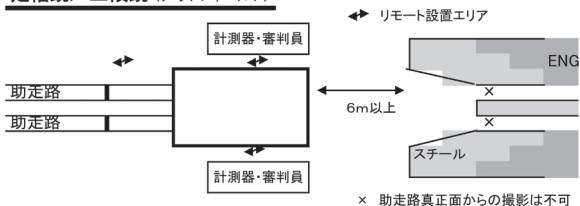


撮影可能エリアは、撮影エリアに加え、さらに競技運営上支障がないと判断した場合に、エリアとして撮影を許可する

棒高跳 (アウトフィールドピット)



走幅跳／三段跳 (アウトフィールド)



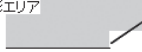
砲丸投

防球具(ネット)等を活用し、
弧の外の撮影を可能にする



グレービスのみ

撮影エリア



競技者待機所

円盤投

グレービスのみ

防護具(ネット等)を利用し、
弧の外の撮影を可能にする



危険区域



右投、左投で危険区域が変わるので注意

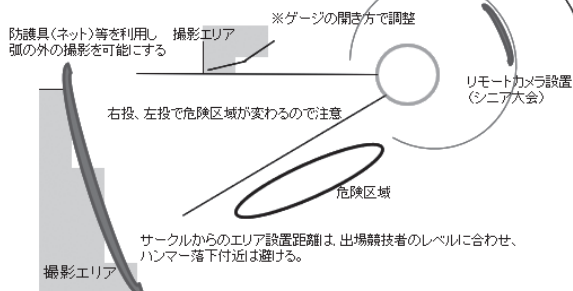
リモートカメラ設置
(シニア大会)

撮影エリア

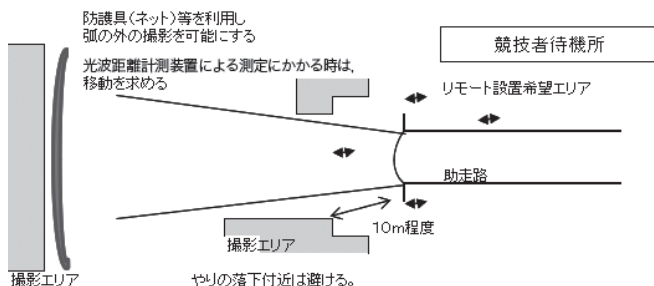
※ゲージの開き方で調整

サークルからのエリア設置距離は、出場競技者のレベルに合わせ、
円盤落下付近は避ける

ハンマー投 グレーブスのみ



やり投 グレーブスのみ



記録・情報処理員

現在の記録・情報処理システムは、道路競技においては、1980年の福岡国際マラソン、トラック・フィールド競技においては、1984年の8か国対抗陸上からコンピューターによる競技記録処理を導入して以来、大会運営の根幹にかかわる業務となっている。日本選手権、国体などでは申し込み競技者の資格審査の補助データとしての利用やプログラム原稿作成、主放送局、通信社へのリアルタイムな情報提供、競技終了後の総合記録作成、ウェブサイトや携帯サイトへのアップ、本連盟への記録申請まで、一貫して行えるシステムとして定着してきた。

また、大型映像が設置されている競技場では、システムを用いて競技終了後ただちに結果を発表できるようになった。

しかし、記録・情報処理にコンピューターが活用されない競技会もまだあることから、コンピューターを利用するしないにかかわらず、記録・情報処理員は従来の番組編成、記録集計・配布、公認記録申請書作成等を行う。

《番組編成員》

1 番組編成関係（番組編成員）の任務

番組編成員の任務については、TR4、TR20、TR25、TR45等によりレーン、オーダー、試技順を決定し発表する（第1ラウンドの発表はプログラム掲載、その後は総務、審判長の承認を得て、招集所付近等に掲示）。

2 番組編成の留意点

トラック競技

① 9レーンの競技場

基本的に1レーンは空け、400mまでの競技は8人でレースを組むことが基本だが、予選の場合は、9レーン全部を使用してレースを行うことが効率的であるなら、1レーンも使用する。

予選より後のラウンドでは、1レーンは救済レーンとして使

用したり、次のラウンドに進む際に同記録者がいた場合などに使用したりする。

② 予選より後のラウンドの番組編成

ルールに従って、予選は資格記録を見ながら、記録上位者が次ラウンドに進出できるように組み、予選が終わった後はその記録と次ラウンド進出条件を見ながら、番組編成する。通常の競技会であれば、決勝進出者は8名、準決勝進出者は16名あるいは24名など8の倍数になるはずだが、競技会で起きたアクシデントなどにより、そうならないケースもある。また、競技場が6レーンしかない場合もある。

どのような場合でも、ランク付けをして組を決定し（TR20.3.2.a,b 及び TR20.3.3）、3つのグループに分け、レーンを決定する（TR20.4 参照）。審判長救済等で追加のラウンド通過者がいる場合は1レーンに配置する。競技場が6レーンしかない場合は、上位グループを2,3,4,5レーン、中位グループを6レーン、下位グループを1レーンとするなど競技開始前から決めておくとよい。

1500m以上の競技に関しては、進出者を間違えないように抽出し、ランダムに編成する。

800mの番組編成に関しては、国内と国際で対応が違うので留意する。

③ 欠場者が多数出た場合

組数を変更したり、予選を中止して、決勝だけにしたりする場合がある。招集状況を招集所審判長と共有し、レース前に確認が取れ、変更可能であるなら臨機応変な対応をしたい。ただし、そうするかどうかはトラック審判長の判断による。

フィールド競技

- ① 予選が行われる場合、その人数により組数を決定する。予選通過標準記録を突破した競技者は全員決勝ラウンドに進める。また、記録突破者が12人に満たない場合、予選の成績から追加補充をする。12位の競技者が同記録で複数名のときにはTR25.22、TR26.8を適用する（TR25.15）。
- ② 決勝ラウンドの試技順は抽選でランダムに組み、発表すると

共に、決勝用のフィールド記録用紙を準備しておく。

混成競技

- ① 混成競技におけるトラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は最終種目（800m, 1,500m）を除いてプログラムに掲載する。最終種目はそれまでの総得点の上位者が最終組に含まれるように編成し、混成審判長に確認を受ける（TR39.7）。
- ② 途中、棄権者等により、混成競技審判長から組編成を変更するよう指示があった場合は再編成する（TR39.7）。
- ③ 各組の人数は5人以上で編成することが望ましく、3人未満にしないようにする（TR39.7）。走高跳、棒高跳では競技運営面から2ピット（2組）編成にすることもある。

8レーンの競技場にて発生した番組編成上の問題点

近年では9レーンの競技場にて開催される大会が増えたため、予選においては9レーンをフルに活用することにより、予選の組数を減らす効果を生み出していた。

準決勝以降の番組編成において、9レーンの競技場では1レーンを救済レーンとして確保しておく考え方が一般的になってきているために、次に発生したような事例について、競技規則に記載のない場合、解釈によって考え方が色々あることが判明した。

予選9組2着+6で24名を選出し、3組2着+2で決勝を行う予定だったが、予選において抗議による次ラウンド進出者が1名増えたために、レーンに空きが無くなり、組数を増やして、24名の有資格者+1名の25名4組で準決勝を争うこととなった。

主管陸協で普段行っている番組編成の基本的な考え方として3グループに分けて、上位グループ4名、中位グループ1名、下位グループ1名とし、2レーンから割り当てた。

この時、抗議による進出者をどこの位置で扱うかが議論になった。番組編成の基本に習えば24番目と25番目が同じ組になる。抗議による次ラウンド進出者は当然25番目である、という考え方から1レーンに入れる、という案と2レーンから割り当てているから1レーンは必ず空けるという案があった。

1レーンを空けて2レーンから組んだ場合

組	下位		上位				中位	
	1	2	3	4	5	6	7	8
1組		24	1	8	9	16	17	25
2組		23	2	7	10	15	18	
3組		22	3	6	11	14	19	
4組		21	4	5	12	13	20	

この場合、25番目を8レーンに入れると中位グループとして扱う事になり、21、22、23、24の下位グループに割り当てられた者と不公平が生じる。
1レーンに入れる案もあるが、8レーンが空いている状態になり、内側のレーンを空けることが望ましいという規則に反することになる。

最終的には以下のように方針を決めて編成を行った。

- 上位、中位、下位の3グループを作るという競技規則の最初の前提を崩さずに編成する。
- 救済者を順番として22番目として扱い、21番目の有資格者と同じ組にする。
- 蛇腹による組み分けは以下の通り。

組	下位		上位				中位	
	1	2	3	4	5	6	7	8
1組		25	1	8	9	16	17	
2組		24	2	7	10	15	18	
3組		23	3	6	11	14	19	
4組		22	4	5	12	13	20	21

《記録・情報処理員》

1 記録・情報処理関係の編成

記録情報部署は班編成により任務の正確・迅速化を期す。

〈班編成〉例

- ・主任（副主任）
- ・成績記録班（トラック／フィールド／混成の部、得点計算）
- ・記録整理班（記録の確認、成績一覧表、公認記録申請書作成）
- ・印刷・送信班

各班員は各自が以下の任務を行うと同時に互いの連携を密にする。

2 記録・情報処理の任務

① 競技会前の情報処理

(a) 出場競技者の基礎データ

氏名, 読み仮名, 所属団体(学校)名, 学年, 生年, ナンバー, 出場種目, 参加資格記録等を整理し, 番組編成員に渡す。

(b) 訂正, 変更等の競技会開始前の諸連絡事項

監督会議における変更事項(予選通過標準記録の修正, 高さの競技の高さの修正等), その時の欠場等の情報を把握し, 関係部署に連絡する。

(c) 競技会に必要な記録の把握

世界記録, 日本記録(含む U20・U18), 学生記録, 高校記録, 中学記録, 大会記録等その競技会に必要な記録を確認し, プログラム原稿とする。また新記録が誕生したとき, どこまでをコメントとして発表するのかあらかじめ主催者や総務と打合せをしておく。

② 競技会当日の記録・成績の集計

各審判長, 計時員主任, 決勝審判員主任, 写真判定員主任, 競技者係, 風力計測員から提供される各種目の結果を集計する。

(a) トラック競技の集計は, 記録用紙に写真判定の記録, もしくは決勝審判員主任からの着順および計時員主任からの計時値, 風向風速が必要な種目については風力計測員からの風力値などを記入する。欠場(DNS), 途中棄権(DNF), 失格(DQ)が生じた場合, 備考欄に記入する。失格の場合にはその理由も簡潔に記す(競技規則違反の場合はどの規則に違反したかを明記(CR25.4))。

(b) フィールド競技の集計は記録担当者・審判長によって整理されてくる記録表について, 最高記録, 順位, 各種の新記録, 風力の確認(走幅跳, 三段跳)を行う。

(c) 得点集計は各決勝種目終了後, 速やかに大会で定められた得点を発表する。

(d) 各種目の順位の決定は競技規則にあるが, 対抗(校)戦の順位決定方法については, 総務と確認する。

※ 記録の集計・確認が済んだら成績記録表を必要部数作成す

る（複写等）。

※ 次のラウンドが行われる場合は、データを番組編成員に渡す。

③ 成績の発表

各種目の結果（リザルト，スタートリスト等）をアナウンサー（含む大型映像係）に伝え，総務に渡し（審判長，表彰係，報道係等に配布する），掲示板に発表する。

④ 記録証明・記録申請等について

公認記録の申請書作成のためにプログラムの変更点を訂正し，成績表を作成する（コンピューターを使用している場合は，データベースでよい）。

日本記録等の申請用紙及びドーピング検査（必要な場合）の準備をする。記録誕生時には申請書類の作成のために総務に協力する。

また，記録証明書発行の手順を確認しておく。

3 記録・情報処理の留意点

① 競技開始前

競技者係において，招集完了時刻後，出場者と欠場者が把握されたスタートリストが当部署に配布されてくる。このデータにより成績記録用紙のレーン順，ナンバーをチェックしておく。

また，トラック競技において欠場者が多く，前ラウンド実施の必要がない場合や組をまとめることが適当であると判断される場合には，総務や審判長に確認する。

② 競技中

競技の状況を観察し，競技中のトラブルをチェックしておく。

③ 競技後

競技中にチェックしたトラブルが解決されているか確認する。トラック競技で黄旗が上がった場合には，必ず審判長より監察員記録用紙を受領し，裁定結果をリザルトに反映させる。記録を確定させる前に，未記入（DNSの記入漏れやDNFの把握）がないか，フィールド競技で記録がない場合に記録なし（NM）が記入されているか等の最終確認を行う。

④ リザルト，スタートリストの配布

リザルト（予選，準決勝，決勝），スタートリスト，番組編成の用紙は，色分けされていると分かりやすい。

コンピューターを利用する競技会運営

全国大会や国際大会規模の大会処理は、ほとんど参加申込みから記録集印刷原稿作成までを行う場合が多い。大会によっては、プログラム作成と大会運営システムは、別々に依頼していることがあるので、各加盟団体主催競技会等を含めてコンピューター処理はどの段階までを行うのか後々の混乱を避けるために事前に確認する必要がある。

〈確認事項〉

- ・ 申込から資格審査の段階で利用するか、競技会処理だけを行うか。
- ・ プログラムの印刷原稿を作成するか。
- ・ インターネット上に記録等を発表するか。
- ・ ペーパーレス大会運営をどこまで行うか。
- ・ 競技会終了後、デイリープログラム原稿を作成するか。
- ・ 記録集を発行するための原稿が必要か。
- ・ 参加した各加盟団体に電子データを提供するか。
- ・ テレビ中継等オンラインによるリアルタイムのデータ提供が必要か。

1 記録センターの設置

コンピューターを利用する競技会では、記録センターを設置する。記録センターでは総務または総務員（総括）の下で記録に関するすべての情報を管理把握するとともに、各部署で使用しているコンピューターが正常に作動しているかについても管理把握する。

① 構成

全国的大会における基本人数（大会期間、1日の競技時間、競技会の性格、種目数等によって増減する）

〈センターメンバー〉

記録センター長 1人（総務員がなる場合が多い）

副センター長	1人（記録情報主任がなる場合が多い）
番組編成員	2～3人（得点集計係を兼ねることもある）
記録担当	2～4人
情報処理担当	6～10人
システムエンジニア	2～4人（公認審判員とは限定しない）
印刷係	8～10人（必要な場合のみ割り当てる）
※どの担当にも補助員が必要な場合がある。	

競技者係、番組編成員、大型映像操作員（競技場に設置されている場合）、アナウンサー、得点集計係（記録員や番組編成員が兼ねる場合もある）、混成競技係、科学計測員、風力計測員、写真判定員、フィールド審判員、出発係、監察員など、それぞれの場所で機器を操作する部署との密接な連携が重要である。それらの部署の機器操作に記録センターから審判を派遣する場合は、任務に応じた増員が必要である。

② 任務

記録センターの大会での業務は、機器の設営から開始される。事前に競技開始時刻を周知徹底し、業務開始集合時刻を決定して準備に入る。

大会前日までに準備を開始することが可能であれば、可能な場所から設営しておくことが望ましい。

(a) 記録センター長

センター内におけるすべての業務を統括し把握する。

(b) 副センター長（記録情報主任）

センター長を補佐し、他部署との調整を行う。

(c) 番組編成員

予選以降のラウンドの番組編成を行う。競技会の性格によっては決勝後の得点集計係を兼ねる。申合せ事項等により規則に定める以外の編成を行う場合には、事前に主催者に編成基準を確認しておく。

(d) 記録担当

記録の点検を複数人で行う。新記録の管理、競技会記録・申請書類の作成も行う。

(e) 情報処理担当

コンピューターやインカムの管理、測定機器（写真判定装置、光波距離計測装置）や表示装置（大型映像表示盤、ワールド競技記録電光表示盤）との連動接続等を担当する。

競技会前に情報処理機器の操作方法を各担当部署の競技役員に講習し、操作間違いや機器のトラブルのときに対応する。

(f) システムエンジニア

ハード・ソフトウェアの専門技術を担当する。加盟団体内で機器・操作に熟知した審判員を割り当てることが前提だが、全国規模の大会等では、予期せぬ事態が発生することがあるため、専門職があたることもある。

特に競技規則以外で特別な申合せ事項を決めている場合には、ソフトウェアの機能追加・修正などが必要な場合もあるので、大会準備の段階から連携していることが望ましい。

(g) 印刷係

各種リストの印刷・配布を担当する。あらかじめ配布先、必要枚数を確認しておく。大規模な大会で印刷室が複数になる場合は人数を増やす（配布は補助員が行うこともある）。

2 留意点

① 情報処理の機器整備と位置付け

加盟団体内で情報処理を行うには、二つの大きな要素が整備される必要がある。まず、第一にコンピューターなどの情報機器の整備などインフラ整備である。情報機器は全国大会や国際大会を開催する第1種公認競技場の使用条件になっているが、実際に競技場に導入されたとしても、そこに出かけてデータ作りを行うわけにはいかない。

競技会のときだけ特別に業務が発生するのではなく、日常恒常的に業務が行われているのが実状なので、委員会や部を位置付けるとともに加盟団体で自由に使用できる機器を導入することも計画しなければならない。個人の好意で機器を使うことにもおのずから限界がある。十分に検討した上で、一部の人間だけに業務が集中しないように方向付けを行うことが望ましい。

第二に情報処理部門の位置付けである。コンピューターを取扱う情報処理部門については、加盟団体内での機構に組み込み各種競技会や講習会で部門員を養成することが必要である。このことは浸透してきているが、より多くの競技会でのコンピューター導入のために継続的な養成をお願いしたい。

② 配電施設の配慮

競技場に情報機器等の弱電施設が整備されるようになってきている。

今後、競技場に弱電設備を導入または改修するときは、以下の点を考慮して計画することが望ましい。

〈弱電施設の導入・改修時の留意点〉

- ・ 競技場の規格に合致しているか。
 - ・ コンピューター室（記録室）やフィールドアリーナの弱電ハンドホールの電力容量は十分か。
 - ・ コピー機や内線、Faxが設置されているか。
 - ・ 屋内および屋外のケーブル取り出し位置が適切か。
 - ・ コンピューターやインカム、タイミングシステムのケーブルが正しく敷設（埋設）されているか。
 - ・ コネクター盤のコネクターの取り付け方が統一されているか。
 - ・ インカム配線の端子台はチャンネルごとに分けられているか、混線はないか。
 - ・ コネクター取付のピンアサインは間違っていないか。
 - ・ ハンドホールおよび屋外のコネクター端子盤の防水加工は十分か。
 - ・ 無線LANを使用する場合、利用台数を想定した負荷を考慮してアクセスポイントが設置されているか。
 - ・ 停電時のバックアップバッテリーは確保されているか。
 - ・ その他加盟団体が特に要望する設備、規格等が満たされているか。
- など

③ 個人情報の保護

コンピュータを利用することで情報を簡単に交換できるようになった。データをまとめ、メールでエントリーしたり、結果を簡単にブラウザ上で見たりすることができる。安易にそのようなことができるようになったが、だからこそ必要な人が必要な情報だけを見られるように制限をかける必要がある。個人情報保護の観点から是非、この問題に関してはじっくり考え、対応したい。

[参 考]

- ・現在、陸上運営システムとして、数社が開発運用しているが、すべて統一されているものではないので各加盟団体で競技場や使用条件等を検討する必要がある。

- ・競技場内のネットワーク（LAN）

大別すると下記のネットワークが考えられる。今後、新設・改修する場合、LAN方式の単体使用より組み合わせて使用することが増えると考えられる。

名称	伝送媒体	規格・伝送速度	最大伝送距離
イーサネット (Ethernet)	ツイストペアケーブル 光ファイバー	IEEE802.3 10M/100M/1000Mbps 10Gbps	100m 100m～数十km
無線 LAN (WirelessLAN)		IEEE802.11a/b/g/n 2/11/54Mbps	数m～数百m

ただし、組み合わせた場合は、最低の速度となる。

※無線 LAN を屋外で使用する場合には、他の無線設備や電子機器等との干渉を受けやすいためあらかじめ通信状態の確認が必要である。新しい規格も出現し、さらに複雑になってきているが、まずはその競技場にあったものを専門家と相談しながら導入することが望ましい。特に大規模大会では警備の関係上、他に無線を多く用いる部署もあることから注意が必要である。

3 記録の速報について

コンピューターを利用することで迅速で正確な記録処理が可能になった。しかし、コンピューターも一つの道具に過ぎないので、使い方を間違えるとまったく機能しなくなるため、人間がきちんと管理しなければならない。

そのことを踏まえ、コンピューターを利用した記録速報について検討したい。

現在、大型映像表示装置が設置してある競技場では映像と記録発表を効果的に組み合わせ、競技会を盛り上げるとともに、競技を見る人がいろいろな意味で陸上競技に対して興味や関心を持てるように工夫をしている。その中で記録速報は、フィニッシュ付近に置かれたフィニッシュタイマー（トラックタイマー）、フィールド各ピットに置かれた記録電光表示盤、また大型映像表示装置を利用して写真判定の結果をその場で見せるライブリザルトという手法が用いられている。すべて速報であるので、アナウンサーが「速報です。正式結果をお待ちください」などとアナウンスしたり、大型映像には「判定中」等の文字を表示したりするなどして、今、どのような結果が競技場内に知らされているのかを確認しながら、正式結果をできるだけ迅速に正確に示す必要がある。

このような速報表示ができない競技場では、別の記録速報の出し方を検討する必要がある。フィニッシュタイマー（トラックタイマー）やフィールド記録掲示板などがあれば、それを有効に活用して正確で迅速な記録速報を発表する工夫をしたい。また、正式結果をいち早くたくさんの人に伝えるために、速報サイトに記録を掲載し、携帯電話（スマートフォン）から記録が確認できるようなサービスなども有効である。

その競技会に合った記録速報の形を探り、迅速かつ正確な発表ができるよう心がけたい。

ラウンド通過と番組編成に関して

A：トラック競技

1. レースの全部か一部に各自のレーンを用いる種目
 - (1) ラウンド通過者に同着があるときは下記(2)の場合を除いて同着者全員を次のラウンドに進ませ、記録上位によるラウンド通過数を減じる。
 - (2) 複数組のラウンド通過者に同着があり、記録上位によるラウンド通過数をゼロにしてもなおレーンが不足する場合は次の手順で通過者を決定する。
 - 1) 各組内の同着者で抽選し組内の着順枠通過者を決定する。
 - 2) 残りの枠は、前のラウンドの記録に関係なく、上記1)での抽選に漏れた競技者全員で抽選し次ラウンド進出者を決定する。

〈例1〉 3組2着+2の準決勝結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 2着 C君 4着以下省略

第2組 1着 D君 2着 E君 2着 F君 4着以下省略

第3組 1着 G君 2着 H君 2着 I君 2着 J君 5着以下省略

- 1) B, Cから1人, E, Fから1人, H, I, Jから1人を抽選によって選り着順枠の6人を決定する。
- 2) 残りの枠(8レーン競技場では2, 9レーン競技場では3)は、上記1)での抽選に漏れた4人全員で抽選して決定する。

〈例2〉 2組4着の準決勝の結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 3着 C君 4着 D君 4着 E君

第2組 1着 F君 2着 G君 3着 H君 3着 I君 3着 J君

- 1) D, E から1人, H, I, Jから2人を抽選によって選り、着順枠の8人を決定する。
- 2) 9レーン競技場では、上記1)での抽選に漏れた2人で抽選して1人を決勝進出者に加える。

Q：第2組の落選者は3着同着なので、第1組の4着同着落選者よりも上位ではないか？

A：第1組の落選者の格付けは組内で5番目、第2組の落選者

も組内では5番目となるので同格とみなす。着順は組内で独立しており、他の組の着順と比較はしない。

(3) 救済措置があり、ラウンド通過数が増えた時の番組編成

1) 9レーン競技場の場合

前のラウンドで救済があった場合は9レーン目を使用し、救済者のレーンシードは下位グループに含める。救済が無く、9レーン目が空いている場合は、前のラウンドの通過最終枠同着者を次のラウンドに進ませるが、同着者が複数ある場合は先に示した方法によって抽選して通過者を決定する。

2) 8レーン競技場の場合

準決勝は組数を増やすなどして対応するが、決勝は前のラウンドの着順あるいは着順+記録上位のみとし、前のラウンドでの救済は原則として行わない。

2. レーンを用いない種目

ラウンド通過者に同着がある場合は、その全員を次のラウンドに進ませ、記録上位による通過数は変えない。

B：フィールド競技

1. 予選を行う場合は各組の競技力が均等になるように編成する。
2. 決勝だけを行う長さの跳躍種目において、最初の3回の試技を2か所に分けて行う場合は両組の競技力が均等になるように編成する。

一つのレーンに2人を入れることができる 800 m

前ラウンド通過後の100mから800mまでのレーンシードの方法はTR20.4に示されているが、同条項〔国内〕で800m競走ではそれぞれのレーンで2人の競技者が走ってもよいとしている。

つまり、次のラウンドにタイムで進出する最終枠に同記録者がいたり、妨害を受けた競技者を審判長が救済するときなどは、この〔注意〕を適用して1つのレーンに2人を配置して、レーン数を超える競技者数で実施することが可能となる。

そうした状況下でしばしば議論されるのは「どのレーンに複数の競技者を配置するべきか」という問題である。競技規則に従って考えると1, 2レーンとなるが、接触等の安全面を考慮すると外側のレーンを使用すべきという意見がある。

ただし、近年の大規模競技会（例：日本選手権やゴールデングランプリ）では、外側レーンぎりぎりまで広告ボードがぐらりと配置され、SISに連結しているスターティングブロックも外側レーンのぎりぎりに置かざるを得ない状況がある。したがって、このような状況では8レーンの競技場の場合、一番外側の第8レーンを避け、一つ内側の第7レーンを使用することが適切であると言えよう。広告ボードやSISの機器がない場合は一番外側の第8レーンを使用することが適切である。

当日、混乱をきたさないようにするためには、競技注意事項の中に「800m以上の種目で最終枠に同タイムがあった場合は、その全員が次のラウンドに進出できることとし、800mについては中位の第8（7）レーンに2名の競技者を配置する」等のように明記しておくことを推奨する。

また10人で実施しなくてはならない場合は7, 8レーンの混雑を避けるために第8（7）レーンの次には第2レーンに2人を入れるとよい。いずれの場合も外側レーンは中位グループで、内側レーンは下位グループで抽選する。

9レーンある競技場では通常、第1レーンは予備レーンとして空けておく。救済があり10名で実施しなければならない場

合の例を以下に2つ示す。

〈中位の8,9レーンに3名配置する場合〉

救済された2名は1,2レーンに、ランキング8位の1名は第3レーンに配置される。ランキング中位（5～7位）の3名は抽選で8,9レーンに配置される。この場合トラックの状況にもよるが第8レーンまたは第9レーンに2名の場合もある。

〈1～3レーンに4名配置する場合〉

救済された競技者2名は1,2レーンで抽選され、ランキング7,8位の競技者は2,3レーンで抽選され第2レーンに2名配置することが望ましいと言える。

医師（医務員）

1 医師および医療チーム

(1) 国際競技会役員

CR3で、世界選手権、オリンピック大会、WAS大会、エリア大会、エリア選手権大会において、医事代表およびアンチ・ドーピング代表を置くとなっている。医事代表は、医事関係の事項について最終的な権限を有し、競技場において医学的検査、治療、救急医療を行える適切な施設の提供、および選手村における医療の提供を確保する（CR6）。アンチ・ドーピング代表は、ドーピング検査を行う適切な施設を整え、ドーピングコントロールに関する事項について責任を負う（CR7）。

(2) 国内競技会

CR13で、主催者は競技会役員として医師（医務員）1人以上を任命することと規定している。規模の大きな競技会（都道府県選手権クラス以上）や道路競技会では医療活動を医師1人で行うのではなく、医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士などで構成される医療チームで行うべきである。道路競技では審判員を医務係としてチームに加え、救護車および収容バスに同乗させる。

参加する医療スタッフ全員は、主催者から競技会役員としての委嘱を受ける。

競技規則では医師の権限や任務についての記載はないが、競技会運営上、医師の判断や指示が必要な事項が多いため、その役割は重要である。代表的な事例は、競技中の医療処置である。競技中の競技者に対する助力は厳しく禁止されているが、主催者が任命した医療スタッフ（医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など）による医療処置は、助力とはみなされない。TR6（競技者に対する助力）に「診察、治療、理学治療は、大会組織委員会に任命され、腕章、ベスト、その他識別可能な服装を着用した公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで行うことができる」と記載されている。

競技者は、主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命じられたときは、ただちに競技をやめなければならない（TR6.1）。現実的には、医療スタッフから競技者に対する競技中止の助言をもとに、主催者が競技者へ競技中断を指示することとなる。

2 資格

競技会における医療スタッフ（医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など）には公認審判員の資格は不要である。しかしながら、医師については日本医師会による健康スポーツ医研修制度、日本スポーツ協会によるスポーツドクター研修制度、日本整形外科学会によるスポーツドクター研修制度が実施されているため、これらを修了したものであることが望ましい。また、陸上競技を行っていた、もしくは現在行っている医師は、競技規則にも精通しており、かつ陸上競技者の心身の変化を理解しやすいので適材であろう。スポーツ看護に関する研修制度はないが、スポーツ現場に精通している保健師・看護師がよい。保健師・看護師資格をもっている公認審判員も多く、このような審判員に医療チームに加わってもらおう。トレーナーは本連盟が実施している陸上競技に特化したトレーナーセミナーを受講修了した者、または日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を持つ者が望ましい。鍼師、灸師、あん摩・マッサージ・指圧師、柔道整復師、理学療法士の資格を持っているトレーナーは、その資格の範囲内で競技者への対応も自ら行える。医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士は心肺蘇生術や自動体外式除細動器（AED）の取り扱いに習熟していることが求められる。

3 任務

医療チームの任務は、競技者、サポートスタッフ、競技会役員、ボランティアスタッフ、報道関係者、本連盟関係者、観客およびVIPに対して医療サービスを提供することである。主催者は大会の規模により医事衛生委員会を組織し、事前の打合せと適切な準備を行うことが必要である。

国内競技会の場合、医療サービスを行う場所の範囲は主に競技場

とウォームアップ場であるが、国際競技会の場合には練習場、選手村、VIPホテルや報道関係者宿舎も含まれる。競技会の応急処置に対する医療サービス費用は主催者がまかなうのが原則である。しかし、応急処置のみでは対応できない事態に備え、主催者は参加者全員を対象とする疾病・傷害保険に加入するか、もしくは参加者・参加チームに疾病・傷害保険への加入を義務づける。また、主催者は後方協力医療機関を前もって指定し文書で依頼する。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。競技会における医療サービスは応急処置を行うまでであることを競技会要項に明記する。

本連盟（医事委員会）はドーピング検査を実施する国内競技会に対して、医事およびドーピングコントロールに精通したナショナルフェデレーションリプリゼンタティブ（NFR）を派遣する。NFRは本連盟および主催者の立場で、競技会における検査、治療、救急処置についての設備を確保し、かつ日本アンチ・ドーピング機構（JADA）認定DCO（ドーピングコントロールオフィサー）と協同し、ドーピング検査が円滑に行われる設備を確保する。NFRが派遣される競技会では、主管都道府県陸協は医事確認書を本連盟に送付し、NFRに情報提供をして必要であれば指示を受ける。

国際競技会の場合には、医事代表とアンチ・ドーピング代表がWAもしくはアジア陸連より派遣されるので、連絡を密に取り、競技会運営が円滑に行われるようにする。

4 競技場における医務活動

主催者は医療スタッフを任命する。主要国内競技会および国際競技会において、医療チームはメディカルステーション（医務室、救護室）、トレーナーステーション、スタジアム救護ステーションの3ステーション制を敷く。主催者は医療関係者を任命する。

メディカルステーションには医師、保健師・看護師が常駐する。主に競技場、ウォームアップ場において傷害を受けた者に対して応急処置を行うため、競技の進行や傷害の発症機転が把握でき、かつ傷害を受けた競技者の移送を考え、競技場フィニッシュ付近のトラックに面した場所が望ましい。トレーナーステーションは、ウォー

ムアップ場の中でメインスタジアムへの動線に近いところに設置、スタジアム救護ステーションはメインスタジアムのフィニッシュ付近と第二曲走路入口あるいは棒高跳のピット付近に設置し、トレーナーが待機する。大会の規模により2班から5班の編成で行うことがある。待機場所はトラック、フィールド両方の選手の競技が見える位置が望ましい。競技会役員が医療チームスタッフに必ず連絡がとれるようにするため、各ステーションには携帯電話（スマートフォン）、トランシーバーなどを用意することが望ましい。また、医療チームスタッフは、それとわかる目印となるものを身につけるべきである。

メディカルステーションに備えておくべき物品と備品（表1）や薬剤リスト（表2）を挙げる。運動中の競技者・審判員や観客の心臓突然死防止のため、AEDを配備する。AEDはメディカルステーションの他、フィニッシュ付近および観客席などに複数準備されることが望ましい。医療記録および活動記録の整備もきちんとしておかなければならない。主催者および主管陸協は医師と必要物品について事前に連絡しあう必要がある。

5,000m以上のトラック競技では、気象状況に応じて、競技者に水とスポンジを用意することができる。10,000mを超えるトラック競技では、飲食物・水・スポンジ供給所を設けなくてはならない（TR17.15）。熱中症発症の危険性が高いと判断する際には、できる限りWBGT計を用いる。競歩、道路競技、クロスカントリー等においても、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する（TR54.10, TR55.8, TR56.7）。

競技中に雷が発生した場合には、落雷事故を防ぐため、競技会主催者より競技継続または中断、中止に関する情報をただちに知らされるものとする。

5 ドーピングコントロール

競技会におけるドーピング検査（競技会検査）はWAから指示され実施するものと、JADAが本連盟と協同で行うものがある。

ドーピングコントロールを実施する競技会は、その旨を競技会要項に記載する。また、WAおよびJADAは競技会外検査も実施する。

競技会外検査の対象となる競技者は主として、WAもしくはJADAの検査対象者登録リスト競技者である。

主催者は競技会役員としてシャペロン役員、検査室役員を任命する。それぞれの役員の要件はJADAにより定められている。JADAは、リードDCOおよびその他のDCOを決定する。DCOはリードDCOの指揮のもと、ドーピングコントロールステーションの設営、採尿立ち会い、検査手続きなどを行う。採尿立ち会いDCOは競技者と同性でなければならない。本連盟（医事委員会）より派遣されるNFRは本連盟および主催者の立場で、DCOと協同し、ドーピング検査が円滑に行われるようにする。ドーピング検査の対象競技者は基本的にリードDCOの指示により定まる。

シャペロン役員は18歳以上の成人とする。シャペロン役員は検査対象競技者と同性でなければならない。JADAから指定のあった男女それぞれの人数を手配する。シャペロン役員はJADAが指定した時間に集合する必要がある。シャペロン業務中に他の業務を兼務することはできない。シャペロン役員はドーピング検査の対象競技者に通告し、それ以降、競技者に付き添う。対象競技者は通告後、速やかに検査室に到着しなければならない。競技者が18歳未満の未成年の場合には、成人のサポートスタッフを通告時およびドーピングコントロールステーション入室時、検査時に付き添わせるように競技者に伝える。対象競技者から水分摂取の要求があれば、3本程度の中から対象競技者自身に選択してもらう。シャペロン役員から直接手渡ししてはならない。主催者はシャペロン役員数についてNFRに事前に報告しなければならない。検査室役員はドーピングコントロールステーションの設営、セキュリティの確保、対象競技者などの受け入れ、他の競技会役員との連絡調整などを行う。

ドーピングコントロールステーションは独立した区画で、対象競技者の競技終了後の動線と、関係者以外の出入りをコントロールできるセキュリティを考えて配置する。検査室は、1.受付、2.待合室、3.検査手続き室、4.採尿室（トイレ）で構成される。実施する検査数の規模により広さや採尿室数は異なる。血液検査が実施される場合には、採血室を準備する。詳細については、当該競技会NFRおよびリードDCOに確認する。

ドーピングコントロールステーションにおいて必要な物品について挙げる（表3）。ドーピング検査を新たに実施する希望のある競技会は、事前に本連盟事務局まで相談すること。

ドーピングコントロールについては本連盟発行「クリーンアスリートをめざして2021」、またはその最新版およびJADAホームページを参照のこと。

国際競技会ではWAもしくはアジア陸連より派遣されるアンチ・ドーピング代表の指示に従う。同記録を含む世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録（もしくは同記録）として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出なければならない。なお、同記録を含む世界記録とアジア記録は、U20 および U18 のものを含むものとする。

日本国籍を有する競技者が世界記録、エリア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した際の検査費用は、国内外の競技会を問わず本連盟が負担する。海外の競技会で、現地支払いを求められる場合は、競技者個人の立替え払いとし、帰国後本連盟が検査費用を弁済する。

海外の競技会において、日本記録を樹立しドーピング検査が行われなかった場合は、日本に帰国後ただちにドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように競技者は本連盟事務局へ連絡しなければならない。対象者は、禁止薬物を摂取することがないように注意しなければならない。国内の競技会において、同記録を含む日本記録（オリンピック種目のみとする）を樹立した場合は、ドーピング検査を記録確定後24時間以内に受ける必要がある。主催者は本連盟事務局員にただちに連絡し、ドーピング検査の実施方法について確認する。

18歳未満の競技者については親権者からドーピング検査に関する同意書を得る。そのことも大会要項に記載されなければならない。18歳未満の競技者が検査対象となった場合には、リードDCOが本人から同意書を受け取る。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、速やかにJADAに直接郵送してもらう。DCOは同意書の取得に全く関与しないので、NFRが対象である18歳未満の競

技者に伝える。また、この同意書は1度提出されれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

6 トレーナー活動

トレーナーはそれと明示されたビブス等を着用する。トレーナー活動は、トレーナーステーション班とスタジアム救護ステーション班で構成される。トレーナーは競技者の安全確保のため、トランシーバーなどを用い、メディカルステーションと緊密な連絡を行わなければならない。

トレーナーステーション班は競技者のコンディショニング活動を行う。通常はウォームアップ場付近に設営される。トレーナーの人数に合わせてマッサージベッドが必要である。治療器を用いることも多いため、屋外に設営される場合でもAC電源の準備は必要である。設備について挙げる(表4)。応急処置に必要な氷(アイシング用)を十分量用意する。

スタジアム救護ステーション班は、競技中に受傷した競技者に対して、現場にて緊急的処置を行い、または担架/ストレッチャーにてメディカルステーションに搬送する。通常は第一曲走路入口付近と第二曲走路入口付近に設営する。棒高跳の場合には、ピット付近へ移動する。応急処置に必要な氷を用意する。AED 配備も行う。

救護ステーションは可能な限り、競技監察可能な日陰を確保することが望ましい。また、その交代要員を準備する必要がある。

7 道路競技における医務活動

スタート、フィニッシュ地点には必ずメディカルステーションを設置する。また、走路上に救護テントを設置する。医師、保健師・看護師、救急救命士などを配置する。メディカルステーション、救護テントにはAEDを配備する。

熱中症発症の危険性が高いと判断する際には、できる限りWBGT計を用いる。道路競技、クロスカントリー等では、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する(TR55.8, TR56.7)。

競技者は、医師または主催者が任命した医療スタッフから競技の

中止を命ぜられたときは、ただちに競技をやめなければならない（TR6.1）。

TR6.2「助力」に関する規則では、主催者が任命した医療スタッフが行う理学療法や医療処置は助力とは見なさないとしているが、「上記（公式の医療スタッフが競技区域内で、または、この目的のために医事代表もしくは技術代表の承認を得たチーム付き医療スタッフが競技区域外の所定の治療エリアで、行う）以外の他者によるこのような介助や手助けは、競技者がひとたび招集所を出た後は、競技開始前であろうと競技中であろうと、助力である」と規定している。しかしながら、この条項は主として競技場内で実施される種目に関して規定されたものであり、競技が広域にわたって展開される道路競走では医療スタッフが直ちに現場に到着できないことが多いので、主催者は緊急事態が発生した場合に臨機応変に対応できるよう、医療スタッフが到着するまで、監察員や走路管理員に医療スタッフの権限の一部を付託しておく。

AEDを配備した移動救護車、収容バスを用意し、医療スタッフを同乗させる。十分な飲料、毛布などを準備する。競技者を収容したらただちに、大会本部へ競技者名とナンバー、収容地点を連絡する。

主催者は後方協力医療機関を前もって指定し、文書にて依頼する。医療機関に対しては、道路競技があることを事前に連絡しておくことよい。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。

8 医師不在の場合

様々な理由で、主催者が医師を任命できない場合がある。主催者は審判のなかから、医療スタッフを任命し、後方協力医療機関や救急隊へ連絡がとれるようにしておく。公認審判員の中の保健師・看護師免許をもつ者、もしくは救急救命士で心肺蘇生術に習熟し、AEDを取り扱うことのできる者が望ましい。

主催者から任命された医療スタッフは、競技者に競技中断を命じることができる。

9 選手村、VIPホテル、報道関係者などの宿舎における医務活動

世界選手権などの国際競技会では、宿舎において医療サービスを提供する。宿舎には医務室を設け、医療チームスタッフが対応する。夜間はオンコール体制とし、24時間対応できるように準備する。

地元医師会へ医師、保健師・看護師の派遣を依頼し、後方協力医療機関を決めておく。

トレーナーサービスも不可欠である。各国選手団が自由に使えるように、マッサージ台を備えたマッサージルームを確保する。

細かな点については医事代表の指示に従う。

10 感染症対策

新型コロナウイルス感染症の潜伏期間は最大で14日で、エアロゾル感染、飛沫感染、接触感染で人から人へ伝播する。感染力は発症の2～3日前から発症直後に最大となり、発症前や無症状の感染者（感染を受けたにもかかわらず無症状の者）から感染しやすい。新型コロナウイルスの感染、重症化、後遺症発症に予防効果のあるワクチン接種が公費で行われており、競技会参加の有無にかかわらず、ワクチン接種を受けることが勧められる。競技会において最大限の新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、本連盟は2020年6月11日に「陸上競技活動再開のガイダンス」を公開し、感染状況に応じて改定してきた。今般、2023年5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染療法の取り扱いが2類相当から5類へ変更されることとなる。本連盟ではこれまでのガイダンスを、「陸上競技活動開催のガイダンス」と刷新した。大会主催者は最新の「陸上競技活動開催のガイダンス」に基づいた感染症対策を講じるものとする。本連盟は「感染症対策本部」を設置し、各大会は「感染症対策本部」と連携の上、参加者、競技会役員の感染症予防、クラスター形成防止に積極的に関わる。競技会の開催可否、実施方法については、行政、保健衛生当局、本連盟、WAなどによる情報をもとに検討する。

ドーピング検査室は3つの密（密閉、密集、密接）になりやすい環境にあるため、その防止に向けて大会主催者は本連盟および日本アンチ・ドーピング機構と事前協議を行う。

いかなる立場での競技会参加であっても，参加前後の健康状態を自身でモニターする習慣づけが重要である。大会医療スタッフは，大会主催者，行政，保健衛生当局と連携しながら感染症対策の検討，実施において重要な役割を持つ。

陸上競技大会・ロードレース大会医事確認書

この確認書は、大会医事運営を滞りなく行うために必要なチェックリストです。陸上競技審判ハンドブックを参照し、チェック項目を確認のうえ準備を進め、大会2週間前までに陸連事務局([Email: medical@jaaf.or.jp](mailto:medical@jaaf.or.jp))へご提出下さい。

大会名	:				
開催会場	:				
競技会開催日	:				
総務ご担当者	:		携帯電話	:	

1. 医師または医療チーム							
統括医事責任者(メディカルディレクター)			氏名			所属:	
医師総数	_____名	看護師	_____名	トレーナー	_____名	救急救命士	_____名

2. スタジアムでスリー・ステーション制を採用する	・はい	<input type="checkbox"/>	・いいえ	<input type="checkbox"/>	
---------------------------	-----	--------------------------	------	--------------------------	--

3. スタジアムでのステーション設置箇所		
・メディカルステーション	:	
・トレーナーステーション	:	
・スタジアム救護ステーション	:	

4. ロードレースでの救護所設置場所	
※別紙設置場所の図面をご提出いただく形で問題ございません	

5. 物品等のチェック			
・医療品備品チェック	<input type="checkbox"/>	確認済(✓をいれてください)	
・医薬品チェック	<input type="checkbox"/>	確認済(✓をいれてください)	
・自動体外式除細動器(AED)配備	<input type="checkbox"/>	確認済	台数 _____ 台

6. 後方協力病院への連絡		<input type="checkbox"/>	確認済(✓をいれてください)
・病院名		連絡先	

7. 日本陸連医事委員会へ連絡事項などがあればご記載ください	

記入者	:		連絡先	:		記入日	
-----	---	--	-----	---	--	-----	--

表1 メディカルステーションの設備、備品

下記の設備、備品は競技会規模やメディカルステーションの広さによって異なる。原則として競技場設備として考える。

流し	1台（お湯も出る）	
診察用机	1台	
診察用椅子	2脚	
ベンチ	1台	
血圧計	2台	
診察用ベッド	1台 （トレーナー用ベッドのように硬めのもの）	
休養用ベッド	2台	
毛布	4枚	
シーツ	4枚	
まくら	3個	
まくらカバー	3枚	
バスタオル	5枚	
酸素ボンベ	1本（充填されているもの）	
携帯用酸素ボンベ	2本	
鼻カニューラ	2本（ディスポーザブル）	
洗面器	2個	
大型製氷機	1台	
小ビニール袋	20枚（アイシングのために必要）	
冷蔵庫	1台	
ロッカー	2台	
場内モニターテレビ	1台	
点滴架台	2台	
ストレッチャー	1台	
電話	1台	
ビニールゴミ袋	5枚（嘔吐用に黒い袋も準備するといふ）	
WBGT計	1台	

自動体外式除細動器（AED）複数台
車椅子の準備も検討すること。

表2 メディカルステーションの医薬品と医療用品・医療器具
I. 競技会医薬品 (代表的薬剤名をあげる)

(A) 医療用医薬品

(*: 禁止物質であるため、取り扱いに注意を要する)

1. 抗菌薬	
ケフラール, セフゾン, クラビット のうち1もしくは2	
2. 抗ヒスタミン剤	
タベジール, ニボラジン のうち1もしくは2	
3. 鎮痛解熱剤, 抗炎症剤	
ロキソニン, ボルタレン, バファリン のうち1もしくは2	
4. 抗不安剤, 鎮静剤	
セルシン	
5. 電解質溶液	
0.9%生理食塩水 500ml(TUE必要), 20ml	
乳酸リンゲル液 500ml(TUE必要)	
5%ブドウ糖液 500ml(TUE必要)	
20%ブドウ糖液 20ml	
6. 眼, 耳, 鼻	
タリビット点眼薬	
プリピナ鼻用	
7. 気管支用	
メディコン, レスプレン, ノレブタン のうち1もしくは2	
8. 胃腸薬	
セルベックス	
ガスター	
ブスコパン	
9. 局所麻酔剤, 抗炎症剤	
リドカイン1%注 (局所注射用)	
デカドロン注 (*: TUE)	
10. 交感神経刺激剤	
(i) エピネフリン注 (*: TUE)	
(ii) サルタノール エアゾル	
11. 狭心症治療薬	
ニトロール舌下錠	

TUE: 治療使用特例の申請が必要。

上記は医務室として保健所の認可を得た場合に準備, 使用が可能である。そうでない場合は下記(B)で代用する。

(B) 一般用医薬品（医師の処方箋なく、薬局で購入できる医薬品）

解熱鎮痛薬	バファリンA, イブ
鎮咳・去痰薬	新コンタックせき止めダブル持続性
胃腸薬	ガスター10, ブスコパンA錠
アレルギー用薬	アレルギール錠
点鼻薬	バブロン点鼻EX
目薬	新サンテドウα
うがい薬	バブロンうがい薬AZ
皮膚外用薬	バンテリンコーワ

II. 競技会医療用品と医療器具

1. テープ	
40mm	
25mm	
25mmエラスティックテープ	
75mmエラスティックテープ	
アンダーラップ	
75mm弾力包帯	
150mm弾力包帯	
3Mテープ（翼状針用）	
2. 消毒用	
滅菌ガーゼ 大, 小	
アルコール消毒	
イソジン消毒	
ソフラチュール	
綿球	
7.5cm × 20cm粘着被覆材（adaptic dressings）	
ディスポ消毒セット（セッシ, ハサミ, ガーゼ, 綿球入り）	
3. 注射器／注射針	
5ml注射器 注射針つき	
10ml注射器 注射針つき	
20ml注射器	
注射針 18, 21, 23ゲージ	
点滴セット	
駆血帯	

4. 診断用医療用具	
聴診器	
血圧計	
ペンライト	
パルスオキシメーター	
打鍵器	
電子体温計 または 鼓膜体温計（測定部カバー付き）	
5. 蘇生用機器	
自動体外式除細動器（AED） 複数台	
可能ならば アンビューバッグ	
可能ならば 携帯用心電計	
6. その他	
XL バンドエイド	
25mm バンドエイド	
綿棒	
バラマイシン軟膏	
ディスボ舌圧子	
ディスボ外科用メス, #11 と #15	
ディスボ検査用手袋 (M, L)	
ペアン	
ウエルバス 300ml (手指消毒用)	
シップ剤	
7. 非消耗品	
1リットルスクイズボトル 洗浄用 (0.9%生食)	
頸椎カラー ポリネック (M, L)	
ソフトシーネ 下肢用, 上肢用	
ハサミ	
三角巾	

表3 ドーピングコントロールステーションの備品

DCOが準備する書類，器材以外に競技会主催者が用意するもの
競技会の規模により，備品の準備は異なる。

血液検査を実施する場合には，事前に別途相談を要する。

受け付け	机	1台		
	椅子	2脚		
検査手続 少なくとも 2室準備する	机	2台		
	椅子	6脚		
	ハサミ	2ヶ		
	水洗トイレ	1式		
	(十分広くて，採尿の立ち会い役員も一緒に入ることができる。検査数によって複数あることが望ましい。検査手続き室付随)			
待合室	机	1台		
	椅子	10脚		
	ソファ	1台		
	毛布	5枚		
	冷蔵庫	2台		
	(1台は飲料保冷用で待合室に設置する。1台は検体保冷用で錠がかり検査手続き室に設置する)			
	競技者用飲み物			
	ミネラルウォーター	適量 (カン入りが望ましい)		
	スポーツドリンク	適量 (カン入りが望ましい)		
	(適量とは500mlまでの大きさでドーピング検査数の3倍程度である。) なお，カン入り飲料入手困難ならば，ペットボトル可			
	テレビ	1台	待合室に設置	
	電話	1台		
	ごみ用ビニール袋	5枚		
	ガムテープ	1巻		
	ティッシュペーパー	3箱		
ウェットティッシュ	1箱			
ボールペン	10本			

表4 トレーナーステーション用設備

1. トレーナーステーションが屋外の場合（大会主催者が準備する）

規格は大会規模によって変動する場合がある。

(1)	テント：2張り～3張り（40～60㎡）	
(2)	横幕：四方を完全に覆うもの	
(3)	床板：パネルによって床全体を覆うもの（雨天に備えて高さ10cm程度が必要である）	
(4)	電源：電源ドラム1～2基（治療機器に使用）	
(5)	照明：電灯の設置（日没後に活動する場合）	
(6)	サインボード（日本陸連トレーナーステーション）	

2. 共通設備（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する。

一部、陸連トレーナー部で所有するものがある。）

(1)	マッサージベッド：2～10台	
(2)	救急キット：1～3セット（スタジアム救護班2セットを含む）	
(3)	固定装具（リストA）1～3セット （スタジアム救護班用2セットを含む）	
(4)	テーピング用品（リストB）	
(5)	衛生材料（リストC）	
(6)	アイスボックス：大型1～3台	
(7)	トランシーバー：メディカルステーション1， トレーナーステーション1，スタジアム救護2	
(8)	治療機器：活動するトレーナーの所有資格による。 ホットパック，低周波治療器，超音波治療器，その他の治療機器	
(9)	テーブル：折りたたみテーブル3～10台	
(10)	イス：5脚～15脚	
(11)	担架：1台	
(12)	パーテーション：4～8面	
(13)	ゴミ箱	
(14)	バスタオル 30枚/日，フェイスタオル30枚/日	
(15)	その他トレーナー活動に必要なもの	

3. スタジアム救護ステーション用設備（2セット）

（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する）

(1) 固定装具（リストA）	
(2) テーピング用品（リストB）	
(3) 救急キット（リストC）	
(4) 担架およびバックボード	
(5) トランシーバー	
(6) アイスボックス（携帯用）	

【リストA】 固定装具

副子（各部位，各サイズ）	
エアスプリントまたはバキュームスプリント	
頸部固定装具（各サイズ）	
三角巾	
その他の固定装具	

【リストB】 テーピング用品

非伸縮性テープ 12mm, 25mm, 38mm, 50mm	
伸縮テープ（ハード）25mm, 50mm, 75mm	
伸縮テープ（ソフト）50mm, 75mm	
伸縮テープ（キネシオソフト）25mm, 50mm, 75mm	
アンダーラップ	
ラバー（スポンジ）パッド（各種）	
粘着スプレー	
リムーバースプレー	
コールドスプレー	

【リストC】衛生材料：（救急キットの内容を含む）

滅菌ガーゼ（S, M, L）	
カット綿	
洗浄綿	
滅菌綿棒	
サージカルテープ（12mm, 25mm）	
圧迫用伸縮包帯（75mm, 100mm, 150mm）	
医療用伸縮包帯（50mm, 75mm）	
バンドエイド（各種）	
アイスバッグ	
テープシザーズ	
テープカッター	
ラテックスグローブ	
CPR マスク	
手指消毒液	
創傷用消毒液	
ワセリン	
ビニール袋（40cm以上）	
マッサージ用パウダー	
マッサージ用ローション	
マッサージ用オイル	
各種軟膏類	
スクイズボトル（洗浄用）	
その他衛生材料	

競技会ドーピング検査（ICT）の手順

1 ドーピング検査対象競技者の選び方

特定の競技者を選ぶこともある（ターゲット検査）が、通常はJADAから対象種目と順位が事前に指定されていることが多い。学生選手権など複数の種目にエントリーしている選手が多いと考えられるケースなどで、JADAによる指定が競技運営上不適切と思われるようであればリード DCO と相談の上、変更を依頼することも考慮する。予選、決勝を問わず競技会参加者は誰でも検査対象となる可能性がある。

同記録を含む世界記録，アジア記録，日本記録（日本記録はオリンピック記録のみ）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出ること。

- (1) 日本国籍を有する競技者が世界記録，エリア記録，日本記録（日本記録はオリンピック種目のみ）を樹立した際の検査費用は、国内外の競技会を問わず本連盟が負担する。海外の競技会で、現地支払いを求められた場合は、競技者個人の立替え払いとし、帰国後本連盟が検査費用を弁済する。
- (2) 海外の競技会において、日本記録を樹立しドーピング検査が行われなかった場合は、日本に帰国後ただちにドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように、競技者は本連盟事務局へ連絡しなければならない。
- (3) 国内の競技会において、日本記録（オリンピック種目のみとする）を樹立した場合は、ドーピング検査を記録確定後24時間以内に受ける必要がある。主催者は本連盟事務局員にただちに連絡し、ドーピング検査の実施について確認する。DCOから直接主催者に連絡が入る場合もあるので、主催者は調整を図る。

連絡先：本連盟事務局

※該当が予想される大会の担当者は事前に詳細を本連盟事務局に問い合わせをすること。

2 対象競技者への通告とドーピングコントロールステーションへの来訪

シャペロン役員は競技終了後速やかに、対象競技者に対して「ドーピング検査の対象である」ことを伝える。その競技者は通告書に署名し、競技者は監視下におかれる。署名の拒否はドーピング検査拒否で、アンチ・ドーピング規則違反と判断される可能性がある。対象競技者が署名した時刻（24時間制）が通告書に書き込まれ、競技者は速やかにドーピングコントロールステーション（DCS）に到着しなければならない。競技者は、DCSに、監督、コーチ、ドクター、トレーナーなどの成人を一人だけ同伴することができる。国外の大会では通訳も一人同伴可能である。未成年者は同伴者がいる前で通告を受ける必要がある。ただし、18歳以上は成人であるため、18歳および19歳の対象者についてはこの限りではない。明確な理由がなく、DCSに速やかに到着しないと、ドーピング検査拒否で、アンチ・ドーピング規則違反と判断される可能性がある。通告後はシャワーを浴びたり、トイレを利用したりすることはできず、着替えもDCO監視下で行う。インタビューや表彰などの時は、シャペロンが付き添う。

3 ドーピングコントロールステーションでの作業

DCSは待合室、検査室、採尿室／採血室で構成される。DCOまたはシャペロンは、競技者を通告書とアスリートビブスで確認し、受付をする。ADカードがある国際競技会ではAD確認をする。DCOは本人確認のために写真付きAD呈示を要求するので、対象者はパスポート、運転免許証、学生証などを用意する。競技者は、十分な量の尿が出そうでないと思ったら、待合室に用意されているスポーツドリンクやミネラルウォーターを飲んでゆったりと待機する。飲み物は冷蔵庫などから自分でとり、きちんと封がなされていることを自分で確認する。ただし、尿検体の低比重化を避けるために飲み物を飲み過ぎないように注意する。開封後に一旦目を離れた飲料は、何らかの異物が混入される可能性も考慮して絶対に口にしない。尿が出そうな時はDCOにその旨を告げて、同伴者と検査手続き室に入る。手順については、DCOの指示に従い、水で手を洗っ

た後、密封された採尿カップを1つ選び、競技者と同性の DCO と一緒に採尿室に入り 90 ml 以上の尿を採尿する。同伴者は特別な場合以外は、採尿室には入らない。検査対象競技者が 18 歳未満の場合、同伴者（競技者と同性でなくとも可）は DCO を採尿室の外から監視できる。競技者は検査手続き室へ戻り、尿サンプルキットを1つ選ぶ。DCO の指示に従い、競技者自身がキットを開封する。A 容器、B 容器、検体番号ラベルを取り出し、すべての番号が同一で、かつ外箱の番号と同一であることを確認する。

競技者は容器のフタを開け、まず B 容器に 30 ml の尿を注ぎ、続いて A 容器に残りの尿 60 ml 以上を注ぎ、フタをしっかりと閉める（これを A 検体、B 検体と呼ぶ）。A、B 検体をビニール袋に入れてキット内に戻し、蓋をする。ビニール袋に入れるのは DCO でも競技者、同伴者でもよい。DCO は採尿カップに残った尿の比重を測定し、各種物質の分析に適した尿検体であるかどうかを確認する。尿量が 90 ml 以上 150 ml 未満の場合、尿比重 1.005 以上、尿量が 150 ml 以上の場合、尿比重 1.003 以上を適正な比重としている（2020 年 3 月より）。尿比重が上記基準未満の場合には、JADA が結果管理する競技会では検査を繰り返すが、次の採尿までの時間間隔の規定はない。

競技者は使用した薬物やサプリメントに関して申告することができる。救急治療や急性病状の治療で禁止物質や禁止方法を使用した場合は、事後であっても遡及的に TUE を申請する必要がある。この場合、通常の申請条件に加え、「緊急性を証明する医療記録」が必要になる（予め TUE の提出が必要とされている大会以外で禁止物質が検出された場合には、遡及的に TUE の提出が求められることもある）。DCO がドーピング検査公式記録書に記入終了後、署名を行い、同伴者と競技者は記載内容を確認する。問題なければ同伴者が署名し、競技者が最後に署名する。競技者は競技者用のコピー（ピンク色）を受け取り、これで競技会ドーピング検査は終了する。尿検体は世界アンチ・ドーピング機構認定分析機関である LSI メディエンスヘチルドゆうパックで送られる。

一度の採尿で 90 ml に足りない場合には、部分検体となる。部分検体を安全に保管するため DCO の指示に従い、競技者本人が採尿

カップを密封する。DCOは部分検体に記載された番号をドーピング検査公式記録書に記載する。部分検体の入った尿サンプルキットはDCOが保管する。競技者は待合室で水分補給をし、尿をためる。

同様の手順で再度、採尿カップを選び採尿を行い競技者本人が採尿カップを密封する。部分検体が正しく保管されていたことを、DCOと競技者が確認する。1度目と2度目の採尿が十分な量であれば、上記のように検査は進むが、足りなければ再度部分検体となる。

待合室で水、スポーツドリンクなどの飲み物は準備される（ビールなどのアルコール飲料は準備されない）が、食事の準備はない。

競技者は自己責任のもと、自分で準備した飲み物および食事を摂ることができる。

ひとたび検査室に入ると室外に出られないのが原則であるが、表彰、インタビュー、医師やトレーナーによる治療、もしくはクーリングダウンが必要な時はDCOに相談し、シャペロンが付き添いのもと、室外へ出ることができる。

DCS内では写真撮影、ビデオ撮影は禁止され、検査手続き室では携帯電話（スマートフォン）の使用も禁止される。

また、NFRは国内競技会ではDCSで検査に立ち会うことができる。

18歳未満の競技者については、親権者からドーピング検査に関する同意書を取る。そのことも大会要項に記載されなければならない。未成年の競技者が検査対象となった場合には、リードDCOが本人から同意書を受け取る。万一検査時に同意書が取得できなかった場合には、速やかにJADAへ直接郵送してもらう。この同意書を1度提出すれば、それ以降の検査時に提出する必要はない。

4 血液検査

ドーピング検査の一環として血液検査が行われる大会もある。昨今は競技会検査でも実施されている。特に指定がなければ運動終了後2時間以降に採血する。通告書にサインをした後、検査室で椅子に座り、両足が地面についた状態で10分間安静にする。もし途中で立ち上がるとその後座った時点から再度10分間の安静が必要と

なる。18歳未満の競技者は通告書にサインをする時点から成人の同伴者がいなければならない。

検査に使用する器具を3つ以上の中から選択し、番号などを確認した後、BCO（Blood Collection Officer）が採血を行う。3回穿刺して必要な量の採血ができなければその時点で検査は終了する。この場合は検査未了とはみなされない。

検査終了後の手順は尿検査と同じである。

〔国内〕 公式計測員（副技術総務）

1 任 務

公式計測員は、2018年のWAの競技規則から削除された。国内競技会では技術総務の任務の一部を公式計測員に任せている競技会が多く、公式計測員は、国内規程で定められた任務である。副技術総務が分担して任務にあたっている競技会もある。国際大会では技術総務の下に副技術総務として任務を分担している。技術総務の任務の一部を行うことは、副技術総務の任務の一部となる。

- (1) 競技会前に公認陸上競技場のマーキングと競技施設の正確性を確認し、その旨を技術総務に報告する。これを確認するために、競技場の設計図、図面および最新の計測報告書を閲覧できるようにしなければならない（〔国内〕 CR39）。
- (2) 上記の任務のほか、用器具について技術総務に代わって確認する（CR16〔国内〕 2）。また、公式計測員は技術総務が兼任するときもある。

2 留意点

競技会では、次の事項について点検、確認をし、技術総務に報告する。用器具係や担当部署が行う設置作業と連携して点検、確認を行う。また、検定報告書を閲覧できるようにする。

- (1) 走路・各施設の確認
 - ①トラック1周の距離の確認…検定時の計測結果を確認し、縁石が正しく設置されているか状況を確認する。
 - ② 走路の確認…検定時の計測結果を確認し、走路の状態を確認する。
 - ③ 走高跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所と助走路の状態を確認する。
 - ④ 棒高跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、着地場所と助走路の状態及びボックスの設置状況を確認する。
 - ⑤ 走幅跳、三段跳跳躍場の確認…検定時の計測結果を確認し、砂場、踏切板、助走路の状態を確認する。

- ⑥ 砲丸投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル、着陸場所（落下域）、足留材の設置状態を確認する。投てき角度、距離ラインを確認する。
- ⑦ 円盤投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークルの状態を確認する。投てき角度、距離ライン、囲いの設置を確認する。
- ⑧ ハンマー投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、サークル、兼用サークルの設置状態を確認する。投てき角度、距離ライン、囲いの設置を確認する。囲いの開口部までの距離、高さが円盤投と異なるので注意する。
- ⑨ やり投投てき場の確認…検定時の計測結果を確認し、助走路の状態を確認する。投てき角度、距離ラインを確認する。
- ⑩ 障害物競走設備の確認…検定時の計測結果を確認し、水濠、固定障害物、移動障害物の位置・高さを確認する。スタートから第1障害まで70mを確保するため第1障害を移動する競技場があるので、注意する。
- ⑪ 各スタートライン、テイクオーバーゾーン、ブレイクライン、ハードルの位置の確認…検定時の計測結果を確認する。標識タイルからスタートライン、テイクオーバーゾーン、ハードルの位置を設置する時には、技術総務、用器具係主任と連携して、標識タイルから正確に設置する。2段式スタートの縁石の設置状態を確認する。
- ⑫ フィールド内のレベル確認…検定時の計測結果を確認する。
- ⑬ 計測器具の確認…鋼鉄製巻尺、走高跳用高度計、棒高跳用高度計、電気距離計測装置、跳躍距離透視計測器等を確認する。

(2) 器具の確認

① 公式用器具の確認

競技規則に規格のあるものは、競技開始前に検査をし、事前に番号を付けておく。

② 借り上げ公式用器具の検査 ※コラム「借り上げ用器具の検査方法」参照

本連盟が主催、共催する競技会において、主催者が用意した投てき用具としてリストに記載されていないものを競技注意事項

項等で借上げを認めることができる。本連盟検定済みのもので競技前に主催者により検査を受け合格のマークが記したものでなければならぬ（TR32.2〔国内〕）。個人の投てき用具の借り上げを許可した競技会では、持ち込まれた本連盟検定済みの器具を検査する。検査に合格した投てき用具には検査シールを貼付するかマークをし、番号をつけておく。技術総務が特に決めない限り、個人の用具は2個まで持ち込みが認められる。国際大会では、世界記録、エリア記録が達成されたときに使用された用具を競技終了後に再検査する必要（CR31.17.4）がある。

検定印 焼き鍍・ボンチ



検定品シール



WA認証シール



検査申請書例

投てき用具 検査申請書 (東京陸協)				
受付日時	月	日	時	分
預かり用具	やり			
メーカー・名称 色・等				
記載例	ノルディック ダイアテラック カラー ・ニシ ソニア DR R.Q.10 黄色黒色			
所属				
氏名 (持ち主氏名)		選手名		
携帯電話：(連絡先)				
※この部分は強盗し、「投てき器具」と共に公式計測員に引き継ぐこと				

検査合格シール例



投てき用具 預かり証 (本人控)

投てき用具 預かり証 (本人控)				
受付日時	月	日	時	分
預かり用具	やり			
メーカー・名称 色・等				
記載例	ノルディック ダイアテラック カラー ・ニシ ソニア DR R.Q.10 黄色黒色			
所属				
氏名 (持ち主氏名)		選手名		
携帯電話：(連絡先)				
※競技終了後の返還もこの場所です。 この用紙と引き換えに投てき器具をお渡します。				

(3) マラソンコース、競歩コースの確認

技術総務と連携して、競技会当日のコースが計測されたコースと合致しているか確認する。競技に支障となる箇所のコーン等の位置、スタートライン、フィニッシュライン、折り返し点、中間点、5km毎等のポイントを確認する。

借り上げ用器具の検査方法

国内競技会では、本連盟の検定品で規格に合った物だけが使用できる。規格に一致しているか、技術総務の担当あるいは公式計測員が以下の要領で検査を行い、合格したものには印またはシールを貼付する。

競技場に備え付けの用器具の一覧を作成しておくといよい。

WA主催等の国際大会ではWA認証した製品でなければ使用できないので、WA認証シールのみで借り上げ検査を行うことになるので注意する。技術総務が特に決めない限り、2個までの持ち込みが認められる。

(1) 砲丸

- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 完全な球形で滑らかであるか、変形がないか確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量、直径を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり、砲丸検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリパー）

(2) 円盤

- ① 本連盟の検定印（刻印）又は検定シールがあるか。
- ② 外側の縁（枠）の表面は凹凸がなく、仕上がり全体は滑らかであるか、板の歪み、傷、変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか、ガタツキを確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量、直径、縁の外側の直径、金属製の平板の直径、中心部の厚さ、外縁の厚みを確認する。

- ◆検査に必要な器具…はかり，円盤検定器（ない場合＝厚みを計れるノギス・キャリバー）

(3) ハンマー

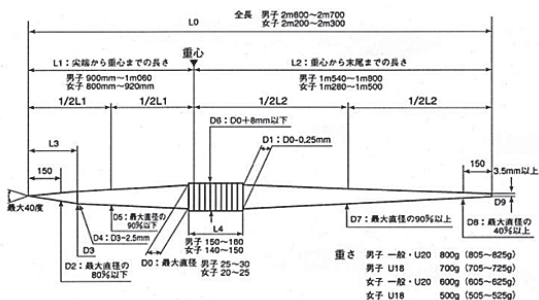
- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 頭部は完全な球形であるか，変形を確認する。
- ③ 振って音がしないか，ガタツキを確認する。
- ④ ベアリングまたはボールベアリングが回転するか確認する。
- ⑤ 接続線（ワイヤー）が屈折していないか，テープ等で補修してないか，確認する。
- ⑥ 規格を調べる。…重量，直径，ハンドルの内側よりの全長の検査，重心の検査（ツルを外して検査）を確認する。

- ◆検査に必要な器具…はかり，ハンマー検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリバー，メジャー），重心検査器

(4) やり

- ① 本連盟の検定シールがあるか。
- ② 表面が滑らかであり，湾曲部分がないか確認する。
- ③ グリップの紐の緩み，ほころびがないか確認する。
- ④ 規格を調べる。…重量，全長，先端から重心までの距離，定められた位置とその直径，グリップの幅を確認する。

- ◆検査に必要な器具…はかり，ノギス，計算機，やり検定器（ない場合＝重心を計測する山型の部材，メジャー）



Lengths 長さ 単位:mm			Diameters 直径 単位:mm				
記号	説明	Range 範囲	記号	説明	Maximum 最大	Minimum 最小	Measurements 測定値
L0	Overall 全長	2600~2700	D0	In front of grip グリップ直前の部分	30	25	
L1	Tip to G of G 先端から重心まで	900~1080	D1	At rear of grip グリップ直後の部分	D0	D0-0.25mm	
1/2-L1	Half L1 L1の半分	-	D2	150mm from tip 先端から150mm	-	-	D0D90%
L2	Tail to G of G 重心から末端まで	1540~1800	D3	At rear of head 頭部の後面	-	-	
1/2-L2	Half L2 全長の半分	-	D4	Immediately behind head 頭部の直後	-	-	D3-2.5mm
L3	Head 頭部	-	D5	Half way tip to G of G 全長の半分まで30%の部分	D0D90%	-	
L4	Grip グリップ	150~160	D6	Over grip グリップの奥側	D0+8mm	-	
C of G	Centre of Gravity 重心	-	D7	Half way tail to G of G 重心から末端まで50%の部分	-	-	D0D90%
	重さ Weight 単位:g	-	D8	150mm from tail 尾端から150mm	-	-	D0D40%
重さ Weight		805~825	D9	At tail 末端の部分	-	-	3.5mm

やりの検査表

【パラ陸上】こん棒

パラ陸上の種目にこん棒がある。以下のような形である。

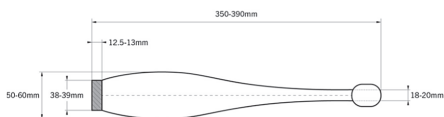


Figure 22 - Club

① 構造を確認する。

- ・先端部（ヘッド）、首部（ネック）、胴体部（ボディ）、底部（エンド）の4つの部分からなる。
- ・先端部、首部、胴体部は木製で、全体として固定され、一体化した頑丈なものであること。
- ・胴体部は金属製で刻み目や突起や鋭い縁のない円筒状の底部に固定されていること。

- ・先端部は球状または円筒状で、首部に向けてすぐに細くなる形状であること。
 - ・首部に向けて均等に細くなり、金属製底部に向けて少しだけ細くなっていること。
- ② 表面にくぼみ，でこぼこ，溝，畝，穴，ざらつきがなく，滑らかであるか確認する。
- ③ 規格を調べる。…重量，全長，首部の直径，胴体部の最も太い部分の直径，金属製底部の末端の直径，金属製底部の厚み
- ※湿度によって重さが左右される木製であることを考慮し，400gのこん棒は，検査の際に397g以上であれば構わない。
- ◆検査に必要な器具…はかり，厚みを計れるノギス・キャリバー

用器具係

1 任 務

技術総務のもとに用器具係をおく。用器具係は、各競技に必要な用器具を整備し、その競技開始前にこれを配置し、競技終了後にこれを撤収する（CR16〔国内〕3）。用器具係は、国内規程で定められた任務である。

技術総務の指示により、競技者が満足な競技ができるように競技日程に従って整備計画をつくり、不備がないようにする。

競技会に必要な用器具を詳細に点検整備する。各競技の用器具は配置あるいは各担当審判員に引き渡し、その担当審判員が設置・撤収を行う（用器具配置分担表参照）。競技実施中における競技場、道路競技におけるコースの状況管理を行う。

トラックを整備するために置かれていた競技場整備係は、全天候舗装の競技場が普及し、最近では用器具係が行っている。

用器具係の任務は都道府県陸協に違いがあるが、基本的な任務は以下のことになる。

2 準備・引き渡し・配置

(1) トラック

取り外し式縁石のチェック、障害物用代用縁石の設置、水濠の注水、審判台およびフィニッシュポストの設置、ラップ用旗、コーナートップ用旗、ブレイクラインマーカー、レーンナンバー標識、スターティングブロックの配置、ハードル・障害物の設置。

手旗等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

(2) 各跳躍場

助走路の確認、砂場の砂の量と湿り具合の確認、棒高跳ボックスの設置、マットおよび支柱の配置に競技者用長椅子の搬送、踏切板等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

ディスタンスマーカーの確認、雨天時の競技者用テントの設置。

(3) 各投てき場

足留材の取り付け、兼用サークル、やり投の助走路の確認。円盤投・ハンマー投の囲いを投てき審判員と共同で設置・移動。

サークル両側の750mmのラインの確認。

白色等テープ・距離標識、投てき器具および審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す（投てき角度線は状況により投てき審判員と共同で設置する場合もある）。天候に応じて競技者用テントの設置。

3 留意点

- (1) 技術総務の指示によりプログラムに基づく競技進行計画表と施設配置図をつくる。
- (2) 電気機器関係では、各種目の電源確保と情報機器の設置場所の確認をする。特に写真判定装置、情報処理端末器、電気距離計測器、デジタル式風力計の管理状況について、技術総務と連携して競技場管理者と十分な話し合いを行い、保管、整備の配慮をしてもらう。
- (3) 5,000m、10,000m でグループスタートを行う場合、外側の走路では、スタートラインの約5～10m先より代用緑石を置くようにする。走る距離は緑石があることを前提に計算されているので、代用緑石は全部置く。競技場により代用緑石が不足する場合は、やむを得ず1本おきとする。
- (4) ハードルの種目毎の高さ、位置を確認し配置をする。担当の場所だけでなく、前後のハードルも確認する。競技中の修正は、監察員の任務となる。
- (5) 障害物競走の代用緑石の設置と水濠の注水時間の確認。
水濠への代用緑石は全部置く。競技場により代用緑石が不足する場合は、やむを得ず1本おきとする。スタートから第1障害まで70mを確保するため、第1障害を移動する競技場がある。
- (6) 跳躍競技では風向きにより助走の方向が変わる場合があるので、跳躍審判長、技術総務と砂場、マットの位置を協議して決める（設置は担当競技審判員）。
- (7) 走幅跳・三段跳ではビデオカメラ（TR29.5）、踏切板・粘土板、計測機器を担当審判員に引き渡す。粘土は油性のものを留意

する。三段跳では助走路が短い場合、補助マットを用意する。国際大会では投眼式メジャーは使用しない。

- (8) 高度計、投てき用公式用器具（投てき物）は天候などの影響を受けないよう競技練習に合わせて引き渡すようにする。
- (9) 電光掲示板、フィニッシュタイマー（トラックタイマー）、テント等大型の機器、器材については観客席より競技中に死角にならないよう配慮して配置する。
- (10) 配置、設置した各機器等の撤収について、競技の邪魔にならないようにタイミングを考慮する。
- (11) 雨天時における走路、助走路の雨水処理について担当主任審判員と打合せをする。
- (12) 走路、助走路が土質の場合は、レベルの調整、適切な硬さを維持するため、撒水のうえローラー仕上げをし、各スタートライン、テイクオーバーゾーン等のライン引きを行う。棒高跳の助走路は、ボックスの入口が助走路と同じレベルになるようにする。
- (13) 用器具が故障又は破損したときには使用部所の主任が故障、破損報告書で技術総務に報告し、総務、技術総務と競技場所有者と協議する。

4 パラ陸上の留意点

技術総務のページも参照されたい。

- (1) 座位投てきの固定器具の設置撤去が必要な場合、設置撤去を行う。
- (2) 車いすの競技者のリレー競走ではテイクオーバーゾーンが40mであり、テイクオーバーゾーンの入の設置を行う（出は変わらない）。
- (3) 視覚障害のクラス（T11 および T12）レーンのすべてまたは一部を走るトラック種目、車いすの競技者が含まれるリレー競走については、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるために、スタートラインの延長を行う。また、ユニバーサルリレーにおいては、それぞれの競技者に2レーンを割り当てるため、テイクオーバーゾーンのラインの延長を行う。
- (4) 800m以上の車いす競走において、スタートから50mの位置を

マークする。

- (5) 車いす800m競走において、危険回避のために、ブレイクラインにコーンや角柱は置かない。その代わりに、高さ1.5mの旗をインフィールド側とトラック外側に設置する。また、50mm×50mmの色付きの平らなマーカーをブレイクラインに置くことができる。

☆用器具係1日の動き（ある陸協の例）☆

各都道府県陸協で異なるので、それぞれの役割を確認されたい。

～競技開始前～

- 集合，準備分担の確認
技術総務と連携してその日の種目等を確認し，誰が何をどこにどのくらい設置するかを分担する。
- フィールド関係の準備
 - ・円盤投・ハンマー投囲いの設置
投てき審判員と協力し移動，設置する。間口の寸法などは技術総務，公式計測員が確認する。
 - ・マットの運搬
棒高跳・走高跳のマットを運搬する。ピットの方向，細かい位置は，技術総務，跳躍審判長が確認する。
- トラック関係の準備
スターティングブロック，レーン表示板，ラップ旗，ブレイクラインマーカーの運搬
行われる競技に必要なものを運搬する。設置はそれぞれの審判員が行う。
 - ・ハードルの運搬
 - ・移動障害物の運搬
 - ・水濠への注水
- 競技者用のテント・椅子の運搬，設置
参加人数を確認し，必要な数をそれぞれの競技場所に運搬し，設置する。
- 全てのセッティングの確認

技術総務，公式計測員，用器具係主任でその日行われる競技が行えるかを最終確認する。

～競技中～

- ハードルの設置・撤去
行われる種目のインターバル，高さを確認し間違いのないように設置する。練習を含む競技中の修正は監察員が行う。設置の確認は，技術総務，公式計測員，用器具係主任が行う。
- 移動障害物の設置・撤去
- 代用縁石の設置・撤去
障害物走，グループスタートが行われる場合の設置・撤去を行う。
- 競技者用テント・椅子の増設・移動
天候により，競技者用のテント・椅子の増設・移動を行う。

～競技終了後～

- フィールド関係の撤収
 - ・円盤投・ハンマー投げ用囲いの移動
翌日にも競技がある場合，どこまで移動（撤収）するかを競技場管理者に確認しておく。
 - ・マットの撤去
翌日にも競技が行われる場合，雨天用シートを被せて置いておく場合もある。
- トラック関係の撤収
それぞれの種目終了後，適宜撤収する。
- 競技者用テント・椅子の撤去
翌日にも競技がある場合，脚を畳んで置いておく場合もある。
- 完全撤収の確認
競技場を一回りして，撤収が済んでいないものがないか確認する。

主な用器具と分担表（参考例）

	担当審判員	用器具係にて配置する用器具	当該主任審判員渡しの用器具	共同で設置の用器具
審判長	総務・総務員		机, 椅子, 旗	本部席
	審判長		椅子, 審判用警告カード (赤・黄)	
	番組編成員		机, 椅子, 抽選器	大会役員席 (番組編成員)
	アナウンサー		時計・双眼鏡, 通信放送一式 (競技場施設)	大会役員席 (アナウンサー)
	報道係		報道関係者制限ロープ, 椅子, コーン, コーンバー	記録配布箱, 報道に関するものすべて (庶務)
	記録・情報処理員		机, 椅子, 雨天用覆い	事務用品等記録に関するものすべて, 事務用品 (庶務)
	マーシャル		報道関係者制限ロープ, 椅子, 安全ロープまたはコーン, コーンバー	
	医師		机, 椅子, 担架	救急箱 (庶務)
	競技者係	競技者用長椅子	机, 椅子, 掲示板, スパイク検査用ノギス・ケージ, はさみ 【パラ陸上】身長計	テント (監察員, 周回記録員), リレー用色テープ (庶務)
	役員係		机, 椅子	テント, 湯茶 (庶務, 用器具係)
	庶務係		机, 椅子	事務用品 (庶務)
	表彰係		机, 椅子, 表彰台	お盆 (庶務)
	印刷係		印刷機器一式 (競技場施設)	
風力計測員		机, 椅子, 風力速報表示器, 風速計, 温湿度計, パラソル, 吹流し, 風力計測用曲走路標識 (コーン), 時計	通信機器, 事務用品 (庶務)	

審判長	公式計測員		ノギス, 10kgはかり, 鋼鉄製巻尺, 砲丸検査器, 円盤検査器, やり検定器, ハンマー検定器, メジャー, 検査合格シール	通信機器, 事務用品 (庶務)
	用器具係	ハードル (100mH, 110mH, 300mH, 400mH), 障害物, 障害物競走・グループスタート代用縁石, 競技者用長椅子, スタートイングブロック, レーンナンバー標識, コーナートップ用旗, ラップ用旗	ノギス, 10kgはかり, 鋼鉄製巻尺, やり検定器, ハンマー検定器, メジャー, 検査合格シール	
トラック関係	写真判定員		椅子, 望遠鏡, 写真判定に関わるものすべて (競技場施設)	
	決勝審判員	フィニッシュポスト	机, 椅子 (ビデオ関係), トラック競技速報表示器, フィニッシュタイマー (トラックタイマー), 折りたたみ椅子	通信機 (インカムなど), テント (計時員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品 (庶務)
	計時員		机, 椅子, 時計 (主任が一括), 折りたたみ椅子	テント (決勝審判員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品 (庶務)
	監察員	コーナートップ旗, ラップ用旗, ブレイクラインマーカー	折りたたみ椅子, 監察マーカー, 黄手旗, (ラップ用旗, ブレイクラインマーカーの競技中の設置, 撤去)	通信機器 (インカム) (庶務)
	スターターリコーダー		折りたたみ椅子, 信号器, スタート黒板, 拡声器, スターター台	記録板, 通信機器 (インカム等), 雷管 (庶務)
	出発係		スタートイングブロック, バトン, スタート用警告カード (赤 / 黒, 黄 / 黒, 緑), レーンナンバー標識, 脱衣籠	リレー用テープ (庶務)

トラック関係	周回記録員		机, 椅子, 周回表示器 (鐘付)	画板, 記録用紙, その他 (庶務)
	競歩審判員		競歩警告用円盤, 失格用円盤, 警告掲示板	
フィールド関係	跳躍審判員	跳躍マット, 走高跳用支柱, 棒高跳用支柱 (設置は担当審判員), 電光掲示板, テント, ボール置台, 競技者用長椅子	机, 椅子, 高度計 (走高跳, 棒高跳), 炭酸マグネシウム入台, 距離測定装置, 鋼鉄製巻尺, 距離標識, 成績表示器, 順位表示器, 位置表示器, 制限時間表示器, 踏切版, ビデオカメラまたは粘土板, 計測ピン, バー, バー上げ器, 距離表示マーカーク, 手旗, ハンドマイク, 粘土, チョーク, ほうき, レーキ, スコップ, ビーチパラソル, 吹流し, 白色テープ, リボンロッド, 止め金具, 雨天用プラスチックカバー, 位置表示板 (A・B)	囲い, ガード (公式計測員, 用器具係)
	投てき審判員	電光掲示板, 砲丸返却台, 用具置き台, テント, 競技者用長椅子	机, 椅子, 炭酸マグネシウム入台, 距離測定装置, 鋼鉄製巻尺, 距離標識, 成績表示器, 順位表示器, 制限時間告知器, 足留材, 兼用サークル, 距離表示マーカーク, 競技者表示用ペグ, 計測ピン, 足拭きマット, 手旗, ハンドマイク, チョーク, ほうき, レーキ, コーン, 防護網, ビーチパラソル, 吹流し, 白・黄等テープ, リボンロッド, 止め金具, 投てき用器具 (置台含む), 雨天用プラスチックカバー, 位置表示板 (A・B)	囲い (投てき審判員, 用器具係)

スタートラインを延長する場合の注意点

参加人数の多い中長距離種目では、スタート直後の接触・転倒を防ぐために、3000m競走（歩）以上の種目ではグループスタートを行うことを推奨している。1500m競走においては、1レーンから競技者を並ばせてしまうと、3、4レーン辺りからスタートする競技者と接触する可能性が高まるので特に注意が必要である。この問題を回避するためには、腰ナンバー標識の大きい競技者から順に外側から並べるようにすると良い。特に走路と同じ全天候舗装（素材・厚さ）であることを条件として、曲走路の外にスタートラインをはみ出して引くことが認められており、本連盟の検定のもと、スタートラインが延長されている競技場においては、有効に活用していただきたい。

障害物競走等、グループスタートにおける 代用縁石の置き方について

国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から300mmの所で計測している。そのため、国内の競技場の10000mにおけるグループスタートのスタートラインは直線の長さにも関係するが、800mのスタートラインの前方に引かれている（図1参照）。

一方、海外の競技場のグループスタートのスタートラインは（5レーンの）800mのスタートラインと重なっ



国内競技場におけるグループスタートのスタートライン（図1）

ている所から引かれている。これは内側のライン外側から200mmの所でトラックの計測を行っているためである(図2参照)。



海外競技場におけるグループ
スタートのスタートライン(図2)

厳格に言えば国内競技会において代用縁石を設置する際は、競技規則に則れば全線に置く必要がある(図3参照)。しかしながら、競技場保有の代用縁石の数が足りなければ、1本おきに置かざるを得ない。また、国内で実施する国際大会においては全線設置を基本としてレースがスタートした後は速やかにすべての代用縁石を撤去することとなる。グループスタートのレースが複数組ある場合もレースごとに並べることが望ましい。

グループスタートする際に第2グループのスタートラインからすぐに縁石を設置すると、第1グループの外側の競技者が縁石につまずくことがある。そのため、第2グループのスタートラインから(約5~10m程度)縁石を設置せず、第1グループの競技者の安全性を考慮しながら2個または3個のコーンを置くことが望ましい。

縁石に代わりコーンを設置していることを競技者に伝えるとよい。



全線に設置した代用縁石(図3)

招集所審判長

1 任務

招集所審判長は必要に応じて1名以上任命され（CR18.1）、以下の任務を負う。

本連盟の指定した競技会には招集所審判長をおく。

(1) 監視責任

招集が競技規則、競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視し、その結果について責任を負う（CR18.2）。

(2) 技術的な問題の処理

招集所で起こったすべての技術的問題（規則に違反したかどうかの問題を含めて）について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する（CR18.2, CR18.4）。

(3) 規則にない事項

競技規則や競技注意事項に明らかに規定されていない事項についても、的確に処理し決定する（CR18.2, CR18.4）。

(4) 本連盟が主催・共催・後援する競技会や広告協賛を付した競技会におけるスポンサー広告保護について

競技者が着用する衣類やバック等についても、的確に対応する。（競技会における広告・商標、競技会における広告および展示物に関する規程）

2 権限

招集所審判長は、CR18により以下の権限を有する。

(1) 欠場の裁定、および失格

つぎの競技者を、欠場したものと裁定し処理し、また規則に違反した競技者を失格させる権限を持つ。

- ① 招集完了時刻に遅れた場合。
- ② リレーのオーダー用紙提出時刻に遅れた場合。
- ③ リレーのオーダーを不正に編成して提出した場合。
- ④ その他、規則や競技注意事項に違反した場合。

(2) 警告と除外

- ① 不適切な行為をした競技者に警告を与えたり、当該競技から除外したりする権限を持つ。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する（CR18.5）。
- ② 競技場所、ウォームアップエリア、召集所、コーチ席も含めた競技に関連する場所で競技者以外の者がふさわしくない行為や不適切な行為をしたり、競技規則に違反したり助力を行った場合、（競技ディレクターがいる場合は相談の上）警告を与え、除外することができる（CR18.5）。

3 実施要領

(1) 競技開始前

- ① 競技注意事項等の確認
 プログラムに記載されている競技注意事項および申合せ事項（監督会議があった場合はそのときの決定事項）を確認し、競技運営が円滑に行われるように準備する。
- ② 競技者係主任の任務を確認させるとともに、競技者係の役割分担を徹底させる。
- ③ 召集場所とそこで使用する機器・器具の準備状況を点検し、落ち度のないように整えさせる。もし準備に支障をきたすようなことがあったら、ただちに総務、技術総務と連絡をとり、競技開始前に処理させる。
- ④ 混成競技が行われる競技会においては、事前に混成競技審判長と役割について十分打合せをしておくことが望ましい。

(2) 競技中

- ① 召集が競技規則、競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視する。〔競技種目、組別、召集開始時刻、アスリートビブス（ビブス）、ユニフォーム、スパイク、商標（バッグ、シャツ）、持ち込み禁止品の有無などの点検・確認、召集完了、誘導等〕
- ② 規則に違反する行為があった場合について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する。

リレーメンバーの登録と交代

リレーメンバーの登録と交代に関する規則が変更になってから久しいが、未だにメンバーの組み方の可否に関する問い合わせがあるばかりでなく、規則違反による失格事例も少なくない。

提出されたオーダー用紙のチェックに関わる審判部署（競技者係や TIC）においては、規則違反のオーダーが提出された場合には瞬時に指摘して再提出をさせるなど、大きなトラブルに発展しない確認・指導システムを設定しておくべきである。

1. 最初のラウンドからリレーメンバーに登録していない競技者が出場できる。

最初のラウンドに出場できるのはリレーに登録した競技者以外に、その競技会の他種目にエントリーしている競技者であれば出場できる（ただし、後述の4.遵守）。

2. 予選に出場した4人からすべての作戦が始まる。

交代とは「一度出場した競技者が他の競技者と代わること」であるので、リレーに登録していない競技者が最初のラウンドに出場する場合は交代ではない。従って、最初のラウンドで出場した4人が基本となり、以後すべてのラウンドを通して2人以内の交代が可能である（ただし、後述の4.遵守）。

3. 一度出場した後で交代した競技者でも再びメンバーに戻ることができる。

以前は、一度出場した後で交代した競技者はチームに戻ることができなかったが、現規則では可能であり、しかも復帰は新たな交代数に加算されない。

例えば、予選を通過した後、メンバーを2人交代して準決勝も通過したが、決勝までの間に何らかのアクシデントが発生して走れない競技者が出てしまった場合、以前の規則では新たな交代は許されないので決勝を棄権するしかなかったが、現規則では、予選の時に走った競技者であれば新たな交代数には加算されないため、再びメンバーに戻って決勝に臨むことができる。

4. 全ラウンドとも、リレー登録者が2人以上含まれていなければならぬ。

上記の如く、メンバーの組み方は多様化したが、どのラウンドにおいても出場する競技者4人のうち少なくとも2人はリレーに登録している競技者でなければならないことに十分留意しなければならない。

5. 一度提出したオーダーは差し替えてできない。

オーダーの提出は、各ラウンドの第1組の招集完了時刻の1時間前までである。一度提出されたオーダーはまだ締切時刻前だとしても、差し替えることはできない。ただし、他の種目に出場して怪我をしたり、熱中症等で体調を崩した場合、その組の招集完了時刻までに医師（医務員）の診断があれば変更が可能である。その場合、出場選手の変更のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。

同一所属団体が複数のリレーチームを エントリーしたときのメンバー変更

各陸協が主催する競技会のリレー種目では、同一所属団体が複数のチームをエントリーすることを認めている場合が多いが、「同一所属団体であればチーム間にまたがるメンバー変更は認められるか？」との議論があり、本連盟への問い合わせも多い。

これに対する本連盟競技運営委員会の見解は「リレーのチームはそれぞれが独立しており、たとえ所属団体が同じであっても、チーム間にまたがるメンバー変更は認められない」と統一している。

しかしながら記録会等の小規模競技会では、できるだけ多くの者に競技会出場の機会を与えてやりたいという配慮から、4人ぎりぎりのメンバー構成で多くのチームをエントリーする団体もあり、チーム間にまたがるメンバー変更を一切認めないとすると、当日何かの事情で誰かが出場できなくなった場合はそ

のチームの全員が出場の機会を失うので、何とかしてやりたいという要望もある。

そうした競技会での最終判断は主催者側の決定であり、上記の本連盟見解を基本としながらも主催者があらかじめリレーのメンバー変更に関するローカルルールを設定して、申し込み時に周知徹底しておけば問題はない。

ただし、最初のラウンドでチームが組めなくなったメンバーがどこかのチームに加わることを認めたとしても、前のラウンドに出場して敗退したチームのメンバーを勝ち上がった他のチームに加えることは認めるべきではない。

競技者係

1 任務

- (1) 競技注意事項に定められた競技者招集の規程に基づき、出場者の出欠および競技にさしつかえない準備の状況を点検し、速やかに競技場所に誘導し定刻に競技できるように配慮する（CR29）。
- (2) 参加確認が終了した競技者名を、コンピューター処理を行う競技会ではコンピューター端末に入力し完了する。コンピューター処理を行わない競技会では、流し記録用紙に記入して、手早く関係役員に配布する。
- (3) 参加確認が終了した競技者を適切な時刻に競技場所まで誘導する。
- (4) 解決の問題が発生している場合は、問題を招集所審判長あるいは競技者係主任に委ねる。

2 実施要領

- (1) 競技会の規模に応じて以下の項目について、招集方法を決めておく。
 - ① 招集場所
 - ② 招集完了時刻
 - ③ 招集方法（複数組の場合は、1組単位の招集が望ましい）
 - ④ 2種目以上兼ねている時の招集方法
 - ⑤ 各種申請用紙の提出および確認の方法（リレーオーダー用紙、2種目同時出場届、欠場届など）
 - ⑥ 点検・確認事項
 - ⑦ 混成競技の招集方法（次の種目への間隔は最小限30分を確保する）
- (2) 招集進行計画（確認事項）
 - ① 競技種目
 - ② 組別（組数が多い場合は数組に分けて実施）
 - ③ 競技時刻
 - ④ 招集開始
 - ⑤ アスリートビブス（ビブス）、ユニフォーム、スパイク、商

- 標（バッグ、シャツ）などの点検，確認
- ⑥ 助力に係る所持品の有無の点検，確認
 - ⑦ 招集完了
 - ⑧ 誘導経路～待機場所，ピット
 - ⑨ 誘導出発，到着時刻
 - ⑩ 流し記録用紙（コンピューター入力）
 - ⑪ 担当班

〈進行計画表作成例〉

- | | | |
|----------|---------------------|------------|
| ・ 招集開始 | トラック | 30分前 |
| | フィールド | 40分前 |
| | | （棒高跳 70分前） |
| ・ 集合・点検 | トラック，フィールド招集完了 | 4～5分前 |
| ・ 招集完了時刻 | トラック | 20分前 |
| | フィールド | 30分前 |
| | （棒高跳 60分前 砲丸投 20分前） | |

(3) 混成競技の招集

混成競技では競技が継続して進行するので，両日の第1種目，十種競技では第1日目100m，第2日目110m ハードル，七種競技では第1日目100mハードル，第2日目走幅跳だけは一般の種目の招集方法と同様に行う。

混成競技係は，各日第2種目以降は，競技注意事項の定めにより混成競技者控え室または現地で招集に準ずる手続きを行い，スタートリストを配布する。

3 留意点

- (1) 誘導は迅速に行う。
- (2) 誘導経路は，バックストレート外側を通り（極力ホームストレート側の通路を避けて），最後にトラック，フィールドを横切って競技場所に到着させる。
- (3) 競技会の規模によりトラック競技においては，役員に余裕がある場合，1組ごとに誘導する。
- (4) スタートリスト
コンピューターで処理する場合は，出場者・欠場者を入力し，

各部署が確認できるようにする。以下は、コンピューター入力を実施しない競技会の例である。

① トラック競技

スタートリストは、予選においては競技開始10分前までに配布を完了する。

配布先（例）

競技者係控／総務／担当総務員／トラック審判長／アナウンサー／出発係（リレー4枚）／決勝審判員主任／計時員主任／写真判定員／大型映像係（施設がある場合）／本部記録／情報処理員／監察員主任（リレー4枚）／報道係／周回記録員（800m以上）

② フィールド競技

スタートリストは、招集完了後速やかに配布を完了する。

配布先（例）

競技者係控／総務／担当総務員／アナウンサー／フィールド審判長／フィールド審判員主任／フィールド審判員記録担当（2枚）／風力計測員／本部記録／情報処理員／報道係

③ 決勝（参加競技者が24人を超え予選を行った場合）

番組編成員から編成用紙を受け、速やかに配布を完了する。

④ 欠場、追加、2種目以上出場している場合

欠場の印は、赤線で明瞭に抹消する。また、追加の際は、ナンバー・氏名・所属を記入する。他の種目に出場している時は、〇〇出場中と明記する。「2種目同時出場届」がある場合は配布、受領を行う。

⑤ リレーのオーダー用紙の提出時刻は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに提出（TR24.11）。

また、用紙は招集所に用意する。競技注意事項に明記しておく。

(5) アスリートビブス（ビブス）、ウェア、スパイクシューズ、バッグなどの点検

競技者の点呼と同時にアスリートビブス（ビブス）が胸・背・腰に確実にかつ、脱落しないように付けられているか、スパイクシューズ、ユニフォーム、および持ち込む荷物についてルールに

抵触していないかを確認する（TR5，TR6，競技会における広告および展示物に関する規程）。

① 服装

全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は、ランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する（短パン・スパッツ，ランニング・長袖・レオタード・セパレートの違い等は許容範囲）。

② 商標の取り扱い

特に、Tシャツやトレーナー，ベンチコート，バックなどには規程に抵触する大きさ，数量のものがあるので，持ち込む場合にはテープで隠すなどの処置をする（競技会における広告および展示物に関する規程）。



大会のロゴマーク等が入ったステッカーを使用した例

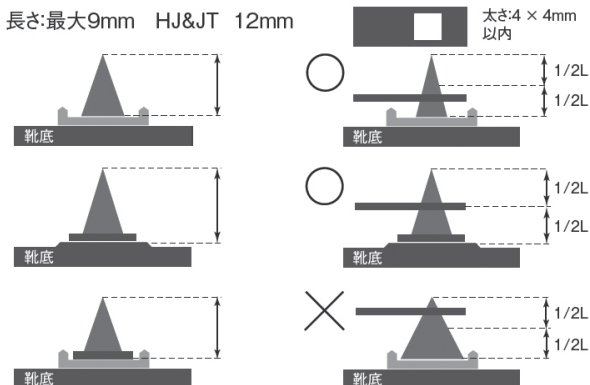
③ 競技用靴

- (a) 競技用靴は競技者にどんな補助をも与えるようにつくられたものであってはならず，バネやその他の仕掛けが靴に組込まれてはならない（TR5）。
- (b) 靴底および踵は11本以内のスパイクを取り付けられる構造とする。11本以内であれば，スパイクは何本でもよい（TR5.3）。
- (c) 全天候舗装競技場で行う競技会においては，スパイクの長さは9mm（走高跳，やり投は12mm）を超えてはならない。またスパイクの直径は先端近く（少なくとも長さの

半分)で4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない (TR5.4)。

(d) 靴底または踵にはうね、ぎざぎざ、突起物などがあってもよいが、これらは靴底本体と同一もしくは類似の材料で作られている場合に限る (TR5.5)。

(e) 靴底の最大の厚さについて以下の表のように規定する (TR5.5)。



【2024年10月31日まで】

800m未満のトラック種目	20mm
800m以上のトラック種目	25mm
クロスカントリー	25mm (スパイクシューズ) 40mm (ノンスパイクシューズ)
ロード種目 (競走・競歩) と競技場内で行う競歩種目	40mm
三段跳を除くすべてのフィールド種目	20mm
三段跳	25mm

【2024年11月1日から】

トラック種目 (ハードル種目, 障害物競走, リレー種目を含む)	20mm スパイクシューズまたは ノンスパイクシューズ
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノンスパイクシューズ

クロスカントリー	25mm (スパイクシューズ) 40mm (ノンスパイクシューズ)
ロード種目 (競走・競歩) と競技場内で行う競歩種目	40mm

④ アスリートビブス (ビブス)

- (a) 競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のアスリートビブス (ビブス) を付ける。ただし、跳躍競技の競技者はどちらか1か所でよい (TR5.7)。
- (b) 配布された形で着用する。切ったり、折ったり、たたんだりしてはならない (TR5.9)。
- (c) 長距離種目では、風通しの穴をあけてもよいが、数字や文字の部分に穴を開けてはならない (TR5.9)。
- (d) 写真判定装置を使用する競技会では、腰ナンバー標識を付けさせる (TR5.10)。
- (e) いかなる競技会であろうと、競技者は自分のアスリートビブス (ビブス) その他の標識を着用せずに参加することは認められない (TR5.8)。
- (f) 競技中にアスリートビブス (ビブス) が外れないように、競技者がアスリートビブス (ビブス) をユニフォームに結着する際、確実にかつ、脱落しにくく付けられているか、アスリートビブス (ビブス) の4隅のそれぞれ2ヶ所に安全ピンを通し競技中にアスリートビブス (ビブス) が外れないよう注意する。

また、競技中上着で腰ナンバー標識が隠れることのないように注意する。



⑤ 助力に係る所持品について (TR6)

携帯電話 (スマートフォン)、トランシーバーなどの通信機器やビデオ装置、携帯音楽プレイヤーも競技場内に持ち込むことが禁止されているので注意を促すこと。申合せ事項によって一時預かる場合もあるので注意する。

- (6) 招集所以降は、競技場所という扱いとなるので、競技開始前であらうと競技者以外の者は進入することは許されないので注意すること。
- (7) 「第1招集」「第2招集」と区別する必要はない。完了時刻に招集所に来ていれば問題ない。
- (8) 招集完了時刻に遅刻した競技者の扱い
必ず複数の者、ウォームアップ場係の協力を仰いで呼び出しを行い、遅刻を出さない努力をすること。定刻になっても招集に来ない場合は欠場扱いとしてスタートリストを流す。招集完了時刻以降に招集所に来た場合は招集所審判長の判断を仰ぐこと。招集所審判長をおかない場合は、総務の判断を仰ぐこと。

持ち込み禁止品の取り扱い

TR6「競技者に対する助力」の中で、ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバー、携帯電話（スマートフォン）やその他通信機能を備えた機器もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することを禁止している。特にフィールド内を着替えたり練習を繰り返すフィールド種目出場者に対する格段の配慮・注意が必要となる。

持ち込みを防ぐためにはいくつかの方策があるが、招集所付近にポスターを用意し、注意を促すのが効果的である。外国人競技者が出場する競技会ではイラストや写真で禁止品目を表示するとわかりやすい。

また、カバンの中の持ち物まで検査する必要はないが、全員が揃ったところで今一度注意を喚起しておく必要もある。学生が参加する競技会では、招集所付近まで同僚が付き添って来るのが常であるから、その人に預かってもらうように指示すべきである。

預ける関係者がいない場合は招集所で預かることになるが、その場合には保管場所の設置や預かり証の発行が必要となる。

また、携帯電話（スマートフォン）などではプライバシー保

護のために本人にロックをかけて貰ったり、封筒を用意して競技者本人の手により厳封してもら必要もでてくる。

万が一競技場内で発見された場合には、その場で回収して競技終了後に返却すべきであり、仮に使用していたとなれば、審判長により警告され、守らない場合には失格になることを勧告する。

お互いが気持ちよく競技に臨めるよう、マナーある参加を強く呼びかけたいものである。

役員係

1 任務

大会総務の直轄下で、以下の任務を担当する。

- (1) 競技役員、補助員の把握とその連絡
- (2) 競技役員の出欠整理、報告処理、公認審判員手帳の記入
- (3) 競技役員、補助員の食事、その他給与物の支給、休憩室の管理
- (4) 競技役員の集合解散の処置
- (5) 競技役員の服装のチェック

2 実施要領

- (1) 競技役員の受付場所において、競技運営要領、プログラム等を配布し、審判員手帳を提出させ、出欠を確認し、役員原簿に記入する。
- (2) 総務に競技役員の出欠状況を報告する。
- (3) 欠席した競技役員の補充については、総務、各係主任と協議する。
- (4) 競技役員の服装をチェックし、異装の者に対して注意を喚起する。
- (5) 競技役員の駐車場利用については、総務、総務員、駐車場係と連絡を取り、協力する。
- (6) 競技役員に食事、日当等を支給する。弁当については、空き箱、残飯等の回収・廃棄についても連絡し徹底する。
- (7) 競技役員の控室を確保し、管理する。
- (8) 補助員の扱いについて各係に依頼、協力を求める。
- (9) 雨天、荒天に備えて、競技役員用の貸し出し雨具を準備する。



3 留意点

- (1) あらかじめ競技役員に控室、任務につくときの出入経路を知らせる。
- (2) 競技終了後の措置について、あらかじめ連絡する。
- (3) 日当、雑費を交付するときは、交付要領を伝達しておく。

庶務係

1 任務

大会総務の直轄下で以下の任務を担当する。総務の片腕とも言える部署である。

- (1) 大会本部の開設運営をする。
- (2) 来賓，大会役員の接待をする。
- (3) 総務の担当する競技場施設の管理についての協力，および申込み文書，印鑑等の管理を行う。
- (4) 競技会収支を取り扱う。
- (5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の保管管理。
- (6) 役員係と協力して競技役員，その他の役員の弁当，支給物の受け渡しを行う。
- (7) 表彰資材の受け渡しを行う。
- (8) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を行う。
- (9) 対外関係者との交渉を行う。
- (10) 会議会場の設営をする。
- (11) 他の係に属さない事項を取り扱う。



庶務係の支給物受け渡し風景

特に規模の大きな競技会の場合は，会議場の手配，部屋や門の開閉，ADカードによる入場規制，警備，場内整備について会場管理係を設置し独立して任にあたらせることもある。

2 配置

担当別に班編成をする。

- (1) 来賓，大会役員の接待を担当（プロトコールが置かれる場合は，プロトコールと協力して）。
- (2) 競技役員，その他役員等の弁当，支給物の受け渡しを担当。
- (3) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を担当。
- (4) 競技会の収支を取り扱う担当。

(5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の担当。

3 実施要領

(1) 競技会申込原簿ならびに，関係書類を整理しておく。

(2) 競技会に必要な物品，消耗品等はあらかじめ各係主任と連絡をとっておく。

(3) 抗議申立書，用器具借り上げ（持ち込み）申請書，同時出場届け等，諸書式をあらかじめ用意する。

(4) 競技場管理者と連絡をとり，ゴミの回収について確認し各係に徹底を図る。



競技会に必要な物品貸し出し

マーシャル（Marshal：場内司令）

1 任務

- (1) 総務と協同して許可された者以外は競技場内（ウォームアップ場係と連携してウォームアップ場も）に立ち入らないように整理する（CR15）。
- (2) 場内の完全な統制権をもち、役員とその競技に出場する競技者あるいは入場が正式に許可されている者の他は、誰も場内に入場させない（CR26）。
- (3) 主催者と報道機関が予め打合せた撮影のエリアを守らせる。このほかラジオ、テレビ中継のためにアナウンサーや記者を場内に入れることもあるので、主催者側が発行するマーク（ビブス、ADカード等）を付け、一般役員と区別する必要がある。
- (4) 好記録が出たときなど、取材のために無制限に記者がトラック、フィールドに入る事態を予測して、あらかじめ打合せをしたエリアを守らせる。
- (5) 観客、その競技に関係ない者、競技役員、大会役員で直接競技の審判をしていない者などは、場内に入れない。
- (6) 競技が終了した競技者をミックスゾーン（退場口）へ速やかに誘導する。
- (7) マーシャルの担当するエリアはトラック、フィールド、借用している競技場内施設であって、観客席は直接関係ない。また、腕章を付けて任務を明瞭にする。
- (8) 良好な競技環境の確保。
 - ① スタートライン付近では、待機競技者のスタート練習の規制
 - ② スタート時の集団応援等の自粛要請
 - ③ フィールド競技では、助力となる行為への注意のコントロールおよび助走路がトラックと交差する個所の安全確保
 - ④ 許可なく競技場内に入ってくるコーチなどの規制
 - ⑤ 許可なく競技場所を離れる者の規制
 - ⑥ 報道関係者の規制

2 配置

トラック種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
スタートライン後方（待機競技者の混雑防止）	2	2	1	1
途中（競技実施重複度や傷害防止を考慮して）	1	1	1	
フィニッシュライン後方（退場経路の指示）	1	1	1	1
小 計	4	4	3	2
フィールド種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
跳躍助走路スタート地点付近，着地場所付近	4	4	2	
投てき各種目サークル付近，やり投スターティングライン付近，各種目角度線外（特にハンマー投）	1	1	1	
小 計	8	4	2	2
合 計	主任 1 12	主任 1 8	主任 1 5	主任 1 4

〔注〕フィールド種目においては競技実施重複度合いがはっきりしていないので，おおよその見当で人員を出してある。

3 実施要領

- (1) マーシャルの人数は競技会の規模の大きさ，競技実施重複度（特にフィールド競技）によって，増減をはからなければならない。軽快に動き，ルールや競技運営に熟知し，各方面に配慮できる人材をあてることが望ましい。全国的規模の大会では，13人程度は必要である。
- (2) 場内の統制方法は，あくまでも競技実施場所重点主義である。
- (3) マーシャルの役割分担
 - ① トラック，フィールド分割方式
 - ② 競技場をいくつかのエリアに分けるゲートを中心とする方式
 - ③ 競技の行われている場所とゲートを対象とする方式などがあるが，競技の行われている場所（区域）を重点的に統制すべきである。
- (4) 統制区域

トラック競技

 - ① 各スタートライン付近
 - ② フィニッシュラインおよび同延長線付近

- ③ 競技前スタートライン待機場所中心
- ④ 競技終了後の競技場外への退出経路（フィールドと共通）
- ⑤ 障害物競走が行われている時の水濠付近

フィールド競技

- ① 各競技実施場所付近
- ② 棒高跳の助走路，着地場所
- ③ 競走種目と重複のおそれのある区域（やり投，走高跳と競走種目の関係）競技の進行を確認しながら任務にあたる。競技日程では重なる予定はなくても，進行の遅れ等によっては重なる場合もある。
- ④ 投てき競技の投てき物落下区域

4 留意点

(1) 一般的な対応方法（相手の立場を思いやり丁寧な対応をする）
 マーシャルが注意しなければならない事項としてあげられるのは，対象が競技者，役員，監督，コーチ，観衆，報道関係者といった人であることから，親切丁寧に対応することである。過去の競技会において報道関係者と思わぬトラブルが起こったのも，そのほとんどが不適切な言行によるものである点に留意しなければならない。報道関係者もよりよい報道をするために仕事として取材しているので，運営側も競技運営に支障のない範囲で取材には協力することが必要である。したがって，行動を規制するときにはルールに従うこととお互いの立場を尊重して（してもらって），話し合うようにしなければならない。

(2) 競技場所を離脱する選手への対応

フィールド競技において，トラックを横切りトイレ，コーチとのコミュニケーションのため競技場所から離脱することについて，フィールド審判員と協力して試技順に影響が出ないように注意したい（TR6）。

また，審判員の許可を得ることなく，かつ伴わないで離脱した場合は警告の対象となり，悪質な場合は失格となるので注意する（TR25.19）。

助力に対しては，速やかにできるだけ穏便な方法で処置する。

(3) 取材協定方法

詳細については、報道系の項も参照されたい。また規制をするにあたっては、競技場の構造、競技会の規模、競技者のレベルに応じて、報道係、報道関係者および現場の審判員と協議のうえ、立入取材禁止区域（あるいは取材エリア）を設定するとよい。

（一般事項）

- ① トラック上からの撮影はしない。
- ② 夜間のフラッシュ使用の撮影は禁止する。
- ③ トラック種目の撮影は、第1レーン内側および第8（9）レーンの外側で、トラックの縁石からフィールド内は1m以上離れる。スタート地点の前後10m以上離れる。
- ④ フィニッシュラインは、取材エリア以外の場所は禁止する。
- ⑤ 特に競技役員から要請のあった場所（例：曲走路などスターター、リコーラーの立つ位置、監察員が監察するのに支障をきたす箇所など）は禁止。
- ⑥ 競技場内練習時の注意喚起（フィールド審判員と協力して）。フィールド競技者と競技役員、報道関係者、トラック競技者との衝突防止。
- ⑦ フィールド競技は、正面からの撮影は競技運営上および危険予防のため禁止。競技の撮影は取材エリアから内側に入らない。
- ⑧ 投てき競技で風の影響で投てき物が流れる危険がある場所は、エリアを多少ずらす。砲丸投以外の競技のエリアは非常に広範囲であるので投てき物の行方には特に注意する。また、トラックから助走するやり投競技者（特に走者とやりの接触）について注意。
- ⑨ 競技者更衣室、シャワー室、および記録室や競技役員控室での取材は禁止する。

ウォームアップ場係

1 任務

- (1) すべての競技者が競技に臨む前に、安全に秩序ある練習が十分できるように場所を確保する。
- (2) 競技者係と連携し、競技者が招集場所にスムーズに移動できるようにする。

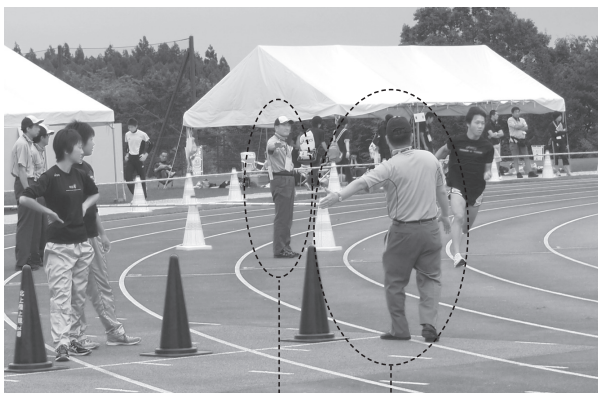
2 実施要領

- (1) ウォームアップ場のコンディションの保持・管理。
- (2) 秩序ある練習法，ならびに危険防止。
- (3) 練習に必要な器具，器材を確保する。

3 留意点

- (1) ウォームアップ場に入出りできる者について、競技注意事項に明記する。競技会の規模によっては、報道関係者，AD を持たないチームメイトも規制を受けることがある。
- (2) 定められた練習日程やトラックのレーン割り当てを守らせる。
- (3) 雨天，荒天時の対策と対応。
- (4) 競走路，助走路，投てき場の使用方法について，危険防止について周知徹底する。

審判員（ウォームアップ場係）



インフィールド内への
横断を調整する役員

曲走路と直走路の交差付近に立ち、
競技者同士の接触を注意している

- (5) 本部との連絡手段、競技者への招集時刻の連絡手段を確保する。
- (6) 競技者係と協力して、**ウォームアップ場掲示板と係控室**
競技者の招集時刻厳守を呼びかける。

また、ウォームアップ場でも準決勝、決勝進出者の掲示を行うことに協力する。



ウォームアップ場におけるレーン割り当ての例

(直走路8レーン，曲走路6レーン)

〈曲走路〉

1～2レーン：周回，タイムトライアル用

3～4レーン：流し，バトンパス用

5～6レーン：400mH用

〈直走路〉

1～2レーン：周回，タイムトライアル用

3～5レーン：流し，スタートダッシュ用

6～8レーン：ハードル用

レーンの割り当て



* 競技日程に応じ、特にハードル種目、リレー競技等が行われる場合に出場する選手がウォームアップを行う時間帯には集中するので、ハードルやバトンパスの練習に使用できるレーンをその時間帯に限って増やすなどして対応する方法もある。

ハードルのレーン
を増設した例



風力計測員

1 任務

- (1) TR17, TR29 の規程に基づいて風向風速計を設置する。
- (2) 当該競技における風向および風速を測定し、それを記録する。
その結果に署名した後、記録・情報処理員に報告する。
- (3) 競技進行中の気象状況についても観測する。

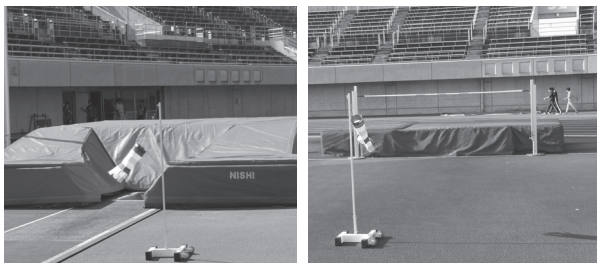
2 配置

- (1)トラック競技の場合、風向風速計は直走路の第1レーンに隣接して、フィニッシュラインから50mの地点で、第1レーンから2m以内に設置する。



- (2) 走幅跳、三段跳において風向風速計は踏切板から20m、助走路から2m以内の位置に設置する。
- (3) 風向風速計を設置する高さは、地上から1m220とする。
- (4) 計測員の配置は、当該競技の運営に支障のない位置で、かつ風向風速計に影響を与えない位置とする。風向風速の表示板は、当該競技の記録速報板と並んで見やすいところに配置することが望ましい。
- (5) 競技者がおおよその風向と風速を知ることができるように、すべての跳躍競技と円盤投・やり投においては、適切な場所に1つ以上の吹流し状のものを置く。砲丸投、ハンマー投では不要である。

吹流しを置いた例



3 実施要領

(1) 観測，計測の結果は次の各係に連絡する。

- ① トラック競技 記録・情報処理員
- ② フィールド競技 跳躍審判員記録担当
- ③ 定時観測 記録・情報処理員，アナウンサー

(2) 新記録が出た場合，気象状況，風向風速の確認と証明を行う。

(3) 風向風速の計測時間

トラック競技

200mまでの種目を計測する。

200mを除く種目では，スタートと同時に計測するが，200mにおいては，先頭の走者が直走路に入った時から10秒間計測する。

60m	5秒間
100m, 200m	10秒間
100mH, 110mH	13秒間

フィールド競技

走幅跳では踏切板から40m，三段跳では踏切板から35m離れた地点にマーカーを設置し，競技者がそのマーカーを通過したときから計測するが，これよりも助走距離が短い場合，助走を開始した時から計る。

走幅跳・三段跳	5秒間
---------	-----

4 留意点

(1) 主任は，計測器が正確に設置されているか，作動するかどうか

を点検する。

- (2) 記録の公認という観点から、風力速報表示器を利用して風力の記録を表示する。
- (3) 機械式の風速計の場合は追い風 (+)、向かい風 (-) の方向に注意する。

デジタル風力計

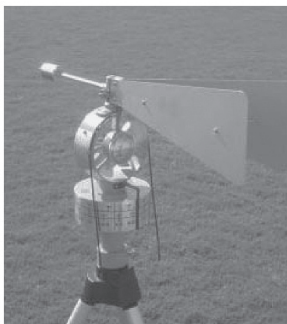
トラック内側ホームストレートフィニッシュラインから50m地点に配置したところ



- (4) アナログ式 (中浅式) の場合は、メーターの目盛りの移動量と同時に、測定時間内に振れた角度も同時に観測し、風速換算表で走路 (助走路) 方向の分速になおす。

- ・方位磁石で東西南北を合わせる
- ・矢羽根の下、中央が風力計
- ・両側のひもは風力計のメーターのロックスイッチ

中浅式風向風速計



- (5) 定時気象状況の観測は、通常、正時 (00分) に行う。慣例として競技開始時の気象状況も測定し発表している。
- (6) 定時気象状況の観測場所は競技場中央部ホームストレート側で第1レーンから2m以内に設置する。トラック競技の風力測定場所と違うので注意する。

また、風力の測定は気象学的には10分間の空気の移動量と定義されているが、陸上競技場では簡略化して、3分20秒 (200秒) 間測定し、秒速に換算するのを標準とする。

- (7) 乾湿計は地上から1m500の高さに設置する。競技場の気温湿度を代表すると思われる場所（ホームストレート中央付近のスタンド下など日陰の部分が望ましい）で観測する。

測定値の有効数字については、使用する機器の精度に応じて読み取る単位を決める（0.1度単位でも0.5度単位でもかまわない）。



A, Bピット並行して設置されている例

超音波風向風速計



風速計の故障

多人数が参加する走幅跳や三段跳では2つのピットを用いて同時に予選を行うケースがあり、最近の国内競技会では2ピット同時進行で決勝を行う例も少なくない。当然跳躍審判員と風力計測員も2班編成にする必要がある。そんなとき風向風速計が故障して、予備の計器もないとなったらどうすべきであろうか？

当然2ピットを交互に跳躍させ、それぞれの風力を計測すべきなのだが、問題はその計器の設置場所である。たとえばトラック側が故障した場合、スタンド側においてある計器からトラック側の助走路まで2m以上離れてしまうため公認記録とならなくなってしまうのである。TR29.11で助走路から2m以内に設置することになっているので、2つの助走路の中間に置く必要がある。

ただし、電源からコードをどのように引いてくるかは工夫が必要である。延長コードが十分にあれば助走路の後方から回してこくことも可能であろうが、それができない場合、走高跳のスタンドを利用して助走路の上を通して2ピットの間で計測したという報告もある。

